

この「履修案内」は2004年度の商学部第3学年および第4学年生に対して、履修の方法、手続き、講義内容、実際に適用される学則の「運用」等について解説したものです。

学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を決定し、指定された日時に必ず履修申告を行ってください。履修申告後の履修授業科目の変更は認められません。本案内を読んで疑問な点があれば学事センター商学部係または以下の学習指導に問い合わせてください。

学習指導主任 助教授 平野 隆 研究室 435号室（内線 23185）
e-mail : hirano@fbc.keio.ac.jp

学習指導副主任 助教授 牛島 利明 研究室 418号室（内線 23168）
e-mail : ushijima@fbc.keio.ac.jp

学習指導に相談のある場合には、メールまたは内線電話にてアポイントをとること。留守番電話の場合には、連絡先電話番号、連絡のとれる時間、相談内容の概略をメッセージとして残しておくこと。

目 次

商学部の基本理念	3
専攻課程に学ぶ諸君へ	4
三田における勉強とカリキュラムの特徴	5
平成 16 年度（2004 年度）学事関連スケジュール	7
一般注意事項	8
履修申告のしかた	16
履修要項	23
講義要綱・シラバス	41
教職課程	107
言語文化研究所特殊講座	108
メディア・コミュニケーション研究所	110
外国語教育研究センター設置講座	127
情報処理教育室設置講座	130
国際センター夏季講座	133
国際センター設置講座	135
体育研究所設置講座	166
知的資産センター設置講座	174

商学部の基本理念

本学部は、福沢諭吉の実学の精神を「商学」の分野において継承し、現代社会の進歩と変革に対応して、つねに新鮮にして活力のある学部であることをめざす。

1. 本学部は、広い視野と創造的思考をもって、現代の産業社会を商学の理論と実証を通して把握し、その方向を洞察することを、研究と教育の基本とする。
2. 教育にあたっては、経済社会現象に対する自主的関心と豊かな発想をもってつねに新しい課題に取り組み、体得した科学的方法と商学の専門知識を積極的に問題解決に適用できる人材の育成をめざす。
3. 本学部は、このような知的教育にとどまらず、教員と学生の人間的接触を重視し、個性の伸長をはかり、意欲的で国際性豊かな、活力ある人間の形成をめざす。
4. 「商学」の核を、経営学・会計学・商業学・経済学および産業経済論とする。
5. 本学部は、これらの実現のために、独自の研究教育体制とカリキュラムの有機的編成をはかる。

専攻課程に学ぶ諸君へ

2年間の日吉での課程を終えた諸君は、これからいよいよ商学部の専門科目を履修することになる。商学部では従来から日吉と三田での教育の連続性と一貫性という点を考慮してカリキュラムの編成を行い、何度かの改定をも試みてきた。こうした改定の結果、日吉のカリキュラムにおいても専門科目の基礎や入門的な科目が設置され、また三田にも教養科目に属するものが設けられている。

こうしたカリキュラム編成が試みられているのは、商学部の教育目的として、諸君らが幅広い知識と教養をそなえ、次代を担う知識人になってほしいという願いがあることと、一方で諸君らにできるだけ早く商学部の主要な学問分野の内容に接してもらい、商学部がどのような研究教育をする学部であるのかを理解する糸口になればという意図からである。また三田におかれている教養科目についても同様の趣旨をもっており、三田で専門的な分野を学んでゆくなかで、基礎的な分野の学習の必要性を改めて認識した諸君のために履修可能なようにという意味から設けられている。

こうした三田、日吉の教育の連続性と一貫性を考慮に入れたカリキュラムではあるが、その中心をなしているのが商学であり、それは商業学、会計学、経営学の3分野から構成されている。しかし、こうした3つの専門分野についての学習をし、各々の分野についてその内容を理解するためには、産業・経済についての知識が当然のことながら必要とされる。そのために商業学、会計学、経営学の3分野に加え、産業・経済分野を合わせた4つの専門分野が商学部の専攻課程の中核にあるものと考え、それらがその他関連分野と有機的・体系的に組み合わせられたものこそが、商学部のカリキュラムの特徴である。諸君にはカリキュラム編成の意図を十分に理解し、広い視点から自らの問題発見と分析を深化させてほしいものと期待している。

とくに、近年のわれわれの存在する経済社会は激しく変化しており、社会からの大学や諸君へのニーズが変化する兆しを見せつつある。こうした状況のもとで、大学生生活の後半である2年間の専攻課程をどう過ごすかということが、従来にも増して重要になってきているといえよう。三田での最初の1年間に、すでに述べたように、できるだけ幅広い視野を身につけ、そうした視点から社会で起こっている諸問題を見据え、深く分析してゆくという努力がなされなければならないといえる。時代の変化は、既存知識の適応能力の限界を示し、新たな知識の構築を要請してくるようになるであろう。そのためには現実や既存の知識や社会の仕組みを批判的に検討しうるような姿勢を作る努力が必要になってくるといえる。

三田での2年間の生活のなかで、諸君らの自信の視点、考え方を確立し、そのような立場から多様な社会問題を分析するような努力をされ、次代を担う豊かな知識人に成長されんことを願ってやまない。

学部長 桜本 光

三田における勉強とカリキュラムの特徴

商学部のカリキュラムの特徴は、①学生が自分で問題を発見し、より深くそれを探究できるように、学生の自主性、オリジナリティを重視していること、②基礎からより高度なものへと段階を踏んで学習できるように編成されていること、③多岐にわたる研究領域のスタッフを揃え、広い分野にわたって講座が均整をもって設置されていること、そして、④外国語と数学・統計学および情報処理関係の教育にかなりの比重をおいていることが挙げられます。

諸君は、日吉キャンパスでの2年間で、すでにこれらの特徴を実感し、着実に学力の幅を広げてきたことと思います。これからは、いよいよ、三田キャンパスでの2年間を通じて、学力を深化させ、そして問題を発見し、それを解決する経験を積みましょう。

商学部の専攻分野のコアは、①経営、②会計、③商業、④経済・産業の4分野からなり、さらに、経済・産業は、国際経済、計量経済、金融・保険、産業・交通、労働・社会、産業史・経営史から構成されています。諸君は、三田での2年間、これら専攻分野に属する科目から、幅広く履修科目を選択し、知識を広げ、解決方法の代替案を多く探索できる能力を持つ——すなわちジェネラリストを目指すこともできますし、また、特定の分野に焦点を当て、その分野の科目を集中して履修することにより、自己の専門分野を持つ——すなわちスペシャリストを目指すという選択もできます。ただし、問題発見能力や解決能力を身につけるためには、複数の専攻分野の知識を蓄えることが有益です。

また、各専攻分野のカリキュラムは、すべて総論科目と各論科目から構成されています。総論科目は、その名の通り、より基礎的かつ概論的な科目で、原則として毎年設置され通年講義で行われていますが、春学期に週2コマの集中講義の形態を採る科目もあります。他方、各論的科目は、より専門的あるいは特別なテーマを講義する科目で、中には隔年で設置される科目もあります。したがって、履修の要領は、①段階を踏んだ学習のためには総論科目と各論科目のセットで選択すること、②各論科目については、第3学年と第4学年の2年間で履修したい科目の計画を立てることが肝要です。

ところで、本文冒頭でも述べたように、商学部では、外国語や数学、情報処理の教育を重視しています。そこで、三田キャンパスでも外国語や情報処理の鍛錬を継続できるように、あるいは応用数学の知識を増やすために、それらの講座が用意されていますので活用しましょう。卒業を目前にし、社会人の仲間入りを自覚する頃になると、日吉キャンパスでの2年間に数多くの講座が設置されていた自然科学や人文・社会科学の知識をより充実させておくべきだったという反省をよく聞きます。その為に三田キャンパスでもそれら総合教育科目に属する講座を幾つか設置してありますので、履修することを考慮してみてください。

「研究会」については若干後述しますが、研究会に所属しない（できなかった）学生諸君は、「外書演習」・「外国語特殊」・「専門演習」を重視しましょう。少人数のクラスで教員との質疑応答も大いに期待でき、研究会の先生に準じるような親しい教授を見つかることができるかもしれません。

詳細は後述しますが、商学部の卒業に必要な単位数128単位は、他の学部比べて少ないと思います。しかし、これは、最低の単位数であって、1年間で履修できる上限50単位を4倍すれば、合計200単位まで4年間で履修できます。三田キャンパスに限っても100単位まで履修できるのですから、思う存分履修し勉強してください。自主選択科目として20単位を認めたことや少ない卒業単位数である真の意味は、諸君が自主性をより発揮する為なのです。

以上の基本方針のもとに履修案を作成しましょう。なお、履修申告の際には、手続きに誤りがないよう充分注意してください。具体的な注意点は、履修案内の該当事項を参照していただきたいのですが、とくに重要な幾つかの点を箇条書きにしてみます。

1. 卒業に必要な単位数は、4学年を通じて、合計128単位です。そのうち、第3・第4学年で履修し合格しなければならないのは、必修・選択科目あわせて58単位（但し、平成13年度以前の入学者で第1・第2学年で68単位もしくは69単位を修得し、三田に上ってきた者を除く）です。

2. 専攻科目については、4学年を通じて、Ⅰ類からⅣ類まで合計58単位以上合格しなければなりません。

その場合、専攻科目Ⅲ類を2単位以上、専攻科目Ⅲ類とⅣ類をあわせて46単位以上を履修し合格する必要があります。専攻科目Ⅳ類には、関連科目を8単位まで専攻科目Ⅳ類に含めることができます。関連科目の範囲、履修の際の手

続きの注意について、履修案内の該当箇所をよく参照してください。

3. 各学年における履修単位数の最高限度は 50 単位（自由科目を除く）です。

4. 第 3・第 4 学年において履修し合格した授業科目のうち 12 単位まで、自主選択科目として進級および卒業所要単位にカウントされます。

なお、自主選択としての履修は、他学部設置の科目からも選択できます。詳細は自主選択科目に関する注意事項を参照してください。

5. 第 3 学年において合計 12 単位以上を履修し合格しないと第 4 学年に進級できません。また、第 4 学年においても 12 単位以上を履修し合格しないと卒業できません。なお、カウントされる科目の範囲が限定されていますので注意してください。

6. 研究会は、専攻科目のなかでもとくに特徴のある科目です。人数の制約から希望者全員が履修できるとはかぎりませんが、志望者は各研究会の行うゼミ入会選考を受けて入会許可をうけることとなります。履修申告は第 3・第 4 学年それぞれ行う必要がありますが、可否の判定は第 4 学年終了時に一括して行われ、合格すると 8 単位が付きます。したがって、履修可能上限 50 単位および履修合格必要下限 12 単位の条件に関して、研究会の 8 単位はすべて第 4 学年においてカウントされます。

7. 重複履修は原則としてできませんが、外国語については、科目名が同一でも担当者が異なる場合あるいは科目名および担当者が同一でも内容が異なる場合に、自主選択科目として再度履修ができる場合があります。詳細は重複履修に関する注意事項を参照してください。

なお、学士入学者については上記とは若干異なる規定がありますので注意してください。

履修案内に関し、疑問・不明な点があれば、学習指導または学事センター商学部係まで問い合わせてください。

時代の多様化に対応したカリキュラムの長所を生かし、各自が有意義な学生生活を送り、日吉で身につけた幅広い視野や基礎知識の上に、専門的知識や問題発見能力・解決能力の研鑽を積まれることを望んでやみません。

商学部学習指導主任（三田）

平 野 隆

平成 16 年度（2004 年度）学事関連スケジュール

商学部履修案内等資料配布	第 3 学年 4 月 1 日（木） 第 4 学年 4 月 2 日（金）	10時～14時 123番教室 (11:30～12:30を除く)
成績証明書発行	4 月 1 日（木）	12時30分～
情報処理教育室ガイダンス	4 月 2 日（金）	10時45分 513番教室
国際センター夏季講座ガイダンス	4 月 5 日（月）	14時 133番教室
教職課程ガイダンス（既登録者）	4 月 5 日（月）	13時 533番教室
〃（新規登録者）	4 月 5 日（月）	13時 531番教室
〃（来年度実習予定者）	4 月 5 日（月）	15時 528番教室
教育実習事前指導 I（今年度実習予定者）	4 月 5 日（月）	15時 533番教室
商学部第 3 学年ガイダンス	4 月 5 日（月）	10時 531番教室
外国語教育研究センターガイダンス	4 月 5 日（月）	12時20分 533番教室
体育研究所ガイダンス	4 月 5 日（月）	10時45分・16時30分 519番教室
学事 Web システムパスワード変更締切	4 月 7 日（水）	16時 学事センター
春学期授業開始	4 月 8 日（木）	
履修申告用紙配布日	4 月 12 日（月） 13 日（火）	8時30分～18時10分 学事センター
Webによる履修申告期間	4 月 15 日（木）	10時～4月17日（土）11時
履修申告用紙による履修申告日	4 月 16 日（金）	8 時30分～18時10分 学事センター前受付ボックス
開 校 記 念 日（休講）	※ 4 月 23 日（金）	
授業料納入期限（全納または春学期分納）	4 月 30 日（金）	
履修申告科目確認表送付（本人宛）	5 月上旬（掲示を出します）	
履修申告修正受付	5 月 6 日（木）～10日（月）（予定）	
4 年生用卒業見込等証明書発行	5 月 6 日（木）以降	
春学期末試験 時間割発表	7 月上旬（掲示を出します）	
春学期授業終了	7 月 14 日（水）	
春学期補講日	7 月 15 日（木）～16日（金）	
春学期末試験	7 月 17 日（土）～27日（火）	
春学期末追加試験申込受付	7 月中（掲示を出します）	
春学期末追加試験	8 月 5 日（木）～6日（金）	
夏 季 休 業 （三田キャンパス一斉休業）	7 月 28 日（水）～9月21日（火） （※ 8 月中（予定））	
春学期学業成績表送付（保証人宛）	9 月中旬	
ガイダンス期間（対象：法学部 9 月進級者のみ）	9 月 22 日（水）～24日（金）	
秋学期授業開始	9 月 25 日（土）	
授業料納入期限（秋学期分納）	10 月 29 日（金）	
秋学期補講日(1)	11 月 18 日（木）午前	
三 田 祭（準備・本祭・片付けを含む）（休講）	11 月 18 日（木）午後～11月24日（水）	
休学願提出期限（今年度分）	11 月 30 日（火）	
冬 季 休 業 （三田キャンパス一斉休業）	12 月 23 日（木）～1月5日（水） （※ 12 月下旬～1月上旬（予定））	
授 業 開 始	1 月 6 日（木）	
福澤先生誕生記念日（休講）	※ 1 月 10 日（月）	
秋学期月曜代替講義日	1 月 11 日（火）	
秋学期末試験 時間割発表	1 月上旬（掲示を出します）	
秋学期授業終了	1 月 19 日（水）	
秋学期補講日(2)	1 月 20 日（木）～21日（金）	
秋学期末試験	1 月 22 日（土）～2月4日（金）	
秋学期末追加試験申込受付	1 月中（掲示を出します）	
福澤先生生日	2 月 3 日（木）	
春 季 休 業	2 月上旬～3月下旬	
入 学 試 験	2 月上・中旬	
秋学期末追加試験	2 月下旬（予定）	
卒業生氏名発表	3 月 10 日（木）	
学業成績表送付（保証人宛）	3 月中旬	
卒 業 式	3 月 23 日（水）	

（注 1）※印の期間には学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。

（注 2）事情により日程・教室は変更があり得るので、掲示板等に注意してください。変更がある場合は、掲示板への掲示が優先します。

一般注意事項

I 学生証(身分証明書)

1. 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真(縦4cm、横3cm、カラー光沢仕上げ)1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により、当日発行できないこともありますのでご了承ください。学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料2,000円が必要です。
4. 返却
再交付を受けた後、前の学生証がみつかった場合、および退学・卒業などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

II 掲示板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて西校舎正面入口の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が非常な不利益をこうむることもあります。
なお、他学部設置科目を履修した場合はその科目を設置している学部の掲示板を、他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を見てください。諸研究所、各種センター設置科目・講座等については、共通掲示板にも注意してください。
2. 主な掲示事項
授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各種試験の実施要項、学事日程、呼出し等。
休講・補講、呼出しについては、インターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話(i-modeのみ)により学事Webシステムにおいても確認できます。(21ページを参照してください。)
また、定期試験時間割、その他掲示の一部は塾生ページ(<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>)でも確認できます。
3. 研究会に関する掲示は、501番教室後方入口前の掲示板を利用してください。

III 試験・レポート等

定期試験はもとよりレポート・授業中に行われる小テストにおいても、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には、不正行為とみなされ学則第188条により厳しく処分されます。このようなことが絶対ないように学生諸君の自戒を強く要望します。

1. 定期試験

定期試験は、学期末に行われます。

春学期末：7月17日(土)～27日(火)実施(春学期に終了する科目および通年科目の中間試験を対象とし、約2週間)

秋学期末：1月22日(土)～2月4日(金)実施(秋学期に終了する科目および通年科目を対象とし、約2週間)

試験時間割や注意事項は、掲示により発表します。

試験に関する注意事項

- ① 定期試験の振鈴時間は、三田と日吉で異なりますので注意してください。
- ② 受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。
- ③ 答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。
- ④ **学生証を必ず携帯し、提示してください。**
- ⑤ 試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証(発行日当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可)の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。
- ⑥ 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- ⑦ 仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。
- ⑧ 答案用紙の担当者及び科目名並びに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がない場合、成績はつきません。
- ⑨ 試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるもの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのかは、本人の判断に依ります。電車遅延等により遅刻を

しても試験開始 20 分以内で入室した場合は追加試験の対象とはなりません。また、試験時間の延長もありません。

⑩ 試験開始後の体調不良などの場合で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2. 平常試験

随時授業時間内に行われます。

3. 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等、やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった授業科目に対して行うものです。ただし、外国語科目、演習科目、体育実技、その他定期試験を行わず、レポート等により評価の定まる科目、ならびに研究会については行いません。

他学部設置の授業科目を履修した場合、その実施の有無を含めて取り扱いは当該学部の方針によります。他学部が設置主体である併設科目についてもこれに準じます。

なお、日吉の定期試験と時間割が重複して受験できなかった人、および医師の診断書（加療期間の明記されたもの）、または保証人・公的機関の発行する事故理由等を添えて申し込んだ人のみ対象とします。ただし、診断書以外の書類しかない場合は、厳密な面接審査のうえ追加試験の可否を判断します。詳細は、試験時間割発表の際に掲示します。

日吉において履修した授業科目の追加試験の申請は、所定の手続きを日吉で行う必要があります。なお試験場は原則として日吉になります。

以上の手続きを怠って試験を受けても無効です。

なお、定期試験期間中、当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験が認められません。

4. 再試験

商学部学生に対してはその履修する科目が商学部・他学部いずれの設置科目であっても再試験は行いません。

5. レポート

三田では、レポートが最終試験と同様に取り扱われますので、提出にあたっては次の手続きを厳守してください。

(1) 指定された日時に、指定された場所に提出してください。特に学事センター窓口では、指定日時以外は一切受けませんので掲示で確認してください。

学事センターレポートボックス受付時間

1. 授業期間中

平 日…… 8 時 30 分～18 時 10 分

土曜日…… 8 時 30 分～11 時 30 分、12 時 30 分～14 時

※授業期間中であっても都合により閉室することがあります。

2. 休業期間中

平 日…… 8 時 30 分～11 時 30 分、12 時 30 分～16 時

土曜日…… 8 時 30 分～11 時 30 分、12 時 30 分～14 時

※その他の事務取り扱い時間については 11 ページも参照してください。

(2) 学事センター窓口への提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2 枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2 枚とも）。レポート提出用紙は学事センターと西校舎内の掲示板前に備えてあります。

(3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

6. 成績通知

成績結果を記載した学業成績表は、保証人宛に郵送されますが、春学期終了科目については 9 月中旬に、通年科目や秋学期終了科目も含めた当該年度最終の学業成績表については 3 月中旬に発送となります。

なお、取得した科目の成績が成績証明書に記載される時期は、翌年度の 4 月以降となります。

IV 諸 届

以下の事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・就学届・退学届

「病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができる」（学則 152 条）。本年度休学希望者は、11 月末日までに学習指導主任と面接し、休学願用紙に承認印をうけたうえで学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末（3 月 31 日）までとします。休学が次の年度に及ぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。休学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学をしていた場合にはあわせて医師の診断書を提出してください。

なお、休学者が休学許可を受ける前に修得した当該年度の科目について、申し出のあった場合は、自由科目に限り振り替えます。この場合、就学後再履修することは認められません。希望者は休学願提出時に窓口にて問い合わせてください。

退学予定者は、退学届に本人・保証人の署名捺印の上、学生証を添えて学事センター窓口へ提出しなければなりません。

2. 留 学

「本大学が教育上有益と認めるときは、休学することなく外国の大学に留学することを許可することがある」(学則 153 条)。留学に関する手続き(国外留学申請書の提出)はあらかじめ学事センターで相談・確認の上、所定の手続きをしてください。学習指導主任との面接を含めて、遅くとも出発の1ヶ月前には済ませてください。なお、商学部での留学に関する取り扱いについては、38 ページを参照してください。

3. 住所変更届(本人、保証人)、保証人変更届、改姓(名)届

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センター窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵便および電話による届け出は受け付けません。

必要書類(所定用紙は学事センターにあります)

- 住所変更届: 在学カード
- 保証人変更届: 変更届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 保証人住民票
- 改姓(名)届: 改姓(名)届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 戸籍抄本, 学生証再交付願

また、学生総合センター学生課に提出する「学生カード」に新住所等を記入しても、正式な届とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

V 各種証明書

証明書の発行、申し込み、受け取りいずれの場合でも学生証が必要です。

授業料が未納の場合、すべての証明書が発行できません。

1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書(和文)

※料金は改定されることがあります。

在学証明書	1 通 200 円
成績証明書(4月1日12時30分～)	
卒業見込証明書(5月6日～)	
履修科目証明書(6月1日～)	
卒業見込証明付成績証明書(5月6日～)	1 通 400 円
学割証(JR各社共通)	無料
健康診断証明書(6月中旬～年度内)	1 通 200 円

注① 稼働時間

学事センター事務室内発行機: 学事センター事務取り扱い時間内

南校舎1階設置発行機: 9時～20時[休日および大学休業日は除く]

メンテナンス、故障等により、証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し、あらかじめ早めに準備してください。

- ② 学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内(有効期限内でも離籍した場合は無効)。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。
- ③ 各種証明書等で厳封を必要とする場合には、学事センターに申し出てください。(自動発行機で発行した証明書は厳封できません。)
- ④ 健康診断証明書は6月中旬以降、定期診断受診者を対象に発行されます。

なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、保健管理センター三田分室受付に相談してください。

2. 学事センター窓口で即時発行する証明書(英文)

※いずれも1通200円。(料金は改定されることがあります。)

- (1) 英文在学証明書(4月1日12時30分～)
- (2) 英文卒業見込証明書(5月6日～)
- (3) 英文成績証明書(4月1日12時30分～)

3. 学事センター窓口で申し込み、日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等(例:司法試験用単位取得証明書, 公認会計士用証明書, 英文履修科目証明書, 他大学院受験等のための形式指定の調査書等)の発行に関しては、余裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお、交付には和文書類は申請後標準3日、英文書類は申請後標準1週間日数を要します。

VI 教室使用申請について

1. 受付窓口

利用者により、受付窓口が異なりますのでご注意ください。

	利 用 者		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	学事センター	学生総合センター学生課	管財部管財課
休業期間	学事センター	使用できません	管財部管財課

2. 授業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。
 - (2) 学生団体の場合は、学生総合センター学生課窓口にて「学内集会届」を提出してください。
 - (3) 申請は使用予定日の2週間前から4日前まで受け付けます（注）。ただし、日曜・祝日・義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として申請を受け付けません。
 - (4) 「集会許可証」は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生課の窓口でお受け取りください。
 - (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。
- （注）日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた4日前とします。

2. 休業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（4枚複写の4枚とも）に研究会担当教員の印またはサインが必要となります。
 - (2) 学生団体は原則として、使用できません。
 - (3) 申請は使用予定日の4日前まで受け付けます（注）。ただし、大学事務の休業期間中（8月中旬および年末年始）は原則として申請を受け付けません。
 - (4) 「集会許可証」は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生課の窓口でお受け取りください。
 - (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。
- （注）日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた4日前とします。

VII 学事センターの窓口

1. 学事センター事務取り扱い時間

- (1) 授業期間中は次のとおり取り扱います。

平 日……8時30分～18時10分

（なお、各学部・研究科に関する相談・問い合わせは、次の時間帯でお願いします。）

8時30分～16時30分

土曜日……8時30分～11時30分、12時30分～14時

- (2) 休業期間中は次のとおり取り扱います。

平 日……8時30分～11時30分、12時30分～16時

土曜日……8時30分～11時30分、12時30分～14時

※事務取り扱い時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

2. 窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申し込み
- (6) 休学願・留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（和文はおもに証明書自動発行機）
- (9) 公認会計士・司法試験等受験のための単位取得証明書の発行
- (10) 教室に関すること（ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生課で行います）
- (11) 通学証明書の発行

落とし物、学生カード提出は学生総合センター学生課が取り扱います。

卒業後の成績・卒業証明書等の申込・発行は、塾員センター（北館3階）が取り扱います。

VIII 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

- 専門科目担当専任教員（教授・助教授・専任講師・助手）……研究室（三田研究室棟）
- 日吉専任教員及び塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

IX 学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養を担当する学生課、奨学金および学生健康保険互助組合を担当する厚生課、就職進路指導を行う就職課があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

学 生 課

○教室等の使用申し込み受付

公認学生団体が会合のために教室を使用したい時は、使用希望日の4日前（休日を除く）までに申し込んでください。休日・試験期間中・休業期間中の使用はできません。（「VI 教室使用申請について」も参照）

使用できる時間は次の通りです。

平 日 9:00～18:00（ただし、第一校舎は20:00まで）

土曜日 9:00～18:00（全校舎）

音楽団体指定時間

平 日 18:00～20:00

土曜日 13:00～18:00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室A・Bと音楽練習室がありますので、使用したい場合は学生課に問い合わせてください。

○山食・西校舎学生食堂ホール・北館学生食堂の使用申し込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食や生協食堂・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生課に使用申し込みをし、予約してください。さらに、予約後1週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合は予約は取り消されますので注意してください。なお日曜日・祝日は利用できません。

○学外行事届の受付

公認学生団体や研究会で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前までに届け出てください（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。

合宿等で団体割引が必要な場合についても学生課で受け付けています。

○組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続を行うことはできません。公認申請の詳細については学生課に各自で問い合わせをしてください。

○学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生課に届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

○備品使用申請の受付

学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前までに申請してください。

○郵便物の取り扱い

外部から送付される各学生団体宛の郵便物は、学生課備え付けのメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

○車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむをえず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前までに申請してください。

○学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人の利用ができます。開室時間は8:45～21:00です。室内での飲食はできません。

○伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。

○そ の 他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生課の窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生課の受付窓口で取り扱っています。

厚生課

○奨学金

厚生課窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

●慶應義塾大学奨学金〔給費〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

●日本学生支援機構（旧日本育英会）奨学金

4月中旬に出願受付を行います。第1種（無利子）と1999年度から設置された、第2種（きぼう21プラン）（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（無利子）・応急採用（有利子）があります。

●地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

●指定寄附奨学金（給費）

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

○奨学融資制度（奨学金付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借入れに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は厚生課窓口までお問い合わせください。

○学生健康保険互助組合

保険証を使用し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付方法は銀行振込となりますので、口座の届出をしてください。受領口座が未登録の場合には、給付金は振り込まれません。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を厚生課へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

厚生課に置いてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄を各自記入して、厚生課へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効になります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの設置などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」（学生総合センターにも置いてあります）をご参照ください。

就職課

就職課は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG名簿などを、南校舎地下1階の就職課事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職課のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるディスカッションなどを開催しています。こうした催しはビデオテープに収録し、後日貸し出しも行っていきます。

就職課は就職活動の進め方を解説した「就職ガイドブック」を作成し、3年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職課を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活の中で当面するさまざまな問題や悩みについての個別の相談に応じています。それと共に、小集団の中で自己をみることで自己成長を促す「サイコドラマ」や「エンカウンター・グループ」の行事も行っています（このスケジュールは相談室に問い合わせてください。）

相談内容に関しては、それがいかなる種類のものであっても、個人の秘密を厳守しますし、すべては来談者とカウンセラーの間のこととして扱われますので、気軽に相談に来てください。

各課窓口取り扱い時間

—学生課・厚生課・就職課—

平日……8時30分～16時20分

土曜日……8時30分～14時20分

※都合により閉室することがあります。

—学生相談室—

平 日…… 9時30分～16時30分

土 曜…… 9時30分～14時30分

昼休み……11時30分～12時30分

学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

① 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。

ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

② 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④ 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生課で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるため、ゼミ合宿を学外で行う場合、および学内学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生課窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は、(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に、「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先 (株)慶應学術事業会 Tel. 03-3453-6098

慶應生活協同組合 Tel. 045-563-8489

学生カード・大学に対する要望カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません。）

次に従って提出してください。

1. 提出学年

3・4年（文学部は2・3・4年）

2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生課窓口

3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも、後日必ず学生課に提出してください。）

大学に対する要望カードは、大学における今後の研究・教育・学生生活において、改善のための参考に資するものです。諸君が今までの大学生活の中で、教育一般・カリキュラム・課外活動・施設・その他感じたこと、思ったことで大学に対する要望がありましたら、学生カードに連なる同じカードに記入し、学生総合センター学生課に提出してください。

X 緊急時における授業の取り扱いについて（三田）

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づく警戒宣言が発せられた場合などの授業の取り扱いは次のとおりとします。

1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取り扱い

【対象事由】

1. 交通機関のストライキ

2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

【対象路線】

- ・山手線　・中央線（東京－高尾間）　・京浜東北線（大宮－大船間）
- ・東急（電車に限る）

【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常どおり授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。掲示や構内放送、ホームページによる大学からの指示に従ってください。

- ※ 交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取り扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

2. 大震法に基づく警戒宣言が発せられた場合の授業の取り扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づく「警戒宣言」が発せられた場合の授業の取り扱いは下記のとおりとします。

[1] 「警戒宣言」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。

[2] 地震が発生することなく「警戒宣言」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

XI 早慶野球戦が行われた場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします。

（3回戦以降もこれに準じます）。

履修申告のしかた

1. 履修申告について

(1) 履修申告方法について

原則として、学事 Web システムにより申告してください。やむをえない場合は履修申告用紙で申告できますが、両方法を併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

学事 Web システムにより登録を行うと、即時にエラーチェックおよび一部の学則判定が行われ、メッセージが表示されます（ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、本人宛に送付する履修確認表で行ってください）。

(2) 履修申告上の注意

履修申告にあたっては、2003 年度の学業成績表を保証人宛に送付してありますので、各自保証人からそれを受け取り、取得した科目を確認し「履修要項」「履修申告のしかた」（本項）を熟読して、申告してください。特に誤登録、申告漏れ等によって不都合が生じる場合があります（進級・卒業に影響する場合があります）ので十分に注意してください。

提出後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録後、登録科目一覧画面を印刷、あるいは履修申告用紙をコピーし、時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分することとなります（学則第188条）。

(3) 学事 Web システムによる申告日程

4月15日（木）午前10時～4月17日（土）午前11時まで

※期間中は何回でも履修の修正が可能です。最終日に初めて申告するのではなく、なるべく早いうちから申告を行なうようにしてください。ただし、毎日午前4時から1時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止しています。

(4) 履修申告用紙による履修申告日（履修申告用紙提出日）

4月16日（金）午前8時30分～午後6時10分 学事センター前受付ボックス

(5) 履修に関する疑問点、その他については履修申告の前日までに、学習指導担当または学事センター窓口にお問い合わせください。

(6) 履修確認表（履修申告した授業科目のリスト）は後日送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題（申告漏れ、科目間違い等）については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは掲示により指示します）で、この期間経過後は確認は終了したものとみなします。

(7) 時間割は変更することがありますので、掲示で確認のうえ申告してください。

(8) 登録されていない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。

2. 外書演習・外国語特殊・専門演習の事前登録について

専攻科目Ⅲ類のうち外書演習・外国語特殊・専門演習については、履修申告の前に事前登録が必要です。事前登録を怠ると履修できませんので十分注意してください。あわせて別紙「専攻科目Ⅲ類ガイダンスについて」及び「専攻科目Ⅲ類履修希望クラスの申告について」を参照してください。

3. 分野の選択について

履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合（従来の A 欄申告）と、各自分野を選択しなければならない場合があります。（申告の際は 2 桁の B 欄分野番号を登録します。）

<登録番号のみで自動的に分野が登録される科目（通常はこちら）>

・商学部 3・4 年設置の授業科目
・商学部 1・2 年設置の授業科目（日吉設置）
・履修案内 37 ページに掲載の他学部設置総合教育科目*
・（自主選択科目として登録する）「全学部共通 外国語科目履修案内」に掲載の他学部設置科目*
・（自主選択科目として登録する）諸研究所（センターを含む）設置科目
○教職課程センター設置科目は「自由科目Ⅱ」として登録されます。
○体育研究所設置科目は「総合教育科目Ⅳ類」として登録されます。
○諸研究所（センターを含む）設置科目を関連科目や自由科目で登録したい時は B 欄分野番号を登録して申告してください。（次頁参照）

※ 次頁<分野を選択する場合>の表のうち自主選択科目の欄も参照してください。

〈分野を選択する場合（2桁のB欄分野番号を登録）〉

・下表に示される科目を履修する場合はB欄で申告し、その際分野欄には2桁のB欄分野番号を登録してください。

科目種類		授業科目	B欄分野
専攻科目 Ⅳ 類	関連科目	他学部および諸研究所（センター等を含む）に設置されている科目で教授会が適当と認める授業科目 (30 ページ参照)	41
自主選択 科 目	第3・4学年 配当科目	外書演習(2) 外国語特殊(2) 専門演習(2)（ただし、自主選択科目として履修する場合） 他学部設置の授業科目（前頁の※の科目は除く）	51
自由 科 目	自由科目Ⅰ (*卒業単位 には含まれ ません)	○他学部設置の授業科目 ○メディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○外国語教育研究センター設置講座 ○情報処理教育室設置講座 ○言語文化研究所設置講座 ○国際センター設置講座 ○知的資産センター設置講座 ○保健管理センター設置講座 ○体育研究所設置講座 ○外国語学校設置講座（インドネシア語のみ）	60
	自由科目Ⅱ (*卒業単位 には含まれ ません)	○メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修するメディア・コミュニケーション研究所設 置講座 ○教育免許取得のために履修する教職課程授業科目	61

4. 学事 Web システムの利用方法

学内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認、また休講・補講情報の確認などが可能です。

学事 Web システムを利用するためには ID（学籍番号）と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間使用することになります。すべて個人管理になりますので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の4つの機能があります。

- ① 履修申告（履修申告期間中は、何度でも修正できます。）
- ② 登録済科目確認（履修申告終了後の、ある一定の期間に自分の登録した科目を Web 上で確認できます。）
- ③ 休講・補講情報
- ④ パスワード変更

また、携帯電話（i-mode のみ）では上記のうち、③休講・補講情報の確認、④パスワード変更、を行うことができます。

… 注 意 …

もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4月7日（水）16時までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。（2003年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合は2004年3月に送付した成績表に印字されています。）

また、学内のパソコンを利用するための Windows パスワードを忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター（ITC。大学院校舎地階）で変更申請の手続きを行ってください。（ただし学事 Web システムは学内のパソコンに限らず、インターネットに繋がるパソコンがあれば、自宅などからでも利用できます。）

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは別になりますのでご注意ください。

（学事 Web システムのユーザー名）	学籍番号
（Windows アカウントのユーザー名）	f*****

(1) 学事Web システム操作上の注意

- 複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。
- 学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの「戻る」及び「進む」ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、「更新」ボタンを押してリロードしてください。
- 学事 Web システムは 30 分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。
- ブラウザーの「戻る」ボタンや「進む」ボタンを何度も押ししたり、30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の「登録」ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。
- 学事 Web システムは、Cookie を使用していますので、お使いのブラウザに Cookie を受け付ける設定をしてください。また、学事 Web システムは、SSL による暗号通信を行います。学事 Web システムにアクセスすると、新しいサイトの証明書を受け付けるか否かの確認ウィンドウが表示されますので設定してください。
お使いのブラウザが、Proxy Server を経由する設定になっている場合、設定を解除しないと正しく接続できない場合があります。そのような場合には、一時的に Proxy Server の設定を変更してください。
(Cookie, SSL, Proxy の設定については、<http://gakuj2.adst.keio.ac.jp/manual/faq/logon.html> を参照してください。)
- 氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題ははありません。
- その他、Q&A、Web 履修にあたっての注意事項（地区/学部別）については下記 URL からのリンクを参照してください。

(2) 履修の申告

2004 年度の学事 Web システムを利用する履修申告日程と学事 Web システムの URL は以下の通りです。

日程：4 月 15 日（木）午前 10 時～17 日（土）午前 11 時まで
学事 Web システムの URL <http://gakuj2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割の変更がある場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締め切りまでに再申告（申告の修正）を行ってください。

- ① 上記 URL にアクセスし「ブラウザ用」をクリックしてください。
履修申告は「インターネットエクスプローラ」や「Netscape」などの標準ブラウザを使用してください。i-mode からは操作できません。



- ② 学事 Web システムの操作方法（特にログインできない場合などの解説）や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。「ログイン画面へ」ボタンをクリックしてください。



- ③ 「ID (学籍番号)」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。画面がうまく表示されない場合は、前述②の画面の「ログインできない時は」を選択し、ブラウザの設定方法等を確認してください。

※この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

※複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。

- ④ 右の画面(トップメニュー画面)の「メールアドレス登録・変更」から、履修登録後に送信される受付確認メールの送信先の登録・変更ができます。確認できる状態の電子メールアドレスを登録してください。

変更する場合には、新たに登録する電子メールアドレスを2箇所入力し(再入力欄にも同じものを入力する)、[登録] ボタンをクリックしてください。

(学事センターからの連絡や呼出などがある場合、ログイン後のこの画面に表示されることがあります。)

(注意) 学事 Web システムに登録されているメールアドレスについて
学事 Web システムに登録されているメールアドレスについて、アドレスの登録間違いにより、履修登録が実行された際に送信するメールが不着になるケースが多発しています。履修申告前に必ず、学事 Web システムに登録されているメールアドレスをご確認ください。
学事 Web システムには学校配付のメールアドレス(*****@mita.cc.keio.ac.jp 等)を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は転送設定をご利用ください。

※メールアドレスのユーザー名(例:*****@mita.cc.keio.ac.jp)の*****部分は変更できません。またユーザー名のみ登録しても届きません。ご注意ください。

- ⑤ [履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。

- ⑥ 右の画面が「履修申告メイン画面」になります。(a) と (b) の2通りの方法で科目の選択ができます。

- (a) 時間割から科目を選択するとき

[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください。(初期設定では自分の所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています)

科目選択画面(時間割選択)が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。他学部の科目を履修する場合などで、分野を「A 欄」以外で選択する場合は前項「3. 分野の選択について」(16・17 ページ)をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。



(b) 登録番号から科目を選択するとき

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面（登録番号）が表示されますので、履修書類配布時に配布された時間割表に記載されている5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、<科目情報>欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に[選択を終了]を押してください。

※ (a) (b) いずれの方法も、分野（A・B欄）の選択方法は同じですので、「3. 分野の選択について」（16・17ページ）を参照してください。

※ (a) (b) の手順は、連続して行うことができます。

※ 「すでに登録されています」と表示される「研究会」については過年度分です。新学年分の研究会は新たに登録しなければなりません。

※ 同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度[選択を終了]を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

- ⑦ ⑥で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。（選択直後は<状態>欄に「未登録」として表示されます。）



- ⑧ 選択した科目を取消す場合は、⑦の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。
- ⑨ 選択されている科目を確認したら、画面一番下の [登録] ボタンを押してください。⑥および⑧で行った内容はこの「登録」ボタンを押すまで有効になりません。

- ⑩ 履修申告メイン画面の [登録] ボタンをクリックすると、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。（エラーメッセージの詳細については、⑥の「履修申告メイン画面」の STEP 2 の横にある [エラーの詳細説明] をクリックし、参照してください。）右端の「状態」欄が「保留中」の場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録となります。エラー内容を確認し登録し直してください。この画面を控としてプリントアウトしておく事をお勧めします。



登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、⑥からの手続を再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。

※ ここで Web ブラウザーを終了しないでください。

- ⑪ ④で登録されているメールアドレスへ受付確認メールが送信されます。受付番号は各自で控えてください。
- ④でメールアドレスの登録を行っていない場合は、一時的な受付メールの送信先を指定できる画面が表示されます。メールアドレスを入力し [指定する] ボタンを押してください。受付番号と受付メールの送信先が表示され、確認メールがそのアドレス宛に送信されます。（この場合は、メールアドレスの登録はされません。） [指定しない] ボタンを押すと、受付番号のみ表示されます。
- なお、hotmail (@hotmail.com) のアドレスを指定した場合、受付確認メールが字化けすることがあります。他のプロバイダーのアドレスを指定するか、学校配布のメールアドレスを指定するようにしてください（④参照）。また、携帯電話のメールアドレスを指定した場合は、正しく送信されない可能性がありますので、使用を避けてください。
- すべての作業終了後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

(3) 登録済科目確認

履修申告で正しく登録された科目は、以後ある一定の期間で学事 Web システムを利用して再度確認することができます。(確認できる日程や詳細などは塾生ページで案内します。<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>)

前述 (2) の④ (トップメニュー画面) までは、同様の操作ですから、画面上の、[登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

(4) 休講・補講情報の確認

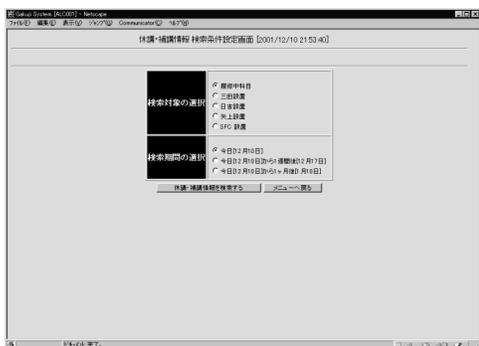
学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を Web を利用して確認することができます。またこのサービスは、i-mode 対応の携帯電話からも同様に見ることができます。

なお、公式の情報は大学の掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。また、代替講義日の休講は、通常講義と異なり Web の休講情報では対応していませんので、以下のページ及び学部掲示板で確認してください。

(塾生ページ URL) <http://www.gakuji.keio.ac.jp/>

[ブラウザ編]

- ① (2) の①から③までを参照して、学事 Web システムにログインしてください。
- ② (2) の④ (トップメニュー画面) の画面から [休講補講情報] ボタンをクリックしてください。
- ③ 自分の履修科目の休講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンをクリックしてください。



- ④ 休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された(したがって通常通り実施する)科目となりますので注意してください。確認後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

[i-mode 編]

- ① 学事 Web システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の i-mode 画面から入力 (詳しくは携帯電話の説明書をお読みください) し、(2) の①の画面上で [i-mode 用] を選択してください。以後、Web 休講補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL を i-mode のブックマーク等に登録しておくとう便利です。(詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください)
- ② [サーバー 1] もしくは [サーバー 2] のどちらかを選択してください。選択は任意です。
- ③ 「学籍番号」と (2) で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。
- ④ この画面から [休講情報] ボタンを押してください。
※パスワードの変更もこの画面からできますが、ここでは説明を省きます。後述の (5) を参照してください。
- ⑤ 自分の履修科目の休講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から 1 週間後までの情報が表示されます。休講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

(5) パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

- ① 前述 (2) の④ (トップメニュー画面) の画面から、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。
- ② 「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を 2 箇所入力後 (再入力欄にも同じものを入力する)、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください（大文字／小文字を区別します）。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に学内のパソコンを利用するためのWindows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。（17 ページ「注意」参照。）



5. 履修申告用紙（マークシート）での申告について

Web による履修申告がやむをえずできない場合には、以下の日程で履修申告用紙（マークシート）を配布します。以下の提出日を過ぎると申告用紙での申告はできません。

履修申告用紙配布日・場所

4月12日（月）・13日（火） 学事センター

履修申告用紙提出日・場所

4月16日（金） 午前8時30分～午後6時10分 学事センター前受付ボックス

履修申告用紙記入の際は、以下の点に注意してください

- (1) 授業科目名、担当者名と登録番号（5桁）を十分確認してください。

1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義等、曜日・時限が複数にわたって開講している授業科目についても、登録番号は1つだけです。その登録番号を1つ登録することで他の時限についても登録されます。この場合、どの曜日・時限にも別の科目を登録することはできませんので注意してください。

また、商学部設置科目のうち、他学部・研究所と併設している科目（30ページ参照）については、必ず商学部の設置科目を履修しなければなりません。商学部の時間割の登録番号で登録してください。

- (2) HB か B の鉛筆を使用してください。誤記、記入漏れがないように、丁寧に記入してください。

特に「0」と「1」のマークミス等に注意してください。

- (3) 学籍等の記入方法

学部、学年、組、氏名、学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。

- (4) A 欄記入上の注意事項（16ページの〈登録番号のみで自動的に分野が登録される科目〉を申告）

ア 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を○で囲み、曜日・時限を記入します。

イ 科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入します。

ウ 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号5桁を記入し、マークします。

- (5) B 欄記入上の注意事項

ア 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を○で囲み、曜日・時限を記入します。

イ 科目名・教員名を記入します。

ウ 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号5桁を記入し、マークします。

エ 分野欄：2桁の履修申告用B欄分野番号を記入し、マークします。（17ページの〈分野を選択する場合〉を参照）

- (6) 「無効マーク」（A 欄・B 欄に共通）にマークすると、その枠内について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、「無効マーク」を利用してください。

- (7) 履修申告用紙の再交付について

① 履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべく無効マーク欄を使用して無効にしたうえで正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参のうえ、学事センター窓口に出してください。

② 交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センター窓口に出してください。

履 修 要 項

I 開講科目と単位数

2004年度に商学部が三田に設置する科目と単位数は次の通りです。授業には週1回開講される通年科目，春学期または秋学期のみに毎週2回開講される集中科目，および週1回の春学期または秋学期のみの半期科目があります。

1. 総合教育科目

分類	科目名	単位数
I類	宇宙と人間	4
II類	民族音楽学	4
	人の尊厳(社会と人権)	2
III類	西洋文明学説史	4
	日本文明学説史	4
	総合教育セミナー(III類)	2

2. 専攻科目

(1) III類

科目名	単位数
外書演習	2
外国語特殊(英語演習)	2
外国語特殊(ドイツ語口語表現)	2
外国語特殊(フランス語上級-講読)	2
外国語特殊(フランス語上級-演習)	2
外国語特殊(中国語中・上級)	2
外国語特殊(スペイン語)	2
専門演習	2
専門外国書研究(独書)	2
専門外国書研究(仏書)	2
研究会	8または4

※他学部設置の研究会は専攻科目III類として履修することはできません。

(2) IV類

① 専攻分野に関する科目

(注) 次の表で備考欄が空白の科目は通年科目です。

なお、各論的科目は今年度開講されていても来年度必ずしも開講されるとは限りません。

特定期間集中の科目は、掲示板でその期間を確認してください。

分野		科目名	単位数	備考
経営	A 経営	《総論の科目》		
		現代企業経営論	4	
		経営管理論	4	
		経営学説史	4	
		《各論の科目》		
		現代企業経営各論（経営組織）	2	春 学 期
		現代企業経営各論（経営情報論）	2	春 学 期
		現代企業経営各論（企業倫理）	2	春 学 期
		現代企業経営各論（企業形態）	2	秋 学 期
		現代企業経営各論（企業評価）	2	春 学 期
		現代企業経営各論（中小企業経営）	2	秋 学 期
		現代企業経営各論（比較経営論）	2	秋 学 期
		現代企業経営各論（組織文化論）	2	春 学 期
経営管理各論		休 講		
経営学説史各論		休 講		
会計	B 会計	《総論の科目》		
		財務会計論	4	
		管理会計論	4	
		会計史	4	
		《各論の科目》		
		財務会計各論（会計測定論）	4	
		財務会計各論（国際会計論）	2	春 学 期
		財務会計各論（財務諸表論）	2	春 学 期
		財務会計各論（時価主義会計論）	2	秋 学 期
		財務会計各論（資産会計論）	2	秋 学 期
		財務会計各論（取得原価主義会計論）	2	春 学 期
		財務会計各論（新会計基準概論）	2	秋 学 期
		財務会計各論（非営利法人会計論）	2	春 学 期
会計監査各論（監査論）	4			
管理会計各論（原価管理論）	4			
管理会計各論（原価計算論）	4			
会計史各論		休 講		
商業	C 商業	《総論の科目》		
		マクロ・マーケティング論	4	
		ミクロ・マーケティング論	4	
		《各論の科目》		
		マクロ・マーケティング各論（マーケティング学説史）	2	春 学 期
		マクロ・マーケティング各論（マーケティング史）	2	秋 学 期
		マクロ・マーケティング各論（流通論）	2	春 学 期
		ミクロ・マーケティング各論（広告論）	2	春 学 期
		ミクロ・マーケティング各論（消費者行動論）	2	秋 学 期
		ミクロ・マーケティング各論（製品開発論）	2	秋 学 期
ミクロ・マーケティング各論（マーケティング経済学）	2	秋 学 期		
ミクロ・マーケティング各論（マーケティング・リサーチ）	2	春 学 期		
産 業 ・ 経 済	D 国際経済	《総論の科目》		
		国際経済学	4	
		世界経済論	4	
		国際金融論	4	
		《各論の科目》		
		国際経済学各論（国際経済政策論）	2	春 学 期
国際経済学各論（ミクロ貿易論）	2	春 学 期		

経済 ・ 産 業		世界経済各論（国際開発協力論）	2	春 学 期
		世界経済各論（中国経済論）	2	秋 学 期
		国際金融各論（国際金融システム論）	2	秋 学 期
	E 計量経済	《総論的科目》		
		理論経済学Ⅱ	4	春学期集中
		経済政策	4	
		経済統計	4	
		計量経済学	4	
		《各論的科目》		
		計量経済学各論（応用計量経済論）	4	
		理論経済学各論（応用ミクロ経済学）	2	春 学 期
		理論経済学各論（経済成長論）	2	秋 学 期
		経済統計各論（産業連関論）	2	春 学 期
		経済政策各論		休 講
	F 金融・保険	《総論的科目》		
		金融論	4	春学期集中
		財政学	4	
		証券経済論	4	休 講
		保険学	4	
		《各論的科目》		
		金融各論（貨幣論）	2	秋 学 期
		金融各論（企業金融論）	2	秋 学 期
		金融各論（資本市場論）	2	春 学 期
		財政学各論		休 講
		証券経済各論（証券制度論）	2	秋 学 期
	保険学各論（生命保険論）	2	春 学 期	
	保険学各論（損害保険論）	2	春 学 期	
	保険学各論（保険経営論）	2	秋 学 期	
	保険学各論（保険数理論）	2	秋 学 期	
	リスク・マネジメント各論（現代社会とリスク）	2	秋 学 期	
G 産業・交通	《総論的科目》			
	産業組織論	4	春学期集中	
	サービス経済学	4		
	交通経済論	4		
	《各論的科目》			
	産業組織各論（規制の経済学）	2	春 学 期	
	産業組織各論（産業組織と企業戦略）	2	春 学 期	
	産業組織各論（社会問題の経済学）	2	秋 学 期	
	サービス経済学各論		休 講	
	交通経済各論（経済地理）	4		
	交通経済各論（国際交通論Ⅰ）	2	春 学 期	
H 労働・社会	《総論的科目》			
	労働経済学	4	春学期集中	
	産業関係論	4		
	産業社会学	4		
	組織心理学	4		
	社会保障論	4		
	《各論的科目》			
	労働経済学各論		休 講	
	産業関係各論（労務管理論）	4		
	産業社会学各論（経営社会学）	4		
	組織心理学各論		休 講	

経 済 ・ 産 業	社会保障各論			休 講
	I 産業史 ・ 経営史	《総論的科目》		
		産業史	2	春 学 期
		経営史	2	春 学 期
		《各論的科目》		
		産業史各論 (科学技術政策史)	2	秋 学 期
		産業史各論 (起業家福澤諭吉の生涯)	2	春 学 期
		産業史各論 (日本金融史 I)	2	秋 学 期
		産業史各論 (日本産業史 I)	2	秋 学 期
		産業史各論 (比較小売業史)	2	秋 学 期
	経営史各論 (アメリカ経営史)	2	春 学 期	
	経営史各論 (日本経営史)	2	春 学 期	
	経営史各論 (福澤と門下の経営者たち)	2	秋 学 期	

② その他の科目

科 目 名	単位数	備 考
変革の時代を生き抜くための経営 (寄附講座)	4	
21世紀のマネジメント (特別講座)	2	秋 学 期
数学各論 (ゲーム理論 I)	2	春 学 期
数学各論 (ゲーム理論 II)	2	秋 学 期
数学各論 (最適化理論 I)	2	春 学 期
数学各論 (最適化理論 II)	2	秋 学 期
情報処理Ⅲ (電子計算概論)	4	
情報処理Ⅲ (Web プログラミング)	4	秋学期集中
情報処理Ⅳ		休 講
法学各論 (民法 I)	4	
法学各論 (民法 II)	4	
法学各論 (商法 I)	4	
法学各論 (商法 II)	4	
法学各論 (経済法)	4	春学期集中
法学各論 (労働法)	4	
ジャパニーズ・エコノミー	2	春 学 期
経済学史	4	

3. 自主選択科目

科 目 名	単位数	備 考
英語第 XX -レベル2	2	
英語第 XX -レベル3	2	
英語第 XX -レベル4	2	休 講
英語第 XX -TOEFL/TOEIC	2	
英語第 XX -TOEFL/TOEIC Practice	2	
中国語第 XX (表現練習)	2	
イタリア語	2	
ロシア語	2	
朝鮮語 (初級)	2	
朝鮮語 (中級)	2	
アラビア語	2	
ギリシャ語	2	
ラテン語	2	

※専攻科目の科目名について

履修案内その他において「～各論」と表記されている科目について、学部学則では「～各論Ⅰ」・「～各論Ⅱ」と表記しています。繁雑さを避けるため通常使用するに当たっては「～各論」という表記に統一します。

II 卒業および進級所要単位数

「学部学則」をあわせて参照してください。

1. 卒業所要単位数

授業科目の種類			所要単位数
総合教育科目	I類	6単位以上必要 4単位まで算入	20
	II類		
	III類		
	IV類		
外国語科目	英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語のうちから2か国語各8単位		16
基礎科目	I類	6	14
	II類A群	4	
	II類B群	2	
	II類C群	2	
専攻科目	I類	4	12
	II類	8	
	III類	2単位以上必要 } 46	46
	IV類		
自主選択科目	所要単位 第1・2学年 8単位 (第1・2学年で履修合格したもの) 第3・4学年 12単位 (第3・4学年で履修合格したもの) (この所要単位数には総合教育科目・基礎科目・専攻科目のうち所定単位数を超えて履修合格した単位は、自動的に、自主選択科目として算入されます。また、履修学年には充分注意してください。)		8
			12
合計			128
◇第4学年における必要取得単位数……………			12単位以上
◇第3・4学年を通じて履修し合格しなければならない単位数……………			58単位
(内訳：専攻科目III・IV類と第3・4学年の自主選択科目)			
(不合格のため再履修した第1・2学年配当の必修科目および所定単位数不足の選択科目(総合教育科目、基礎科目II類、専攻科目I・II類)は、この58単位に含まれません)。			

- 1) 関連科目は専攻科目IV類のなかに8単位まで卒業所要単位として算入されます。
- 2) 自主選択科目については、上の表の内訳にあるように、3・4年では12単位分その枠が用意されています。
商学部が自主選択科目として設置している科目をそのまま履修する他に、他学部や諸研究所の科目を自主選択科目として履修する、又は勉強をさらに深めたい人は、総合教育科目・基礎科目・専攻科目の内必須とされている単位数以上に履修し合格した場合、その単位は12単位を上限に、自動的に自主選択科目として算入されます。
- 3) 第4学年においては最低12単位以上、第3・4学年を通じて58単位以上履修し、合格しなければなりません。
- 4) 自由科目は卒業所要単位には算入されません。

2. 第4学年への進級所要単位数

第4学年に進級するためには専攻科目III類、専攻科目IV類、および関連科目、総合教育科目、自主選択科目のうちから最低12単位履修合格しなければなりません。1単位でも不足すると不合格となりますので注意してください。

※自由科目は進級所要単位には算入されません。

※関連科目は、何単位履修合格しても卒業・進級単位に算入される単位は、第3・4学年あわせて8単位までです。

※総合教育科目IV類(体育科目)は何単位合格しても卒業・進級単位に算入される単位は第1~4学年あわせて4単位までです。すでに第1・2学年でIV類を取得している場合は、第3学年で取得した4単位を超える分は、進級単位に算入されません。

3. 学士入学者

(1) 卒業所要単位数

授業科目の種類			単位数
専攻科目	I類	4	12
	II類	8	
	III類	2単位以上必要 46	46
	IV類		
自主選択科目	12単位まで算入		12
合計			70
◇第4学年における必要取得単位数……………			12単位以上

- 1) 関連科目は専攻科目IV類のなかに8単位まで卒業所要単位として算入されます。
- 2) 自主選択科目は第3・4学年において履修した専攻科目のうち12単位の範囲内で上記の所定単位数を超えて履修合格した単位をもって充てることができます。
- 3) 自由科目は卒業所要単位には算入されません。

(2) 第4学年への進級所要単位数

第4学年に進級するためには専攻科目I類、専攻科目II類、専攻科目III類、専攻科目IV類、および関連科目（何単位履修合格しても第3・4学年あわせて8単位までしか算入されません）、自主選択科目のうちから最低24単位履修合格しなければなりません。1単位でも不足すると不合格となりますので注意してください。自由科目は進級所要単位には算入されません。

III 履修方法

1. 最高履修単位数について（三田）

1か年に履修できる単位数の最高限度は50単位です。限度を超過して申告した履修科目は無効です。ただし、次の科目の単位数はこれに含まれません。

- (1) 不合格のために再履修する第1・2学年配当の必修科目（外国語科目、基礎科目I類）および単位不足の選択科目（基礎科目II類、専攻科目I・II類）。なお、選択科目のうち、単位不足の分については制限外ですが、余裕をみて余分に履修申告する場合のオーバーする分については制限に含まれます。
- (2) 総合教育科目。ただし、(1)と同様、単位不足の分については制限外ですが、余裕をみて余分に履修申告する場合のオーバーする分については制限に含まれます。
- (3) 自由科目I
8単位以内に限り履修できます。対象科目は35・36ページを参照してください。
- (4) 自由科目II
単位数の制限はありません。対象科目は36ページを参照してください。

2. 研究会の履修について

研究会を履修する学生は、志望の研究会が行う所定の入ゼミ選考を受け、担当者に入会許可を得ていなければなりません。また、第3・4学年を通じて履修するものですが、第4学年でのみ8単位として履修単位数に算入されます（第3学年では履修単位数に算入されません）。ただし、履修申告は第3学年では「研究会（3年）」を、第4学年では「研究会（4年）」をそれぞれ申告しなければなりません。なお、研究会を退会した場合は、学事センターに申し出てください。

（他学部の研究会について）

他学部の研究会を履修する際は関連科目・自主選択科目・自由科目Iのいずれかで登録してください。専攻科目III類として登録することはできません。

3. 自主選択科目の履修について

- ① 自主選択科目は商学部が自主選択科目として設置している科目、および他学部（諸研究所やセンター等を含む）設置科目のうち商学部設置科目と同一名称の科目および商学部と併設されている科目を除いたものから選択できます。ただし、第3・4学年であわせて12単位まで進級・卒業所要単位数に算入されます。
また、第3・4学年において履修した商学部設置科目のうち卒業所定単位数を超えて履修合格した単位を12単位の範囲内で充てることもできます。この場合は改めて自主選択科目として履修申告する必要はありません。なお、「重複履修について」の項も参照してください。
- ② 自主選択科目として外書演習・外国語特殊・専門演習を履修する場合は、専攻科目の外書演習・外国語特殊・専門演習とは区別してB欄で履修申告してください。ただし、専攻科目として申告したクラスが不合格で自主選択科目として申告したクラスが合格した場合に

は、そのクラスを専攻科目に振り替えることはできません。また、自主選択科目として希望するクラスに、専攻科目としての希望者が多い場合は専攻科目の希望者を優先します。

- ③ 他学部の科目および諸研究所設置科目は自由科目や関連科目としても履修できますが、履修申告時に自由科目や関連科目として申告した科目を後に自主選択科目に振り替えることはできません。
- ④ 商学部が自主選択科目として設置している外国語科目のうちTOEFL/TOEICクラスは、何単位履修しても2単位までしか進級・卒業単位に算入されませんので注意してください。詳細は101ページを参照してください。

4. 関連科目の履修について

三田設置の他学部および諸研究所（センター等を含む）の科目のうち、商学部設置科目と同一名称の科目および商学部に併設されている科目を除いたもので、総合教育科目および外国語科目以外の科目でなくてはなりません。関連科目として認められない科目は、自由科目Ⅰとして登録される場合もありますので注意してください。

第3・4学年を通じて8単位までが専攻科目Ⅳ類として進級・卒業所要単位に算入されます（8単位を超えた分は、自主選択科目としても算入されません）。ただし、履修単位数は、すべて履修単位数制限に算入されますので注意してください。なお、他学部の科目および諸研究所設置科目は自由科目や自主選択科目としても履修できますが、履修申告時に自由科目や自主選択科目として申告した科目を後に関連科目に振り替えることはできません。

5. 専門演習の履修について

商学部設置の研究会を履修している人は、専門演習を専攻科目Ⅲ類として履修することはできません。

6. 他学部・諸研究所・他地区の履修について

他学部および諸研究所（センター等含む）設置科目を履修する場合、各学部および共通掲示板で履修不可の科目が無いかを確認したうえで、事前に履修を希望する授業科目の担当者の許可を得てから（承認印は不要）履修申告してください。諸研究所科目では、事前に手続きが必要なものもありますので、履修案内で確認して必ず済ませておくようにしてください。日吉設置科目を履修する場合は、三田の設置科目と時間が重複しないように注意してください。特に、時限が連続（例 1時限三田、2時限日吉）した履修は不可能ですので注意してください。なお、昼休みを挟んだ場合は可とします。その他の地区の科目を履修する場合も移動時間を十分考慮のうえ履修計画を立ててください。移動不可能と思われる履修申告をした場合は三田の履修科目を無効とします。定期試験は授業時間割と異なる時間帯で試験が行われることがありますので、試験時間割が他の地区の科目と重複することがあります。その場合の取り扱いについては試験時間割発表時に掲示しますので、確認して所定の手続きをとってください。

7. 重複履修について

- ① 曜日、時限を重複して履修した授業科目は無効です。
- ② 同一名称の科目は前年度と担当者が異なっている場合でも再度重複して履修することはできません。
ただし、自主選択科目として履修可能な外国語科目は科目名が同じでも担当者が異なれば履修を認めます。科目名と担当者が同じでも内容が異なる場合には担当者の承認を得ることを条件に履修を認めます。外書演習・外国語特殊・専門演習は担当者が異なる場合に限り、担当者の承認を得ることを条件に自主選択科目としての履修を認めます。詳細は「自主選択科目について」の項を参照してください。
- ③ 商学部と他学部に同じ名称の科目が設置されている場合には、商学部が設置している科目のみ履修することができます。
- ④ 商学部と他学部とで併設されている以下の科目を履修する場合は、たとえ科目名が異なっても商学部の設置科目を履修しなければなりません。

商学部設置科目	他学部設置科目
国際経済学	(法学部) 国際経済論
世界経済論	(法学部) 国際経済論
交通経済各論(経済地理)	(経済学部) 経済地理
経済統計	(経済学部) 経済資料論
経済学史	(経済学部) 経済学史Ⅰ
財務会計論	(経済・法学部) 会計学
法学各論(経済法)	(経済・法学部) 経済法
法学各論(労働法)	(経済・法学部) 労働法
人の尊厳(社会と人権)	(文学部) 人の尊厳(社会と人権)
総合教育セミナー(Ⅲ類)	(国際センター) 日本の金融ビッグバン
産業史各論(科学技術政策史)	(国際センター) 産業史各論(科学技術政策史)
ジャパニーズ・エコノミー	(国際センター) ジャパニーズ・エコノミー

- ⑤ 以下の科目は同一名称とみなされる科目の一覧です。同一名称とみなされる科目を重複して履修する場合、両方を卒業単位に含めることはできません。どちらか一方を自由科目として登録してください。

商学部設置科目	他学部設置科目
簿記論	(経済学部) 簿記
労働経済学	(経済・法学部) 労働経済論
計量経済学	(経済学部) 計量経済学 I
経済政策	(経済学部) 経済政策論
財政学	(経済・法学部) 財政論
法学各論 (民法 I)	(経済・法学部) 民法 I
法学各論 (民法 II)	(経済・法学部) 民法 II
法学各論 (商法 I)	(経済・法学部) 商法 I
法学各論 (商法 II)	(経済・法学部) 商法 II

8. 第 1・2 学年の不合格科目の履修について

(1) 日吉でのガイダンスについて

必修の外国語科目に不合格がある者は、三田には特修授業等は設置されていませんので、日吉設置の授業科目を履修しなければなりません。「商学部外国語科目履修案内」をあわせて参照してください。なお、以下の通り日吉でガイダンスを行いますので必ず出席してください。

4月5日(月) 13:00～

英語・ドイツ語履修者	日吉第4校舎	23番教室
英語・フランス語履修者	〃	J21 〃
英語・中国語履修者	〃	J24 〃
英語・スペイン語履修者	日吉第6校舎	J634 〃

- (2) 不合格のために再履修する第1・2学年設置の以下の必修科目は第3学年で履修することを原則とします。第3学年で単位が取得できない場合、第4学年で履修しなければなりません。授業時間割が重複したり、定期試験で日吉・三田の試験が重複して受験できず卒業できなくなることがありますので注意してください。

- 外国語科目 2か国語 16単位
- 基礎科目 I類 6単位
- 基礎科目 II類 A群 4単位, II類 B群 2単位, II類 C群 2単位
- 専攻科目 I類 4単位, II類 8単位

なお、総合教育科目は卒業までに 20 単位必要になりますが、第3学年での履修の仕方および成績によっては、第4学年に進級できても第4学年の履修申告時点で卒業できないことが決定する場合があります。卒業所要単位を考慮に入れて誤りがないよう十分に注意してください。

- (3) 中国語第Ⅲが不合格の場合、日吉設置の特修クラス中国語第Ⅹを履修しなければなりません。中国語第Ⅹは 2 つ設置されますが、クラス指定になります。履修者は、学事センターで自分の履修クラスを確認してください。なお、クラス変更に関する注意事項及び所定の用紙は学事センター窓口で配布しています。間違ったクラスで履修した場合、成績がつかまませんので、十分に気を付けてください。

9. 学士入学者の履修について

上記の事項とあわせて次の事項にも注意してください。

- ① 学士入学する以前の学部において取得した単位を認定する場合がありますので認定を希望するものは学習指導に申し出てください。
- ② 学士入学する以前の学部における履修状況により、学習指導が商学部の必修科目(基礎科目 I類)の商学概論、経済学を自主選択科目 12 単位のうちで、履修を指定する場合がありますので学士入学者は 4 月に必ずガイダンスを受けてください。

IV その他

1. 退学処分について

- ① 4年間で第3学年に進級し得ない者および第3・4学年併せて4年在学し卒業し得ない者は学則第156条により退学処分となります。
- ② 大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには学則第188条により退学処分となります。

2. 再試験について

商学部学生に対しては再試験は行いませんので注意してください。

3. 学業成績について

学業成績の評語は、A, B, C, Dの4段階で示されます。A, B, Cは合格、Dは不合格です。所定の授業に出席し、評価試験（定期試験またはレポート）を受けた後に評語が決まります。また、教授会が認めた特定の授業科目は、評語をP, Fの2種とし、Pを合格、Fを不合格とします。

商学部所属の学生で履修した科目の成績評語に対して、確固たる根拠をもって問い合わせたいと考える者は、質問制度を利用することができます。詳細は、提出期限を掲示で確認のうえ、学事センター窓口にお問い合わせください。なお、提出期限を過ぎたものはいかなる理由があっても一切受け付けませんので注意してください。

V 商学部の分野番号表（下線のついてる科目は今年度開講されません）

科目種類 (括弧内は卒業所要単位数)	分野	授業科目	申告欄	B欄分野		
総合教育科目 (20単位以上)	I 類 (6単位以上)	01-01-01	心理学(4) 地学(4) 天文学(4) 宇宙の科学(2) 生命の科学(2) 宇宙と生命(4) 宇宙と人間(4) 人類学(4) 生命現象の分子科学(2) 動物の科学(2) 植物の科学(2) 健康科学(2) 自然人類学(2) 生態学(2) 地球科学概論(2) 基礎の数学(2) 現代化学概論(2) 現代生物学概論(2)	A 欄		
		01-01-02	物理学(6) 化学(6) 生物学(6)			
		01-01-03	総合教育セミナー(I類)(2または4)			
	II 類	01-02-01	哲学(4) 倫理学(4) 論理学(4) 宗教学(4) 歴史(4) 科学史(2) 文学(4) 漢文(4) 国語国文(4) 音楽(4) 音楽I(2) 音楽II(2) 美術(4) 民族音楽学(4) 地域文化論I(2) 地域文化論II(2) 地域研究(2または4) 経済人類学(4) 言語認識論(2) 現代メディア論(2) 論理学序論(2) 論理学本論(2) 現代思想論(2) 現代芸術論(2) 身体文化論(2) 映像・音響文化論(2) 文化人類学(2) 造形・デザイン論(2) 地域文化論(2) 女性学(2) 現代日本史(2) 現代世界史(2) 言語・文化論(2) 言語・社会論(2) 地域生態文化論(2) 言語学(4) 言語学I(2) 言語学II(2) ジェンダー論I(2) ジェンダー論II(2) 住宅・建築史概論(2) 人の尊厳(社会と人権)(2)			
		01-02-02	法学(憲法を含む)(4) 政治学(4) 社会学(4) 近代思想史(2または4) 地理学(4) 社会科学概論(4) 現代社会論(2) 日本の政治(2) 世界の政治(2) 社会心理学I(2) 社会心理学II(2)			
		01-02-03	総合教育セミナー(II類)(2または4)			
	III 類	01-03-01	日本の産業と経営(2) 社会との対話I(2) 社会との対話II(2または4)			
		01-03-02	地域と文化(4) 比較文化論(4) 表象文化論(4) 身体/感覚文化(2) 日本文明学説史(4) 西洋文明学説史(4) 自然とヒト(4) ラテンアメリカ研究(4) 文明学説史(4) 戦争と社会(2) 近代日本と福澤諭吉(2) スタディ・スキルズI(2) スタディ・スキルズII(2) 生命の教養学(2) 放送文化とヴァチュアル・リアリティ(2) 情報文化とヴァチュアル・リアリティ(2)			
		01-03-03	総合教育セミナー(III類)(2または4)			
	IV 類 (4単位まで算入)	01-04-01	体育学講義(2) 体育学演習(1) 保健衛生(1) 体育理論(1)			
		01-04-02	体育実技A(1) 体育実技B(1) 体育実技I(1) 体育実技II(1)			
	外国語科目 (計16単位)	第1学年 配当科目 (2か国語 各4単位)	02-01-01			英語(各2)
			02-01-02			ドイツ語(各2)
			02-01-03			フランス語(各2)
			02-01-04			中国語(各2)
			02-01-05			スペイン語(各2)
02-01-11			日本語(各2)			
第2学年 配当科目 (2か国語 各4単位)		02-02-01	英語(各2)			
		02-02-02	ドイツ語(各2)			
		02-02-03	フランス語(各2)			
		02-02-04	中国語(各2)			
02-02-05	スペイン語(各2)					
02-02-11	日本語(各2)					
基礎科目	I 類 (6単位)	03-01-01	商学概論(2) 経済学(4)			
	II 類	A 群 (4単位)	03-02-01	簿記論(4) 社会科学の考え方(4) 情報処理I(4) 情報処理II(4)		
		B 群 (2単位)	03-02-02	数学基礎(2) 線形代数(2) 微分法(2) 解析I(2) 解析II(2)		

基礎科目	Ⅱ類	B群(2単位)		数理計画法(2)
		C群(2単位)	03-02-03	統計学Ⅰ(2) 統計学Ⅱ(2)
(日吉設置) 専攻科目	Ⅰ類(4単位)	Ⅰ類(4単位)	04-01-01	経済史(4) 社会経済学(4) 私法基礎(4)
		Ⅱ類(8単位)	04-02-01	経営学(4) 会計学(4) 商業学(4) 理論経済学Ⅰ(4) 産業経済論(4)
専攻科目(三田設置)(Ⅲ・Ⅳ類あわせて46単位)	Ⅲ類(2単位以上)	04-03-01		外書演習(2)
				専門外国書研究(2)
				外国語特殊(2)
				専門演習(2)
			04-03-02	研究会(3年生)(0)
		04-03-03	研究会(4年生)(8または4)	
	A経営	04-04-01	総論的科目	現代企業経営論(4) 経営管理論(4) 経営学説史(4)
		04-04-02	各論的科目	現代企業経営各論(2または4) 経営管理各論(2または4) 経営学説史各論(2または4)
	B会計	04-04-03	総論的科目	財務会計論(4) 管理会計論(4) 会計史(4)
		04-04-04	各論的科目	財務会計各論(2または4)
				会計監査各論(2または4) 管理会計各論(2または4) 会計史各論(2または4)
	C商業	04-04-05	総論的科目	マクロ・マーケティング論(4) ミクロ・マーケティング論(4)
		04-04-06	各論的科目	マクロ・マーケティング各論(2または4) ミクロ・マーケティング各論(2または4)
	D国際経済	04-04-07	総論的科目	国際経済学(4) 世界経済論(4) 国際金融論(4)
		04-04-08	各論的科目	国際経済学各論(2または4)
	世界経済各論(2または4) 国際金融各論(2または4)			
	E計量経済	04-04-09	総論的科目	理論経済学Ⅱ(4) 経済政策(4) 経済統計(4) 計量経済学(4)
		04-04-10	各論的科目	理論経済学各論(2または4) 経済政策各論(2または4) 経済統計各論(2または4) 計量経済学各論(2または4)
	F金融・保険	04-04-11	総論的科目	金融論(4) 財政学(4) 証券経済論(4) 保険学(4)
		04-04-12	各論的科目	金融各論(2または4) 財政学各論(2または4) 保険学各論(2または4) 証券経済各論(2または4) リスク・マネジメント各論(2または4)
G産業・交通	04-04-13	総論的科目	産業組織論(4) サービス経済学(4) 交通経済論(4)	
	04-04-14	各論的科目	産業組織各論(2または4) サービス経済学各論(2または4) 交通経済各論(2または4)	
H労働・社会	04-04-15	総論的科目	労働経済学(4) 産業関係論(4) 産業社会学(4) 組織心理学(4) 社会保障論(4)	
	04-04-16	各論的科目	労働経済学各論(2または4) 産業関係各論(2または4) 産業社会学各論(2または4) 組織心理学各論(2または4) 社会保障各論(2または4)	
I産業史・経営史	04-04-17	総論的科目	産業史(2) 経営史(2)	
	04-04-18	各論的科目	産業史各論(2または4) 経営史各論(2または4)	
Jその他	04-04-19		情報処理Ⅲ(4) 情報処理Ⅳ(4) 経済学史(4) ジャパンニーズ・エコノミー(2) マーケティング戦略(2)	

A
欄

IV 類	Jその他	04-04-20	数学各論(2または4)	A欄			
		04-04-21	法学各論(4)				
		04-04-22	デリバティブ(2) ポートフォリオ・マネジメント(2) バンキング・ビジネス(2) 21世紀のマネジメント(2) 経済の構造変化と雇用制度(4) 企業の社会性(4) 製品・ブランドをつくりマネジメントする(4) 変革の時代を生き抜くための経営(4)				
	関連科目 (8単位まで 算入)	04-04-25	他学部および諸研究所(センター等を含む)に設置されている科目 で教授会が適当と認める授業科目 (30 ページ参照)	B欄	41		
自主 選 択 科 目 (20 単 位)	第1・2学年 配 当 科 目 (8 単 位)	—	*総合教育科目・基礎科目・専攻科目Ⅰ・Ⅱ類のうち所定単位数を超えて履修 合格した単位をもって充てることもできます。 (1・2年で履修合格したものに限られます)	A欄			
		05-01-01	商学部設置の外国語科目 ドイツ語インテンシブ(2) 中国語週3クラス(2) フランス語インテンシブ(2) スペイン語第X(2) アラビア語Ⅰ(2) 英語第X-レベル2(2), レベル3(2), <u>レベル4(2)</u> 英語第X-TOEFL/TOEIC Practice(2) イタリア語入門(2) 他学部設置の授業科目(単位数は当該学部の学則に従う)			B欄	51
		05-01-02	英語第X-TOEFL/TOEIC(2)			A欄	
		—	*総合教育科目・基礎科目・専攻科目のうち所定単位数を超えて履修合格した 単位をもって充てることもできます。 (3・4年で履修合格したものに限られます)				
	第3・4学年 配 当 科 目 (12 単 位)	05-01-01	英語第XX-レベル2(2) 英語第XX-レベル3(2) 英語第XX-レベル4(2) 英語第XX-TOEFL/TOEIC Practice(2) ドイツ語第XX(2) フランス語第XX(2) 中国語第XX(2) スペイン語第XX(2) イタリア語(2) 朝鮮語(2) ロシア語(2) ギリシャ語(2) ラテン語(2) アラビア語(2) 外書演習(2) 外国語特殊(2) 専門演習(2) (ただし、自主選択科目として履修する場合)	B欄	51		
		05-01-02	英語第XX-TOEFL/TOEIC(2)	A欄			
		—	*総合教育科目・基礎科目・専攻科目のうち所定単位数を超えて履修合格した 単位をもって充てることもできます。 (3・4年で履修合格したものに限られます)				
		06-01-01	他学部設置の授業科目 メディア・コミュニケーション研究所設置講座 外国語教育研究センター設置講座 情報処理教育室設置講座	B欄	60		
	自由 科 目	自由科目Ⅰ (*卒業単位には 含まれません。 1カ年につき8単 位まで)	06-01-01	他学部設置の授業科目 メディア・コミュニケーション研究所設置講座 外国語教育研究センター設置講座 情報処理教育室設置講座		60	

自由科目	自由科目Ⅰ (*卒業単位には含まれません。 1カ年につき8単位まで)		○言語文化研究所設置講座 ○国際センター設置講座 ○保健管理センター設置講座 ○体育研究所設置講座 ○外国語学校設置講座 (インドネシア語のみ)	B欄	
	自由科目Ⅱ (*卒業単位には含まれません)	06-01-02	○メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修するメディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○教員免許取得のために履修する教職課程授業科目		61

(注) 専攻科目Ⅳ類の各論的科目の()内の科目名は省略してあります。

※三田設置の総合教育科目について

三田における他学部設置（他地区を除く）の授業科目のうち、以下の授業科目は、商学部の総合教育科目として扱われます。

履修申告に際しては、以下の点に注意してください。

- ① 以下の授業科目については下表中の分野以外での履修申告はできません。
(関連科目・自主選択科目として履修申告できません。)
- ② 履修申告用紙の場合は **A 欄** で申告してください。(Web 申告の場合は **B 欄** 分野番号の指定は必要ありません。) ※16 ページ参照
- ③ 履修人数が多い場合は設置学部の学生が優先となります。必ず履修申告前に授業担当者に許可をもらうようにしてください。
- ④ 講義要綱・時間割は設置学部のもので確認してください。(学事センターにて閲覧できます。)

授業科目の種類	分野	科目名	設置学部
総合教育科目Ⅰ類	01-01-01	数学Ⅴ	法
		数学Ⅵ	法
		統計学Ⅲ	法
		統計学Ⅳ	法
総合教育科目Ⅱ類	01-02-01	映画演劇論Ⅰ	文
		映画演劇論Ⅱ	文
		映画演劇論Ⅲ	文
		映画演劇論Ⅳ	文
		演劇史	文
		漢文講読Ⅰ	文
		漢文講読Ⅱ	文
		教育学概論(学芸員コース)	文
		視聴覚教育メディア論	文
		西洋古典学	文
		日本演劇論	文
		ロシア文学	文
		比較文学Ⅱ	文
		地域研究－中国事情Ⅲ	経
	自由研究セミナー	経	
	01-02-03	人文科学研究会Ⅰ	法
		人文科学研究会Ⅱ	法
		人文科学研究会Ⅲ	法
		人文科学研究会Ⅳ	法
	総合教育科目Ⅲ類	01-03-02	アート・プロデュース
アート・マネジメント			文
カウンセリング概論			文
環境問題と大学			文
自然科学特論Ⅰ			法
自然科学特論Ⅱ			法
生涯学習概論			文

海外の教育機関に留学する場合の取り扱いについて（商学部）

(1) 在学期間中に留学を希望する場合、「留学」と「休学」の2通りに分けられます。

		留 学	休 学
種 類		<p>教授会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）</p> <p>なお、留学には</p> <p>①「交換留学」</p> <p>②「奨学金による留学」</p> <p>③「私費留学」の3つの区別があります。</p>	<p>語学研修</p> <p>その他左記の留学と認定されない場合</p>
期 間	申請期間	<p>留学の開始日から最長1年まで</p> <p>●年度の途中に開始し、年度の途中で終了することが可能です。 (例) 2004. 9. 22～2005. 9. 21</p>	<p>年度末日（3月31日）まで</p> <p>●年度末をまたいで休学する場合は、新年度に再度休学願を提出してください。</p> <p>●休学の開始日がいつであっても<u>その年度はすべて休学の扱いになります。</u></p> <p>●休学願の提出締切はその年度の11月末日です。</p>
	延長	<p>1回まで可能 (最長で留学開始日から2年まで)</p> <p>それ以降は「休学」となります。</p> <p>●延長する場合、「国外留学申請書」を改めて提出してください。</p>	<p>次年度も休学する場合は、再度休学願を提出してください。</p>
学 費・渡航費	学費減免措置	<p>●1年目：減免制度はありません。</p> <p>●2年目：減免される場合があります。</p> <p>●留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料（在学科）及び実験実習費の半額を免除します。（留学許可通知とともに申請書類を保証人宛に送付します。）</p>	<p>減免制度はありません。</p>
	渡航費補助	<p>「交換留学」及び「奨学金による留学」の場合には渡航費が補助される場合があるので、国際センターで所定用紙を受け取ってください。</p>	
単 位 取 得 ・ 認 定	は留学する期間に履修を	<p>年度の途中から留学する場合は、留学前に履修申告した科目を留学後継続履修し、単位取得することが可能です。 (同一科目同一担当者が原則となります。)</p> <p>●必ず留学前に各科目担当者に、留学終了後に継続して履修する意志があることを伝えておいてください。</p>	<p>休学中の年度は履修できません。</p> <p>[年度始めから休学] 履修申告は不要です。休学願を履修申告日までに提出してください。</p> <p>[年度途中から休学] <u>4月に履修申告した科目はすべて削除されます。</u></p>
	得た単位を認定	<p>30単位を超えない範囲で、慶應義塾大学での履修単位として認定することがあります。</p> <p>●認定を希望する場合は、帰国後学事センターに申し出てください。</p>	<p>単位認定はありません。</p>
在 学 年 数 へ の 算 入	進級・卒業	<p>1年間に限り留学期間を慶應義塾大学の在学年数に参入することがあります。ただし、遡及卒業は認められません。</p> <p>[例] 3年夏から留学し、1年後帰国した場合、在学年数への算入が認められれば第4学年に遡及進級となり、その年度末に卒業することも可能です。ただし、4年生夏に留学し、1年後帰国した場合、卒業は早くても帰国した年度の年度末になります。</p>	<p>在学年数に算入されません。</p> <p>休学終了後は原級にとどまります。</p>

・網掛け部分については(2)を参照してください。

※注意 TOEFL, GRE, GMAT等受験の際、身分証明書としてパスポートが必要になります。
早めに準備するよう心掛けてください。

(2)

単位取得・認定	留学期間をはさむ履修	継続履修の条件	同一科目同一担当者が原則です。 体育実技は、①履修登録が学期開始日前で、②履修定員に余裕があり、③健康診断証明書を持参した場合のみ可能になります。
	外国で取得した単位	認定対象となる科目	原則として専門教育科目です。(総合教育科目・語学科目等は含まれません。)
		履修上限との兼ね合い	認定の結果、認定された単位と履修申告した単位を合計して履修上限単位を超えても、そのまま履修できます。(削除等の必要はありません。)
在学年数	進級・卒業	遡及進級の条件	<商学部3年生で留学> 1年後帰国した際、4年生への進級を希望する場合は、次の条件を満たすことが必要となります。 ・以下の①と②の合計が12単位(3年生から4年生への進級条件)以上であること ①留学前に3年生で履修し取得した単位 ②留学先で取得した単位で認定されたもの ※遡及進級を希望される際の研究会の扱いについては、事前に学事センターにご確認ください。

秋学期から休学する際の履修申告していた科目の取り扱いについて	秋学期(9/22~11/30(休学締切日))に休学を開始する場合、それまでに修得した春学期終了科目はすべて削除されます。ただし、特に申し出があった場合は自由科目に限り振り替えますので、休学願提出時に窓口にて問い合わせてください。(この場合、就学後再履修することは認められません。)
--------------------------------	--

(3) その他

●学籍についての注意

留学は二重学籍を認めるものではありませんので、次の点に注意してください。

- ① 慶應義塾大学で取得した単位を外国大学に振り替え(Transfer)した場合その単位は慶應義塾大学から抹消される。
- ② 外国大学で学位を取得せずに帰国する場合、①により抹消した単位は慶應義塾大学での単位として認定し、外国大学で取得した単位も慶應義塾大学に振り替え(Transfer)可能とする。
- ③ 外国大学で学位を取得した場合、外国大学に振り替え(Transfer)した単位および外国大学で取得した単位ともに外国大学での取得単位として扱う。

なお、上記のことについて確認するために、帰国後に成績証明書の提出を求められることがあります。

講義要綱・シラバス

【講義要綱】

総合教育科目

宇宙と人間

講師 高柳 雄一

授業科目の内容：

宇宙、そして地球、生命について、科学がもたらす知見は、温暖化、エル・ニーニョ・・・など社会が直面する様々な地球環境問題を理解するうえで不可欠になっている。地球文明の持続が問題とされている現代社会を広い視点から考えるうえで役立つ宇宙科学と生命科学の成果を平易な解説でまとめた。

テキスト：

特になし

参考書：

その都度紹介したい。

民族音楽学

音楽の世界

講師 柘植 元一

授業科目の内容：

人類の音楽行動の諸相をグローバルな視点から眺め、それぞれの文化における音楽のしくみを比較考察する。「人類の音楽とは何か」という問題を考えるのを主眼とする。同時に、世界の諸民族がこれまで創りだしてきたさまざまな音楽様式の響きを理解し、多様な楽器に関する基礎的な知識を身につけることを目的とする。

テキスト：

・柘植元一・塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999）

参考書：

- ・柘植元一『世界音楽への招待』（音楽之友社、1991）
- ・柘植元一・植村幸生編『アジア音楽史』（音楽之友社、1996）

人の尊厳（春学期）

社会と人権

文学部 教授 関場 武

文学部 教授 安藤 寿康

授業科目の内容：

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまようわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

西洋文学説史

キリスト教と儒教の古典主義的近代化

教授 松村 宏

授業科目の内容：

福沢諭吉と丸山真男によって行われた各西洋文学説の検討を手がかりに、ヴィンデルバントの哲学史とヴェーバーの文明史を再検討する。とくに日本文学説史との併行異同関係を考え、世界市民文学説への展望を拓く。実はプラトンとソフィストの論争は世界史を貫いて蔽存しており、この問題の解法史を辿り新たな工夫をこ

らす。いわゆる関係（相関）主義ならびに外在要因対応としての人間研究である。具体的には、ヴェーバーの「儒教と道教」の対訳構成資料を読みこむことから始める。ヴェーバーには日本古学派以来の日本近代化がぬけているので大幅な見解の組みかえを行う。

テキスト：

上記四者の原本と翻訳本を多く参照するが、必要箇所を編集して複写を配布する。

参考書：

- ・ヴィンデルバントの「哲学史」
- ・ヴェーバーの「経済と社会」と「宗教社会学論集」

日本文学説史

古代から近代までの論語老子解釈史

教授 松村 宏

授業科目の内容：

福沢諭吉と丸山真男の近代文学説の原型を日本近世の祖来学に求め、論語と老子・孫子を連動させた日本独自の近代文学説の枠組を創出した思案の跡を辿る。そして上級武士道と市民文明の生成を研究する。

テキスト：

- ・荻生祖来『論語徴』（平凡社東洋文庫一と二）。
- ・論語徴原文、論語古訓外伝、論語稽古などの原文と上泉信綱文書など資料は、配布する。

参考書：

- ・丸山真男『日本政治思想史研究』（東大出版会）

総合教育セミナー（Ⅲ類）（春学期）

日本の金融ビッグバン

FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN

講師 ハリス、グレアム O. B. E

授業科目の内容：

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

テキスト：

Current materials will be used.

【専攻科目Ⅲ類】

1. 目的および概要

1999年度から、専攻科目Ⅲ類で履修可能な「科目」が増え、従来の外書演習（通年2単位）のほか、専門外国書研究（通年2単位）、専門演習（通年2単位）、外国語特殊（通年2単位）、研究会（2年間で8単位）が新たに加まりました。以上の科目の中には、担当教員の専門に応じて、複数の「クラス」が設置されています。これは、少しでも学生諸君の興味や関心に沿った形で、演習形式の授業を充実させることを目的とした改革です。それぞれの科目の大きな内容は、次の通りです。

- *外書演習：商学部にあふさわしい内容-1) 商学部の専門に属する内容、2) 専門のバックグラウンドとなるような社会・文化的な内容、3) ビジネス関係の実用的内容-のいずれかについて、原書を題材に、演習形式で学ぶ科目です。
- *専門外国書研究：外書演習より高度な専門的研究を、原書を教材に演習形式で行う科目です。
- *専門演習：研究会に属さない学生のために、専門科目の基礎を演習形式で勉強する科目です。
- *外国語特殊：三田へ来てからも外国語を学びたい学生諸君を対象に設けられた、演習形式の授業です。
- *研究会：2年間にわたって、特定分野の研究を演習形式で行う科目です。

専攻科目Ⅲ類に属する以上の科目の中から、1科目2単位以上を履修しなければなりません。ただし、同一科目内では1クラスしか選択できません。また、研究会を選択する場合は、担当教員の承認を得て、第3・第4学年にわたって履修しなければならず、専攻科目Ⅲ類として専門演習を履修することはできませんので、注意してください。

2. 担当者間の取り決め

成績評価の方法や出席の取り扱いに関する担当者間のバラツキや、情報の不徹底からくる不満を少しでも解消するため、原則として、担当者間で次のような取り決めをしています。（なお、以下の取り決めはあくまでも原則であって、実際の授業は担当者の裁量によって運営されます。）

- イ) 成績評価について：各人の基本方針をあらかじめ講義要綱に明記する。
- ロ) 出席の取り扱いについて（共通ルール）：年間3分の1程度を超えて欠席した場合は不合格とする。共通ルールを採用しない場合は、それと同等以上の負担を課す。

3. 履修希望クラスの選択・申告

履修案内と一緒に配付された案内で確認してください。

【外書演習】

助教授 伊藤 規子

授業科目の内容：

主にミクロ経済学における効率性の考え方を、種々のテーマについての応用として理解することを目的とする。経済学の基礎を解説した平易なテキストを春学期に輪読する。夏休み中に履修者が選んだJapan TimesやEconomistなどの記事を担当者が編集して、秋学期に読む教材とする。

テキスト：

春学期中のテキストはDavid Smith著“Free Lunch; Easily Digestible Economics”, Profile Books, 2003。ただし、このうちミクロ経済学の部分の一部とする。テキストは担当者が編集して生協で入手できるようにする。秋学期についても同様。

(火曜日1限)(火曜日2限) 助教授 木地 孝之

授業科目の内容：

私の外書演習のキャッチ・フレーズは、“Japan in the World”および“Living with the Asian Country”である。その時々の政治・経済問題に関する各国人の見方・考え方を知ることによって、グローバル

化した社会の中で生きていくための素養を身に付けることを目的としており、英語の専門書を読むこと自体を目的にしたものではない。

授業では、事前にテキストとして使用する論文等を受講生に割り振り、その論文等の翻訳文と併せてその論文等に関するコメント（感想、反論、補強、証明等）を発表してもらう。次に、全員による討議を経た上で、必要に応じて補講を行う。

年度末には、各自が最も気に入った（感銘を受けた）論文一つを選び、内容を深めた研究レポート（日本語）を提供する。なお、前・後期に各1回程度のディベートを計画している。

助教授 吉川 肇子

授業科目の内容：

1. 批判的に考える方法を、心理学的手法を使って身につけることを、英語を通して学びます。
2. 授業の進め方は、(1) 単語テスト、(2) 該当箇所の発表（発表担当者）および受講生を指名して内容について尋ねる、(3) まとめ、という3つのステップを毎時間繰り返します。
3. 毎時間受講生全員を指名できるよう、努力します。

テキスト：

・ Rusco, J. 2002 Clear Thinking With Psychology : Separating Sense from Nonsense. Thomson Learning.

助教授 佐藤 和

授業科目の内容：

米国 MBA コースのダイジェストをテキストとして用い、ビジネスの基礎を学ぶ。

テキスト：

・ Steven Silbiger, *The Ten-Day MBA*, William Morrow, 1999

参考書：

・ 渡会圭子, 曾根原美保訳『10日で学ぶMBA』ソフトバンク, 2002

(ドイツ語) 講師 ハイנטツェ, ウルリッヒ

授業科目の内容：

「ドイツ語学習から他者理解へ」をモットーに、単なる語学習得から一歩踏み出し、文化・歴史・技術といった幅広い教養を身につける道具としてのドイツ語学習を目指す。文法を学び終えた学習者を対象に様々なジャンルの文章を通して読解力の向上を目的とする。それと同時に、本テキストに付随している2枚のネイティブスピーカーによる録音CDも活用して、講読されるテキストの音読理解にも努めたい。

テキスト：

・ Prisms, 東京大学教養学部ドイツ語部会編, 2002年, ISBN 4-13-082116-3 (本体価格3000円)

(中国語) 助教授 櫻庭 ゆみ子

授業科目の内容：

中国語の基礎学力をひととおり身につけ、今後それぞれの専門分野で中国と関わっていかうと考えている学生諸君が、その前段階として触れるべき様々な文書の講読訓練を行うクラスです。

政治、経済、文化等、多彩な分野にわたる文章を読みながら、言葉の表面的な理解にだけでなく、それぞれの文章が伝える意味、書き手のメッセージ等で理解できる講読力の獲得を目指します。授業ではみなさんがこれまで触れてきた中国語の文章より長いものを精読・多読します。今回使用するテキストは読んで面白い文章が盛り込まれたものですから、「講読」に慣れない時期の辛さへは十分な見返りがあると思います。

曖昧かつ（おそらく）混乱状態にある文法事項については訳の作業の中で確認しながら定着をはかります。

テキスト：

・ 東京大学教養学部中国語部会編「中国語講読教材 園地」(CD付き) (東京大学出版会 2002年3000円)

(スペイン語)

専任講師 安井 伸

授業科目の内容：

時事的な話題を中心に、スペイン語圏の新聞・雑誌記事等を読み解く。読解・音読・聴解能力の養成を図るとともに、ラテンアメリカ地域を中心とする国際情勢の理解を深める。

テキスト：

必要に応じて、教材を配布する。

【外国語特殊】

(英語演習)

助教授 シェイ、デイビッド P.

授業科目の内容：

This class is designed for regular, intermediate-level students at Mita who are interested in improving their English through reading and discussing business issues from a social point of view.

(英語演習)

Globalization Studies 助教授 ハンリー、マシュー M.

授業科目の内容：

The aim of this intermediate-level content-based course is to explore various aspects of globalization in English. Although most studies present globalization as primarily an economic phenomenon, our interdisciplinary materials will present globalization as a multifaceted transformational process that affects many aspects of our lives in the new millennium. Thus we will look not only at the emerging global economic system, but also at the changes globalization is effecting in cultural, political, technological, legal, and ecological dimensions of contemporary social life.

The class will improve your high-level vocabulary skills and your ability to discuss and present advanced concepts in academic English appropriate to university-level study. The written, Web-based, and video-taped materials will also improve your listening as well as extensive and intensive reading skills. There will be twelve vocabulary quizzes, weekly reading assignments, at least two PowerPoint presentations, two short end-of-term tests, and a short book report. Detailed information about the materials, aims, requirements, will be given at the guidance session in April.

テキスト：

- A: Steger, Manfred B. *Globalization: A Very Short Introduction*. Oxford: Oxford University Press 2003.
- B: Web-based materials.
- C: Video-taped materials.
- D: Handouts provided by the instructor.

参考書：

A list of recommended books will be provided during the class.

(英語演習)

“Presentation and Discussion Class”

専任講師 吉田 友子

授業科目の内容：

Being able to deliver an effective presentation and discuss controversial topics in English are critical skills in today's business world. In this class, students will take turns making presentations on controversial topics of their interest. The presenter will be responsible for providing reading materials, vocabulary lists, and discussion questions in advance. The other class members will have one week to read the articles provided by the presenters and prepare for discussion. On the day of the presentation, the presenter will provide a short synopsis of the article and present various perspectives on the particular

topic. Students are encouraged to use Power Point when making their presentations. The rest of the class will then break up into small groups and discuss their thoughts and opinions. Students should keep a journal on the various topics discussed in class along with the various viewpoints presented by their classmates. In addition to these regular presentations, there will be a final report and a final exam each semester. For the final report, students are encouraged to pick a topic of interest (or expand on a topic they chose for their presentation) and present it analytically. The final exam given at the end of each semester will be based on the topics presented during that semester.

テキスト：

Current materials will be provided.

参考書：

- ・ Academic Writing I—Eigo Ronbun Sakusei Hou By: Tomoko Isogai Keio Daigaku Shuppan Kai
- ・ Publication Manual of the American Psychological Association 5th Edition

(ドイツ語口語表現)

講師 ハイנטツェ、ウルリッヒ

授業科目の内容：

焦点：数学用語・統計用語と身体・医学用語

テキスト：

先生持参

(フランス語上級—講読)

教授 鈴木 順二

授業科目の内容：

フランスのジャーナリストや専門家が、さまざまな観点から今日の日本について書いた文章を読みます。

日本社会はフランス人の目にどのように映っているのでしょうか。フランス語を読み解く力を伸ばしながら、フランス人の見方を知り、新たな視点から私たちの社会を、さらにはフランスの社会を見つめなおすきっかけが得られればと思います。

テキスト：

プリントを配布します。春学期には、注をつけたテキストを使用します。

(フランス語上級—演習)

講師 ボダン、エマニュエル

授業科目の内容：

Ce cours propose aux étudiants d'enrichir leur connaissance de la culture française, à travers l'étude de documents divers (chansons, BD, vidéos...)

L'assiduité aux cours est requise.

L'évaluation reposera sur des tests semestriels.

テキスト：

プリント

(中国語中・上級)

助教授 櫻庭 ゆみ子

授業科目の内容：

TECC (中国語のコミュニケーション能力を測る検定試験) の方式を用い、会話能力の向上に向けて訓練を行うクラスです。

中国で生活する際に出会う様々な状況での言い回しを学びます。

テキストはリスニング問題の箇所を中心に用い、「話す」、「聞く」練習を繰り返し行い、中国語本来のリズム感、アクセント、言い回し等を把握すると同時に、語彙を増やしていきます。

テキスト：

- ・ 重松淳他「TECC方式で学ぶレベルアップ中国語」CD付(朝日出版社、2003年、2600円)

春学期及び秋学期に一回ずつ総まとめのテストを行う。

授業科目の内容:

入門と初級で習得したものを定着させながら、中級レベルの実用会話と作文を勉強していく。表現力の養成に力点をおき、できるだけ多くの場面別会話を身につけ、やや複雑な複文でも応用できるようにする。

テキスト:

自作テキスト『実用中国語会話』を用意する。

参考書:

中国語辞書を持参すること。

授業科目の内容:

TEMA: CULTURA ESPAÑOLA

En esta clase al tratarse de estudiantes que tienen un nivel superior de español, a la vez que es un repaso de lo estudiado hasta ahora, se desea que sea a su vez una profundización en la conversación y en la cultura. Procurando que se tengan temas que les pueda ser útiles en su especialidad de Comercio y también en su vida futura.

Por lo tanto se necesita que los estudiantes que tomen esta clase tengan un nivel superior y también que estén dispuestos a realizar las tareas que cada semana se les dará, así como a preparar y repasar para la clase.

De vez en cuando se verán videos y se comentará sobre ello.

Tendremos un libro de texto fácil de comprensión, pero que ayude a tener conocimientos sobre la cultura, costumbres y vida de España y Latinoamérica. A su vez, ello ayudará a tener en la clase mayor facilidad para exponer su pensamiento y llegar a tener mayor fluidez en la conversación.

LIBRO DE TEXTO: CURSO DE ESPAÑOL PARA EXTRANJEROS

Intermedio, libro del alumno

Autores: Virgilio Borobio y Ramón Palencia

Edit: SM.

CALIFICACIÓN: Todas las semanas cada alumno debiera exponer sobre un tema, por lo que la calificación se realizará por medio de esas ponencias, la asistencia y participación en las clases y un examen oral al final del curso.

【専門演習】

授業科目の内容:

企業経営に関する基本的な知識を習得するとともに各自が興味をもった企業および産業に関して調査、発表を行い質疑応答を通じて実際の企業経営に関する理解を深めることを企図している。

テキスト:

必要に応じて資料を配布する。

参考書:

必要に応じて紹介する。

授業科目の内容:

この授業では、さまざまな管理会計手法の現代的意義について講義・議論する。

テキスト:

第1回授業時に、トピックごとの必読文献を指示。

参考書:

- ・興津裕康・岡野憲治・吉田栄介編『基礎から学ぶ現代原価計算』白桃書房。
- ・吉田栄介『持続的競争優位をもたらす原価企画能力』中央経済社。

その他、トピックに応じて、適宜紹介する。

授業科目の内容:

マーケティングは、企業目的に合致した最適なマーケティング活動を行うために、何らかの根拠で戦略策定し、さらに、その成果を事前観察することによって次なる戦略策定にフィードバックさせる（これは、古くから Plan-Do-See として知られる営みである）。同様に、マーケティング研究者もまた、マーケティング現象を説明するために、何らかの理論モデルから仮説を導出し、さらにはそれを実証（反証）することによって次なる仮説導出にフィードバックさせる。本講は、こうした営みを総体的に考え、実際にその一端を体験することを目的とする。

テキスト:

テキストは使用せず、必要な教材は、担当教員より配布される。

参考書:

参考書の推薦を求める学生に対しては、個々人の関心の方向や理解に応じて個別に紹介したい。

授業科目の内容:

本講ではミクロマーケティングの理解を深める意図をもってマーケティングマネジメント論のテキストを取上げ、学習する。

マーケティング概念拡張論をはじめ今日のマーケティング研究に多大な影響を与えているマーケティング研究の第一人者P.コトラーの主要著作である「マーケティングマネジメント」の基本編を輪読し、マーケティングの理解を深めて行きたい。

テキスト:

- ・P.コトラー、恩蔵直人監修、月谷直紀訳「コトラーのマーケティングマネジメント（基本編）」（ピアソン・エデュケーション、2001年）定価3,700円

参考書:

授業時その都度指示する。

授業科目の内容:

本演習では、戦後から現代までの日本経済と産業、企業経営の歴史的变化を概観し、いわゆる「日本型経済システム」を支えてきたサブシステムの形成と変容の過程、現状の問題点について理解を深めることを目的とします。

テキスト:

- ・橋本寿朗・長谷川信・宮島英明『現代日本経済』(有斐閣、1998年、2200円)

【専門外国書研究】

授業科目の内容:

グローバル化の本質、実態、さらに危険を扱ったドイツの最新の文献を輪読していく。

なお、授業の進行方法は、参加者による翻訳と内容説明を主体とするので、必ず前もっての予習が必要である。試験は行わないので、出席、翻訳・内容説明、レポート(2回)が成績評価の基準である。

テキスト:

- ・Globalisierung der Unsicherheit

授業科目の内容：

フランス語の基礎を学んだ人に対して、経済記事や専門書を読むために必要な手引きをするのがこの講座の目的である。テキストとしては下記のものを使用し、日本人にはあまりなじみのないフランス経済の諸問題に対する知識を学ぶとともに、慣用的なフランス語の経済用語のマスターに努める。

テキスト：

・J. et G. Grémond, “L'économie française face aux défis mondiaux”, Hatier

【研究会】**研 究 会**

教授 赤 川 元 章

授業科目の内容：

「本ゼミ」

3年生は、金融経済学の基礎理論を広い視野から学習するために、新庄博著『財政金融経済論』（日本経済評論社）を輪読する。既に絶版になっているが、まず、本書を用いて、リカード・マルクス・ケインズ・ハイエク・フリードマン等の金融に関する理論的側面を原典に沿って、同時に通貨学派と銀行学派・金属主義と名目主義・戦時経済とインフレ・財政と金融・戦後の高度成長と金融システムなど、金融に関する理論・政策の論争、金融史の実証的展開についてトータルに学ぶ。また、随時、理論的・実証的により深く検討するために関連文献（和書・洋書）を付け加える。さらに、後半期には、最近刊行された金融経済領域を中心とした専門書の要約と批評を各人に1冊課し、合宿などを通じて発表してもらう。参考のため、昨年度に用いたテキストをあげると、寺西重郎著『日本経済システム』（岩波書店）、久保田隆著『資金決済システムの法的課題』（国際書院）、安原毅著『メキシコ経済の金融不安定性』（新評論）、ロバート・ウェード著『東アジア資本主義の政治経済学』（同文館）、G・Rステイール著『ハイエクの経済学』（学文社）、新山雄三著『論争コーポレート・ガバナンス』（商事法務研究会）などである。

4年生は、旧年度に卒業した赤川ゼミOBの卒業論文について、要約・検討・批評などを行い、自己体験を通して、「卒業論文とは何か？」を体得する。そのうえで、自らの卒業論文の中間発表を行い、問題意識・方法論・対象・構成・引用・など論文の書き方を学習していき、研究会での勉強成果を卒業論文に集約していく。

「サブゼミ」

共同で週一回『日本経済新聞』の金融記事を中心とした経済問題について討論する。このような方法で問題意識や構成員、表現力を養うと共に現実の経済・企業の動きや仕組み・問題点などを学習する。さらに夏期合宿などでその成果を集約して、各人がテーマ別に発表し、全体で討論し、レベルアップに努める。

サブゼミは、3・4年合同であり、和気あいあいの雰囲気の中で、少数のゼミではあるが、前後の先輩・後輩の将来まで続く人間関係の連鎖が形成されていく。

研 究 会 (財政学)

教授 跡 田 直 澄

授業科目の内容：

なぜ20歳から国民年金の保険料を払わなければならないのか。なぜアルバイトで稼いだお金に税金がかかるのか。なぜ営団だけではなく都営地下鉄が必要なのか。なぜ国立大学が必要なのだろうか。われわれの生活の身近なところで、政府部門はかなりの規模で活動している。その実態を知り、なぜそうした組織や制度が作られたのかを探り、その上で本当に必要か否かを検討する必要がある。本研究会では、こうした問題を議論しながら、政府部門のあり方を考えていきたい。

授業科目の内容：

産業組織論に関する基本的文献の輪読と最近のトピックについて、産業組織論の観点から分析する能力を養う。

研 究 会

助教授 伊 藤 規 子

授業科目の内容：

インフラストラクチャーや交通事業・公益事業といわれているような産業—鉄道、航空、バス、道路・港湾・空港整備、物流、電力、ガス、水道、通信、郵送サービスなど—の規制システムや政策、産業構造・成果を議論できるレベルをめざします。主にミクロ経済学（数学・統計学・ゲーム理論も含む）を道具に使用し、理論が予見することをベンチマークにして現実の産業・政策を分析してもらいます。卒業論文のテーマは自由ですので、例えば地域政策、教育、医療サービスなども含めることはできます。

研 究 会 (3年)

金融商品会計論

教授 伊 藤 眞

授業科目の内容：

この研究会の研究対象は、金融商品に関する会計である。金融商品とは何か。金融資産／負債に係る発生認識、消滅認識、評価、ヘッジ会計、そして、複合金融商品の会計処理方法の検討（日本基準を主軸として、必要に応じ、IAS、米国基準も探る）を通じて、分析と総合、論理的思考方法、発表方法、討論方法を学ぶ。

金融商品会計の原点である、金融商品に係る会計基準、金融商品会計に関する実務指針、及び金融商品会計に関するQ & Aの輪読を行い、設例を解く。毎回担当者がレジメを作成し、解説し、質疑応答・討論する。

卒論については、各自が自由なテーマを選定し、執筆する。

テキスト：

金融商品に関する文献（金融商品に係る会計基準、金融商品会計に関する実務指針、金融商品会計に関するQ & A等々〈監査小六法（平成16年版を入手すること）に掲載〉の原典）

参考書：

・「金融商品の完全解説-5訂版」伊藤・花田・荻原編著、財経詳報社
・改訂増補版「金融商品会計・外貨建取引の実務」日本公認会計士協会編、税務研究会出版局

研 究 会 (4年)

金融商品会計論その2+企業組織再編論

教授 伊 藤 眞

授業科目の内容：

卒論（テーマは各自が自由に選定）については、最初に研究テーマ・方針を報告し、研究途中で2回程度及び最終段階で、その内容を報告する。

卒論テーマの報告以外のときは、有価証券・金銭の信託・デリバティブ・債権以外の具体的な金融資産／負債に係る発生認識、消滅認識、評価を通じて、分析と総合、論理的思考方法、発表方法、討論方法を学ぶ。また、企業組織再編及びこれに関する会計の概要を理解する。

毎回担当者がレジメを作成し、解説し、質疑応答・討論を行う。

テキスト：

金融商品に関する文献（金融商品に係る会計基準、金融商品会計に関する実務指針、金融商品会計に関するQ & A等々〈監査小六法（平成16年版を入手すること）に掲載〉の原典）、企業結合に係る会計基準。

参考書：

・「金融商品の完全解説-5訂版」伊藤・花田・荻原編著、財経詳報社
・改訂増補版「金融商品会計・外貨建取引の実務」日本公認会計士協会編、税務研究会出版局

- ・「企業組織再編の会計」醍醐責任編集／伊藤・加藤編著，東京経済情報出版
- ・会計制度委員会研究報告第6号「株式交換及び株式移転制度を利用して完全親会社関係を創設する場合の資本連結手続」
- ・同研究報告第7号「会社分割に関する会計処理」

研究会 教授 井原 哲夫

授業科目の内容：

この研究会のねらいは、多様な経済的社会的現象を出来るだけ自分の目で観察し、また分析し、その現象を全体の経済学の体系的なかで理解する能力を養うことにある。したがって、学生諸君の研究対象を規制するつもりはないし、現に学生の研究対象はきわめて多様である。研究対象の選択が自由であるからこそ一つの心構えが要求される。すなわち、学生諸君が経済現象に対して問題意識をもち、2年間の研究によって、その問題を解決するつもりで入会するのが理想である。研究会では、基本的な経済学の本を輪読形式で読み、経済現象に対する経済学的理解の仕方の指導を行うから、この過程で入会時の問題意識が変化しても、もちろんさしつかえない。そして、個々の学生の研究は学生自身の自主的研究にまかせる方針である。もちろん、学生の個別の指導は十分に行うつもりである。このように、当研究会ではただ与えられることを学ぶつもりで入会しても、研究会の方針に従うことはできない。あくまでも能動的な学生のみを受け入れるつもりである。

成績評価方法：

- ・平常点および卒業論文

研究会 企業の成長・衰退と戦略的マネジメント
教授 今口 忠政

授業科目の内容：

研究会では、経営現象に対して理論的な考察ができる能力、創造的に対処できる能力、わかりやすくプレゼンテーション（発表）する能力を育成することが目的である。そのため、1) マネジメントに関する文献の輪読、2) 現実の企業動向の資料をもとに分析する学習、3) 研究課題を解決するグループ実習と発表、4) 各自の研究課題に対する研究発表などを取り混ぜて進める。

具体的には、文献を輪読し発表しながら、理論的な概念を学習することから始め、発表、質問、コーディネートの役割を体験できるようにする。夏休みの合宿（2泊3日を予定）では、各自の研究課題に関する発表を中心とし、普段の研究会では時間的に難しい問題解決の実習やケース研究を行う。

秋学期は、研究課題に関するさらに高度な文献を輪読し、グループごとに課題の設定、資料の収集・分析、発表を中心とした研究会を行い、三田祭の発表準備も並行して実施する。最終的に、1年間の内容をレポートにまとめて提出する。

テキスト：

『ターンアラウンド・マネジメント』（ダイヤモンド社）を輪読し、適宜、関連する論文や資料等を配布します。

参考書：

随時、研究会の場で紹介します。

研究会（経営学・現代企業経営論）
教授 植竹 晃久

授業科目の内容：

今日において代表的な企業は、しばしばそれ自体が多産業化と多国籍化を達成して高度に複雑化した組織体となっているが、本研究会は、こうした現代企業について、その基本的な枠組みと内部過程（組織・管理・戦略過程）を対象に研究を進めていく。

テキスト：

本年度は卒論指導に主眼をおくため、特に定まったテキストは指定しない。

参考書：

必要に応じて、その都度指示する。

研究会 助教授 牛島 利明

授業科目の内容：

この研究会では、明治期から現代にいたる日本の産業・経営の「歴史」を研究分野とします。しかし、産業史・経営史研究は決して過去のみで完結するものではありません。その重要な課題のひとつは「いま現在」私達が抱える問題の歴史的な背景を読み解くことによって新たな展望を獲得する、ということにあります。ある問題がどのような社会的・経済的要因の相互作用の中で形成されたのか、さらに今なぜ変化しつつあるのか（またはなぜ変化しないのか）、その理由を歴史的な脈の中で解き明かすことが研究上の重要な視角の一つなのです。

問題意識なしに歴史を見ても、それは無味乾燥な出来事の羅列にすぎません。今日の問題を考える上で、できあいの説明、根拠のない通説を疑い、長期的な視野を持って考えることができるかどうか、ということが大切です。ゼミで扱うテーマは産業・経営の歴史にかかわるものであれば特に限定しません。共同研究や個人卒論作成を通じ、鋭い問題意識、的確な情報収集と分析をもとに議論を進める能力を培う。これをゼミの最終目的にしたいと考えています。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

必要に応じてその都度指示する。

研究会 専任講師 梅津 光弘

授業科目の内容：

本研究会は企業倫理 (Business Ethics) および企業と社会 (Business and Society)、経営社会政策 (Corporate Social Policy) などの分野を研究する集まりであり、以下にあげる諸点をその研究目的とします。

- 1) 企業経営を経営学のみならず哲学・倫理的な視点からもとらえ、それらを理論、実践、制度の側面から分析、調査して課題事項の理解を深めるとともに、提言や政策立案などを考察すること。
- 2) 企業経営を事業体を取りまく様々なステイクホルダーとの関係からとらえ、そこにあらわれる経済的、法的、倫理的、社会貢献的などの企業社会責任の理解を深めるとともに、提言や政策立案などを考察すること。
- 3) 今後発展の予想される NGO、NPO などの非営利組織の在り方を考察し、そうした組織と企業との連携の可能性、企業の先導、経営者のリーダーシップのあり方などの理解を深めるとともに、提言や政策立案などを考察すること。

3年生はバーチャム、ボウイ著『企業倫理学』見洋書房を主テキストに使い、発表と討論を中心に進める予定です。

4年生は卒論中間発表を中心に進める予定です。

参加者はこうした分野に関心を持ち、2年間真剣に研究してみようという意志のあること、専門の論文が読める程度の英文の読解能力のあること、春学期に開講している現代企業経営各論（企業倫理）を同時履修することなどです。

研究会 教授 岡本 大輔

授業科目の内容：

本研究会は日本企業の経営方法、行動、成果の評価分析を目的としている。これは通常言われる経営学研究に他ならない。ただしその方法として実証研究に重点を置き、各要因と成果との関係を計量的に評価する、という特色を持っている。

従来日本の経営学はアメリカの経営管理論、ドイツの経営経済学などを中心に発展してきた。しかし絶えざる日本経済の成長、発展の結果、いまや日本の経営は、良い意味でも悪い意味でも、世界の注目を浴びるようになった。そこで、日本の経営を対象とした日本独自の経営学を研究する必要が生じてきた。そのためには従来の文

献研究に加えて、実際の日本の経営、企業行動を把握するための実証研究が不可欠なのである。

そこで本研究会では各種経営学の文献に触れ、経営学の基礎を学び、また実証研究の武器となる統計的手法を修得する、といった目的を持って活動を行なう。さらにこれらをもとに4年生修了時には全員が卒業論文を書けるよう、指導する。

研究会

助教授 小野晃典

授業科目の内容：

当ゼミで学ぶことは、以下に列挙されるとおりである。

〈マーケティング論〉

マーケティング論は、売手の対市場活動であるマーケティング活動、買手の消費者行動、および、両者の相互作用によって生ずる社会現象を研究対象とする学科領域と見なすことができる。具体的には例えば「なぜ消費者はこのブランドを選択したのか」、「なぜこの広告は効果的に売上に貢献しているのか」といった種々の課題に解答を与えるような理論の構築を目指す研究分野である。

〈広告論+消費者行動論〉

マーケティング論は広範な研究対象を持っているが、当ゼミ担当教員は広告論と消費者行動論を中心に研究している。製品情報に関わるコミュニケーション（売手の広告・プロモーション、買手の情報探索や口コミ活動）が関心対象である。ただし、多種の戦略を総合的に立案することを尊重するマーケティングにあって、この主題のみがゼミ生に強調されることはない。

〈理論研究+実証研究〉

研究対象と並んで重要なのが、研究方法である。論理的な筋道を立てて思考するために、当ゼミでは「論証」が重視される。他方、現状を把握したり理論と現実の対応をチェックしたりするために、「実証」も重視される。

当ゼミでは、既存の理論や実例を知識として蓄積することを最終目標とはしない。古い理論の難点を指摘して新しい理論を創造すること、あるいは、実例のなかの諸要素を解析して次に起こる現象を説明・予測することが重視される。

〈自主性+社会性〉

当ゼミでは、ゼミ生の自主性が尊重される。高度な研究意欲と研究成果が維持されるかぎり、ゼミ生は教員から研究のテーマや内容を強制されることはない。普段のゼミ活動はゼミ生によって主導され、教員はそのコーディネータないしコメンテータの役割を演じることになる。

他方、当ゼミでの共同生活は、ゼミ生の社会性を養う。自分のアイデアを皆の前でプレゼンすることや、個性を發揮しつつも仲間と協調しあうことを学ぶ。その他、ゼミの組織運営や活動企画も社会性の向上に貢献すると見込まれる。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

研究会

教授 榎原正勝

授業科目の内容：

マーケティング現象を経済学的接近をもって認識、分析する「マーケティング経済学」及び「経済学方法論」を研究する。授業では「マーケティング論」「経済学」「方法論」の基本文献を併行的に輪読し、それぞれを関連づけながら総合的理解をめざす。

テキスト：

- ・マーケティング関係：W. オルダースン「マーケティング行動と経営者行為」その他
- ・経済学関係：C. メンガー「一般理論経済学 (1)(2)」, その他オーストリア派経済学の著作
- ・方法論関係：K. ボバー「歴史主義の貧困」, M. ウェーバー「社会科学の方法」その他

参考書：

その都度指示する

研究会

金融論・ファイナンス理論

教授 金子 隆

授業科目の内容：

金融に関する様々な事象を、経済学的な視点から理論的かつ実証的に分析する。新聞などで目にする金融的なトピックスについて、ただ表面的な知識を得るだけでなく、問題を発見し、背後にある本質を理解し、通説や政策の妥当性を検討する。そうした作業を通して、物事の是非を先入観抜きで客観的に判断し、自分の考えを論理的に述べる力を養ってもらおう。これがゼミで私をもっとも心掛けている点である。

テキスト：

- ・A・ダモダラン著『コーポレート・ファイナンス：戦略と応用』（三浦良三他訳）東洋経済新報社、2001年

研究会

教授 唐木 園 和

授業科目の内容：

〈研究対象〉

国際経済学は、国境を越えた経済諸現象を研究対象とする学問である。国際間における財貨・サービスの取引、さらに、外国に資本を貸付けたり、企業を設立したりする資本移動などともなる経済現象が、主たる研究対象である。

国際貿易の純粋理論、関税理論、貿易政策、国際収支論、資本移動論、多国籍企業論などが、国際経済学の研究領域に含まれる。

このほかに、多国間にわたる経済問題も近年ますます重要度を増している。

例えば南北問題、経済統合、国際通貨体制なども重要な研究対象である。

なお本研究会では、国際経済学のほかに、経済発展論も研究領域とするため、各国の経済発展に関心を持っている諸君も受け入れる。例えば「直接投資と経済発展」とか「中国の経済発展」「経済発展と環境問題」というような課題について卒業論文を書く場合である。

〈研究方針と研究会活動〉

国際経済学の研究領域はこのように広いため、2年間でそのすべてを研究することは不可能である。そこで、研究会では次の3つの方針を採っている。

- (1) 経済現象を理解するための理論的基礎を築くこと。そのために、国際経済学や理論経済学に関する基本的文献を輪読する。
- (2) 国際経済における現在の主要問題は何かを的確に認識し、それについて自分なりの分析視角をもつこと。そのために、現実の諸問題について春・秋学期各3回程ずつ討論会を行う。
- (3) 各自がおのおののテーマにしたがって、様々な知識を体系的に整理した上で、新しい何かを発見すること。卒業論文の作成がこれにあたる。その準備のために、文献を探し文章を書く練習として課題レポート（4篇）、自分で課題を設定する能力を開発するための夏期自由論文、原書を読む力をつけ、あわせて卒論の資料とするための欧米文献紹介（3年秋学期から4年春学期にかけ月1篇）が課せられる。このようにして、実力と資料の蓄積が無理なく徐々に増大するように配慮している。

〈その他の活動〉

夏期合宿では、ハイエク『隷属への道』など、社会科学の基本的考え方に関する文献を読み、討論を行なう。また、会誌が年5回程発行され、ゼミ員の考え方について相互理解を深める一助になっている。

テキスト：

「国際経済学」に関するテキストで、2004年4月初めの時点で最もよいと思われるものを、ゼミ員諸君の同意を得て選択する。

研究会

助教授 神戸 和 雄

授業科目の内容：

当研究会は経営学の領域一般を研究対象としているが、特に企業における情報の取り扱いに注目して研究を行う方向を企図している。

近年、インターネットの急速な普及に伴い、情報ネットワークに関する関心が高まりつつあるが、現実の企業における情報システムの導入は必ずしも円滑に行われているとは言い難い側面がある。情報システムの大規模投資に見合うだけの効果が得られるかどうかは個別企業の特性にどれだけ合致した情報システムを構築、運用できるかにかかっている。情報技術の進歩は目覚ましいものがあり、的確な方向性を見出すためにはある程度、技術的な側面を理解することも必要になってくるものと考えている。

着実な分析を行うために、まず経営学の基礎的な知識の確認を行うことが必要となる。3年生の前半は経営学の基礎的な知識を確認するための基本文献を輪読する。それと併せて、企業経営の評価を行うために財務データによる分析を3名程度の小人数グループにより行う。基本文献の輪読は主として授業時間中に、財務データに基づく企業分析は各グループが個々に進めてゆくこととなる。

研究会 助教授 木地 孝之

授業科目の内容：

本研究会のテーマは『経済を見る目』であり、マス・コミ等の報道に惑わされることなく、正しく経済の現状と問題点を把握する力量を身につけることを目的としている。

まず、各自が最も興味のあるテーマについて、仮説を立て、関連統計を収集し、分析することを通じて経済統計と経済分析に関する知識を深め、次いで、産業連関分析に挑戦する。分析の対象には、経済成長、貿易、物価、労働といった一般的な問題の他に、エネルギー・環境および東南アジアに重点を置いた国際経済分析が含まれる。

分析手法の修得より、そこに表れた経済現象の理解を重視するので、数学的な知識はさほど必要ではない。また、さまざまなテーマについてディスカッションを行い、時には専門家を招いた講義や工場見学等も実施する。

2年間の研究会活動の、おおよその目標は、次の通りである。

- (1) 主な経済統計を理解し、簡単な経済分析を行うことが出来る。
- (2) 産業連関表を理解し、初歩的な産業連関分析を行うことが出来る。
- (3) パソコンを使って、Excelによる表計算やグラフの作成およびインターネットによる情報検索を行うことが出来る。
- (4) 実践的な経済学の知識が身につけており、新聞やテレビの経済報道を正しく理解することが出来る。
- (5) 政治や経済について自分なりの考えを持っている。

テキスト：

授業の中で指示する。

参考書：

- ・「ゼミナール日本経済入門」(日本経済新聞社)
- ・「環太平洋産業連関分析学会」のビジネス・ジャーナル『産業連関』各号。

研究会 助教授 吉川 肇子

授業科目の内容：

この研究会では、人間の社会的な行動を、実証的な手法を用いて分析することを目的としています。

3年生では、(1) 調査や実験をもとにした論文を批判的に読む訓練をします。(2) 調査や実験の手法を身につけます。(3) 英語の論文をもとに、卒業論文の計画を立てます。

4年生では、データをもとにした卒業論文の作成を行います。

テキスト：

- ・浜田 麻里 (著) 大学生と留学生のための論文ワークブック くらしお出版
- ・吉田寿夫 (著) 本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房
- ・他3冊 (開講時に指示します。)

研究会 教授 工藤 教和

授業科目の内容：

個別産業史、比較産業史、経済史、経営史などの分野から各自卒

業論文の課題を設定し、完成に向けて努力することを基本とする。その上で、研究会構成員が討論を通じてそれを援助する。分析に必要な基本的な知識・手法などについては研究会のとくに初期に集中して身に付けることになる。また、現実社会に対する問題意識(それは歴史研究の出発点でもある)を磨くために現代の産業経済についての討論会も行なう。

テキスト：

未定：2003年には、J. Brown and M. B. Rose (eds.), *Entrepreneurship, Networks and Modern Business*, (Manchester, 1993) 所収の諸論文を読み、企業家の機能などについて考えた。

参考書：

研究会案内を参照のこと。

研究会 教授 黒川 行治

授業科目の内容：

私の見るところ、会計とは、企業の経済的活動及びその結末を測定・伝達する人間の行為であり、また測定・伝達された情報を解釈・利用する人間の行為である。かかる見地に立つと、人間の行為を研究対象とする他の学問の方法論が会計を研究対象とする会計学においても用いることができるのではないかと考えられる。学際的研究という言葉がいわれてから久しいが、事実、会計学は今や、行動科学、意思決定論、情報理論、財務論、社会学、政治学といった隣接諸科学の影響を受けて、非常に多様な学説あるいはアプローチが乱立する時代を迎えている。

かかる会計学の現状の中で、私自身の目標は、学際的アプローチによって会計行為を再解釈すること一時には理論モデルを使った演繹、また時には統計手法を使った実証一であった。何故ならば、かかるアプローチにもとづく解釈結果が既存の解釈を補強し、あるいは凌駕するような新発見となるかもしれないからである。

私の現在の興味は、①キャッシュフロー計算書の有用性の検証と財務流動性の新指標の開発、②企業の会計代替案選択行為および会計手続変更に関する実証的研究、③意思決定論を用いたエージェンシーセオリーの探究、④会計学の分野におけるプロスペクトセオリーの適用等の心理学的研究、⑤株式評価と合併比率の決定に関する実証的研究、⑥M&Aと連結・合併会計との関連、⑦オフバランス取引と会計認識・測定等である。

もちろん、これらは私の個人的研究テーマであって、ゼミ生諸君の卒論のテーマとして固執するものではない。

テキスト：

- 3年生、4年生：
・バレー・バーナード・ヒーラー著 斉藤静樹監訳
『企業分析入門』 東京大学出版会、2001年。

研究会 教授 黒田 昌裕

授業科目の内容：

実証科学としての経済分析の作法と考え方を習得させることを目的に、経済学、統計学の基礎知識を学習し、実際の経済資料に接して、自ら経済現象を分析してみることによってその考え方を身につけるようにする。

参考書：

- ・テキストブック「入門経済学」黒田昌裕・中島隆信著、東洋経済

研究会 教授 権 文 善 一

授業科目の内容：

<http://fbc.keio.ac.jp/~kenjoh/seminar/> を参照してもらいたい。

研究会 教授 小林 啓 孝

授業科目の内容：

私の研究領域は管理会計である。管理会計は企業の経営者や管理者に計画設定やコントロールを行なうに有用な情報を提供することを任務とすると言われている。

より良い計画設定のためには、企業の内外環境を分析、総合し、内外環境に適合した計画設定を心掛けていかねばならない。計画設定やコントロールに有用な情報の提供を重視するならば、これら計画設定やシステム設計に従事する者に必要とされる知識の範囲は広大となる。このような考えから、本研究会の研究領域は管理会計を中心としながらも、企業経営に関連した広範囲の分野となる。

研究会 教授 榊原 研 互

授業科目の内容：

当研究会は、経営学の学説史的分析を主たる目的とする。経営学説史というと、過去の経営学説や理論を年代順に整理して紹介するだけの学問と思われがちだが、むしろ歴史を学ぶ本当の意味は、過去を通して現在を知ることにある。つまり経営学説史の意義とは、経営学の発展のために先人達が払ってきた多くの努力の成果を理解し、それらを正確に位置づけることでこの学問の現状を知り、またそれによって将来の発展のための手掛りを得ることにある。経営学は学問としてすでに1世紀の歴史をもち、今日では社会科学の1学科として確固たる市民権を獲得している。しかし近年における対象領域の拡大や研究分野の細分化は、隣接諸科学との境界をますます不明確にし、今や経営学は「セオリー・ジャングル」と形容されるほど錯綜した様相を呈している。それだけに、目下の経営学にさらに実り豊かな発展を望もうとすれば、既存の諸理論、諸学説の体系的な整理が何よりも急務な課題となる。とりわけ新しい理論が次々と唱えられる今日、学説史の理解なしにそれらの真価を見極めることは不可能であろう。

もっともその場合、観点の選択次第で多様な学説史が描けることを知ることは重要である。したがって学説史の研究にあつては、「科学の進歩とは何か」「理論の真の理解とは何か」といった根本的な問題を避けて通ることはできない。それには単に経営学の知識のみならず、方法論や哲学などの幅広い知識が必要とされるのである。

本研究会ではこのような問題意識に基づき、まず学説分析に必要な基礎知識の習得を目指す。とくに方法論の習得は決して容易なものではなく、多くの努力と忍耐を要するが、研究会ではこうした思考のトレーニングを通して、幅広いものの見方、考え方を養成してゆくつもりである。

研究会 (計量経済学・国際産業連関分析) 教授 桜本 光

授業科目の内容：

当研究会の研究領域は、計量経済学であるが特に、国際産業連関表を用いた世界経済と日本との相互依存関係を分析する産業連関分析を専攻する。本ゼミでは、専攻分野の研究は勿論、より広く現代の経済現象を実証科学の立場で正確に理解し、自ら判断し行動できるような一般的知性をも養成する。サブゼミでは、計量分析の基礎知識を確保するのに必要な書物、論文等を適時輪読する。過去の卒業論文は、原則として統計資料を使った計量分析を伴う研究が多いが、テーマ及び分析手法は各自自由である。

研究会 助教授 佐藤 和

授業科目の内容：

本研究会は、現代企業経営についての実証研究の方法を学び、卒業時まで全員が各自の研究を卒業論文としてまとめることを目標としている。

実証研究とは、理論だけを単独で研究したり、逆にただ単に事例(ケース)を集めたりするだけではなく、両者を組み合わせることによって、企業経営を理論から導かれた仮説を通して考え、データや事例によって検証してゆく方法論である。

そして計量経営学 (Manage-metrics) の研究会として、少なくとも「数字」には強くなってもらいたい。まず企業に関するデータの収集・分析の方法を体系的に学び、さらにその実習を通じて統計的な分析の「結果」を吟味できる能力を身につけてもらいたい。そこでは必ずしも数学的な「知識」は要求されないが、統計的な「センス」

を磨いてほしいのである。

そして各人の問題意識に合わせて、3年でのグループ研究及び4年での卒論の研究テーマは、広く経営学全般から自由に選んで取り組んでほしい。

研究会は一般の授業とは異なり、各メンバーのより能動的な参加が要求される。研究会の活動内容や雰囲気、自分たちで積極的に創り出していこうと考えている学生を希望したい。

研究会 (知的財産) 教授 清水 啓助

授業科目の内容：

この研究会は、知的財産をビジネスという側面から捉え、経営や新事業の資源とすることを研究の対象とします。

特許、ブランド、デザイン、ソフトウェア、コンテンツ等の知的財産は企業の新たな競争力の源泉として注目されています。そして、これからの経済成長の原動力として知的財産を日本の産業の基盤とする「知的財産戦略」が打ち出されました。

当研究会では、知的財産の多様性や特殊性についての理解を深めるとともに、産学連携、ベンチャー創出、企業の競争力等における知的財産の役割について、ケーススタディや討論を行っていきます。

参考書：

- ・西村吉雄 著「産学連携」日経 BP 社
- ・リベット/クライン 著「ビジネスモデル特許戦略」NTT 出版
- ・清水啓助他 著「知的創造時代の知的財産」慶應義塾大学出版会

研究会 助教授 新保 一成

授業科目の内容：

本研究会では地球環境・地域環境保全のための制度や政策について実証経済学の立場から考えて行く。環境を保全しながら持続的な発展を可能にするには、物質的な意味での科学技術の開発と人々のライフスタイルの見直し、そしてそれらを実現するインセンティブを持たせるための経済的手段が必要である。これまで物質文明の豊かさを謳歌してきた先進諸国は1997年の京都会議で温暖化ガスの排出枠設定に関する協調政策に合意した一方で、世界人口の大部分をしめる開発途上国では貧困の解消がいまだに重要な課題であり、人々は実質的文明の成果を享受したいと願っている。この意味で地球環境を保全しながら持続的な発展を遂げるためには、われわれが将来世代に対してどのようなビジョンを持つかということと同時に、開発途上国の経済発展政策との協調という視点を欠かすことができない。研究会では、文献の輪読とともに産業連関モデルおよび計量経済モデルによるシミュレーションを通じて、経済と環境の関連についての理解を深めるように努める。

テキスト：

1. Wassily W. Leontief(1970), "Environmental Repercussions and the Economic Structure", *Review of Economics and Statistics*, 52, 262-72.
2. Wassily W. Leontief(1974), "Structure of the World Economy : Outline of a Simple Input-Output Formulation", Nobel Memorial Lecture, reprinted in *American Economic Review*, December, 823-34.
3. Faye Duchin and Glenn-Marie Lange(1994), *The Future of the Environment*, Oxford University Press.
4. W. D. ノードハウス, 『地球温暖化の経済学』, 室田泰弘・山下ゆかり・高瀬香絵 訳, 東洋経済新報社, 2002年。

参考書：

1. Wassily W. Leontief, Anne P. Carter, and Peter P. Petri(1977), *The Future of the World Economy*, Oxford University Press.
2. 日引 聡・有村俊秀, 『入門 環境経済学』, 中公新書, 2002年。
3. 松橋隆治, 『京都議定書と地球の再生』, NHKブックス, 2002年。
4. 高村ゆかり・亀山康子 編, 『京都議定書の国際制度』, 信山社, 2002年。
5. 小宮山 宏, 『地球持続の技術』, 岩波新書, 1999年。

専攻科目Ⅲ類

授業科目の内容:

この研究会では、自分の頭でものを考えられる人間を育てることを目的にしています。そのときどきの環境のもとで大切なことは何かを判断し、行動できる知性を身につけるといことです。これは意識して磨かないと身につけません。

そのためには、自分の身の廻りのことや社会現象にいつもみずみずしい関心をもつことがまず必要です。そのうえで、その自分の関心のあることを、できるだけ論理的に説明するトレーニングをしなくてはなりません。

具体的には、ゼミ員に卒業論文を書いてもらうことによってこのトレーニングを行います。論文のテーマはおよそ世の中に存在するものであれば何を選んでもかまいません。またそれを、説明する方法も、論理的であるかぎり特に限定はしません。要は、私や他のゼミ員を納得させられるかどうかということ、そして社会に新たな観智をもたらすものであるかどうかということです。

3年生は、まず最初に、卒業論文を書くための基礎能力、すなわち問題発見能力、分析能力、表現力を身につけるために、毎回1~2名のレポーターに課題を与えて報告してもらいます。また4年生は卒業論文の中間報告を中心に活動します。いずれも報告者以外のゼミ員は、必ずひとつは質問ないしコメントをする義務を負うということにしています。またゼミ員全員で分担を決めて参加する三田祭の共同研究や、野外の企業見学といったことも行っています。

授業科目の内容:

ゼミ員が経営学の基本的な知識の理解とそのような基礎知識を応用して現代企業経営の実態を分析しようという能力を培うことを目標としている。

そこで、前半のゼミでは経営学の基礎知識を理解するために、主な経営学説の流れや戦略、組織など経営全般にわたる分野について、それぞれに指定する複数の文献を参考にしながらゼミ員による発表形式をとり、議論とコメントを行ってゆく(具体的な内容の目次と参考文献については初回のゼミで配布する)。また、企業の実態分析のための一つの用具である財務諸表分析の方法については、別の時間を設け説明する。

このような準備がある程度整った段階で、3名程度のグループによる企業の実態分析を試みることになる。産業や企業の選択については全員で議論しながら決定をしたい。

テキスト:

未定(4月第1週に掲示する)

参考書:

- ・十川廣國『企業の再活性化とイノベーション』中央経済社, 1997
・十川廣國『戦略経営のすすめ』中央経済社, 2000

授業科目の内容:

私の研究分野は管理会計論です。管理会計は、企業の経営に有用な会計情報を、経営者・管理者・現場の作業員に提供します。管理会計を理解するためには、その前提として広く企業活動全般について理解する必要がありますので、本研究会ではそれらについての学習も補足的に行います。

テキスト:

最初の時間に指定します。

授業科目の内容:

当研究会は商業学・マーケティング分野に属し、様々なマーケティング現象を理論的・実証的に解明するための基礎知識とその方法

を習得することを目標としている。その上で、マーケティング戦略の立案等の応用面にも目を向け、マーケティング的なものの見方を養うことも重視している。

具体的な研究方法としては、学術書および論文の講読に加え、コンピュータによるマーケティング・データの解析、ケース・メソッド、ディベート、合宿研修等を適宜取り入れる。2年間の総合的な学習を通じて、マーケティングに対する専門的知識と企画提案力に身につくように指導して行きたい。

テキスト:

- ・高橋郁夫(2003)『消費者購買行動—小売マーケティングへの写像【増補版】』千倉書房。

授業科目の内容:

私の研究会では、市場・産業内部での企業間競争の分析を基本とします。各自の研究テーマは、なんらかの形で「市場(Market)」,「競争」が関連する限り、自由に選択できます。研究会での活動を通じて、専門分野の基礎的知識、問題発見・分析・解決の能力、発表・討論の仕方など様々なことを身につけてもらいたいと思います。

具体的な研究対象としては、①多角化、広告、研究開発、海外進出などの企業戦略、②製造業にとどまらず、流通分野、公的規制分野等も含む個別産業分析、③企業集団・系列などの日本経済・産業の制度分析—などが考えられ、その範囲は非常に多岐にわたります。ちなみに、ここ数年の三田祭研究のテーマは「環境問題と中小企業」「ベンチャービジネスの資金調達」「中小流通業の活性化戦略」「中小企業の戦略的連携」「中小企業の人材活用戦略」「地域活性化と中小企業」などでした。

本研究会での学問的基盤をなす産業組織論は、元来、独占禁止政策・公共政策の理論的なバックグラウンドとして展開されてきました。そこでは、「市場構造」(集中度、参入障壁など)—「市場行動」(企業の戦略的行動)—「市場成果」(利潤率、技術進歩など)という大きな枠組みにそって、産業が分析され、望ましい市場成果を得るために必要な政策が考察されます。つまり、産業組織研究の最終的な目的は、企業だけでなく、消費者や政府の立場をも視野に入れ、具体的に公共政策を考察することにあるということです。私自身は、産業組織論の応用として、ベンチャー企業の戦略や中小企業政策の研究を進めています。

なお、研究会に関するより詳しい情報は、下記ホームページにありますので、参照下さい。

http://www.fbc.keio.ac.jp/~takamiki

テキスト:

最初の授業までに入手方法を示します。

参考書:

必要に応じて、授業中に紹介します。

授業科目の内容:

現代企業は、さまざまな制度(組織構造、戦略、文化、ガバナンス・システム、ビジネス・モデルなど)によって構成されたまとまりをもつシステム(制度の複合体)としてとらえることができる。とくに近年、企業は経済のグローバル化やICT(情報・通信技術)の発展による環境変化のなかで、ドラスティックに変化している。本研究会は、現実世界で進化を遂げている企業のさまざまな制度的特徴にフォーカスをあてて研究を進めていく。

テキスト:

適宜指定する。

参考書:

- R.ラングロウ・P.ロバートソン(谷口和弘訳)(2004)『企業制度のダイナミクス:取引費用とケイパビリティの進化論』NTT出版, 近刊。
青木昌彦(瀧澤弘和・谷口和弘訳)(2001)『比較制度分析に向けて』NTT出版。

研究会 教授 玉置紀夫

授業科目の内容：

〈歴史研究の方法〉…歴史研究の方法，すなわち過去へのアプローチは，人それぞれに様々である。しかしそのたしかな方法は，できるだけ具体的に問題を立て，その問題の解答の中につぎの問題を捜すという。まことに単純なものである。例えば「天下分け目の関ヶ原の合戦における東軍の勝因」を研究対象として立てよう。軍勢において，東軍9万，西軍8万で，東軍優勢。陣容では，関ヶ原望地の街道沿に直線的に展開する東軍に対して，この窪地を西から南にかこむ高地に鶴翼の陣をかまえる西軍が優勢。しかし互角にみえたこの戦いの帰趨は，1600年9月15日の午前8時から5時間の以内に決まった。なぜだ？西軍8万の30%~40%が戦闘に加わらぬか，寝返ったからだ。なぜだ？ここから諸君の本格的な問に多くの原因が姿を現して，結局，天下分け目の戦いのかくもあっけない決着の歴史的原因が，豊臣政権の構造にあったことを，諸君は分析するに違いない。「東軍の勝因」というありふれた疑問に出発して，豊臣政権崩壊から徳川政権成立への壮大な歴史展開が諸君の前に出現することになる。

〈経済史研究の場合〉…経済史研究の場合，たとえば「徳川時代の最先端両替業と現代銀行業の相違」という問題を立てたとする。両替業は，預金を受け入れ利子を付け，資金を貸し付け利子を取る。現代における外国為替取引引き顔負けの，江戸・大阪間の複雑な為替をさばく。両替商は，信用創造すらも行ってた。これほどに発展していたものに，なぜ外国の制度を追加しなければならなかったのか？それをめぐって，なぜそれほどに大蔵省内で激論が交わされたのか？これらの「なぜだ？」は，やがて諸君をして，明治期権力闘争の経済面裏面を解明させるだろう。要するに，歴史研究においても，経済史研究においても，具体的に問題を立てその解答を探るというのが研究方法の王道である。それは経済理論の研究手法や，自然科学のそれすらとも共通している。相違は研究対象の性質のみだ。と断言しても違いはなからう。

〈日本における銀行史研究〉…日本における銀行史研究は，他国にくらべて伝統的に盛んである。それには様々の理由がある。明治政府が殖産興業への資金供給の為にその育成に力を入れ，それゆえに銀行業の先進国イギリスなどとくらべても，圧倒的に銀行数が多く，したがって多くの研究者の目をひきつけたからかもしれない。また明治期以来，高度経済成長のはじまるまで，銀行が最大の成長資金供給源であったことが研究者の関心をかきたてたからかもしれない。しかしどれほど研究史が長かろうと研究材料に事欠くことはなし，また研究史が厚ければそれらの研究を涉猟し，総合して，新しい歴史をまとめることもできる。日本における銀行史研究にこれから期待されているのはこの最後の点，すなわち研究の総合であるといってもさしつかえない。

〈私の研究会〉…私の研究会は，以上のように金融史（本年度は日本銀行を中心として）を軸に近代日本経済の形成・発展過程を研究することを目的としている。4月に新学期がスタートすると諸君はまず，自分のテーマを決めなければならない。そのためには手探りで文献をさがし，研究可能な資料が図書館に所在しているかどうか調べなければならない。研究会での報告発表ごとに諸君のテーマは，その具体性をふかめ，それについて諸君の関心は，深化・拡大していくであろう。1年間を終了して，小論文を2度書きあげ，次の新入会員が姿をあらわす頃には，諸君は各自のテーマについての慶應大学内随一の専門家となっているに違いない。

研究会 (社会問題の経済学・交通経済学) 教授 中条 潮

授業科目の内容：

自由経済体制の中にあっても，我々の日常生活は多くの規制にとりかこまれている。たとえば，麻薬の所持・使用，一方的な離婚，希少動物の捕獲，プロ野球球団の自由な選択等は禁止されている。

これらの規制は一見，社会的あるいは道徳的な価値判断に基づくもののように見えるが，人間の社会的行動はすべて費用と便益に基づいてなされるという事実を照らせば，これらの社会的規制の妥当性を経済学を用いて分析することが可能である。

この研究会では，社会的問題とされている様々な問題について，それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し，それらの社会問題の解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを議論する。

また，上記の政府規制が特に多く関係している分野が交通と公益事業（電力，ガス，通信等）である。この分野については，上記と同様の公共経済学的なアプローチを行うとともに，交通・公益事業に固有の経済的特徴・問題についても研究する。

したがって，本研究会の論文の過去のテーマ例は，教育自由化，医療保険の民営化，地方分権，農業保護の撤廃，上下水道・電気通信・電力など公益事業の規制緩和，金融規制緩和，外国人労働者問題，政府開発援助，大型店舗規制の廃止，自然保護，ゴミ処理，レンタル CD 問題，刑罰の経済学的考察，芸術保護，性表現，プロ野球，オリンピック，航空，大都市鉄道，新幹線等多岐にわたっている。

研究会 教授 辻 幸民

授業科目の内容：

当研究会の研究対象は，金融に関するものであれば何であって構わないが，分析のための手法は経済学をバックグラウンドとするものに限定する。当研究会の目的は，金融の現象を経済学の観点から分析する基本的な手法を習得することであり，そして各自の問題意識に応じて問題を設定し，習得した分析手法を応用することで見出される答を，卒論としてまとめて頂く。

具体的には資本市場や企業金融，デリバティブといった分野で使われる基本的な分析手法を勉強していく。この結果，2年後に卒論を完成させることが出来た者は，「ファイナンス」という分野の基本的な知識と分析手法を身に付けていることになる。そのためには，経済学と統計学および数学が必要不可欠であり，また実証的な問題解決のための道具としてコンピューターの利用も欠かせない。これらは各自の必要に応じて補習していく。

テキスト：

今年度のテキストは，
榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄『現代の財務管理』（有斐閣）
辻 幸民『企業金融の経済理論』（創成社）

参考書：

必要に応じて指示する。

研究会 教授 友岡 賛

授業科目の内容：

本研究会は会計学の研究会であって，その研究対象は，会計にかかわる問題でありさえすれば，とくに限定しないが，いずれの問題についても，基本的な思考に立ち返って考える研究姿勢を肝要視する。そしてまた，思索と議論とによって理論を構築することの甘苦を共にする。

研究会 教授 中島 隆 信

授業科目の内容：

本ゼミの目的は，実証科学としての経済学の分析手法を身につけることである。大学卒業後，社会人となる学生諸君にとって最も必要となるのは，社会が様々な問題に直面したときに正しい判断を下せる能力を身に付けておくことである。そして，正しい判断の拠り所となるのは，事実に対する鋭い観察眼と，それを解析するための経済学の理論である。本ゼミは，学生諸君個々人の問題意識を引き出すとともに，それら問題点を実証分析の手法に則って解明し，研究成果をゼミ員との活発な議論を通じて磨き上げて2年後の卒業論文の形で完成させるという順序で進めていく。

研究会 (マーケティング・サイエンス)

助教授 濱岡 豊

授業科目の内容:

このゼミでは、複雑に見える「市場」における現象の本質的な部分をみだし「論理」「モデル」を組立てて、「データ」を用いて検証し、それを実際に「マネジリアル」に役立てようというアプローチ、つまりマーケティング・サイエンスの視点から分析できるようになることを目的とする。

テキスト:

特に指定しない。資料は濱岡のホームページよりダウンロード可能。

<http://news.fbc.keio.ac.jp/~hamaoka/>

参考書:

上記を参照

研究会

教授 早見 均

授業科目の内容:

担当者はこれまで労働経済や環境問題の分野で、統計的手法を応用してモデルの推定や工学的データや貿易データを産業連関表とリンクさせて環境影響評価をおこなってきた。したがって、この研究会の得意とする内容は①統計的な手法を利用し、さまざまなデータを加工して、仮説を検証していく計量経済学の領域、②技術や新製品などの情報と産業連関表を利用した環境影響評価、③分析に応じて必要とされる統計学、計算手法、コンピュータ利用など方法論的な課題である。研究分野の内容はそれほどこだわらないが、重要な意義のあるテーマをいくつか選んで履修者全員で検討したい。

卒論となる研究論文ないしはそれに類する創作物を仕上げるのが研究会の到達目標である。そのためには、研究テーマの選択、構成、必要な資料の収集、適切な分析、類似研究のサーベイ、文章作成上の留意点や論文としての体裁、効果的な発表方法などを身につけていく必要がある。何度やってもなかなか満足いくようにできないが、繰り返しおこなうことでだんだん慣れてくるものである。

参考書:

<http://www.sanken.keio.ac.jp/staff/hayami> にこれまでの主な研究成果が掲載されているので参考にされたい。

研究会

教授 樋口 美雄

授業科目の内容:

このゼミでは、まず経済現象の変化や政策の有効性に関する議論に着目し、つづいてそれらの背景を知る上で必要となる分析ツールを勉強する。そして最終的にはそれらを援用して、自分の興味のある現象を実証的に分析し、政策の是非を評価できるまでになれるよう目指す。研究対象となるテーマは社会現象であれば、とくに問わない。

研究会

助教授 平野 隆

授業科目の内容:

この研究会は、おもにつぎの二つの分野を領域とする。①近代日本経済史・経営史: 幕末・明治維新から現在に至る日本の経済・経営・社会の歴史的研究、および日本と欧米あるいはアジア諸国との比較的研究。②消費社会論: 消費文化と小売業、広告、マスメディアなどの関係についての歴史的・社会学的研究。

3年次では、専門基本文献の輪読、あらかじめ与えられたテーマによるディベート、各自が選んだ文献・論文のレビューなどにより、経営史・消費社会論の基礎知識、分析方法やプレゼンテーションなどの基本的なアカデミック・スキルの修得を目指す。夏休み以降は、卒論作成のための個別指導(テーマの設定、研究文献・資料の探索、論文構成、執筆の技法など)を併行して行う。4年次は、主に卒論の中間報告を中心とし、私を含めたゼミ員全員との質疑応答を通じて、より完成度の高い論文に仕上げることを目指す。

研究会 (国際経済)

国際金融論とコーポレートガバナンス 教授 深尾 光洋

授業科目の内容:

大学での勉強は、試験対策のための短期決戦型になり勝ちで、陸上競技で言えば短距離競走のようなものであることが多いように思います。しかし就職してからの社会生活での競争は、むしろ自分でペースを作って自らの市場価値を維持し高めていく、マラソン型のものになります。会社で上司からの仕事を必死にこなしているだけでは、短期的な評価は上がっても、長い目で見ると競争力をなくしてリストラ対象になりかねません。終身雇用・年功序列の日本型人事制度は崩れて行く方向にあり、そうなると自分自身に投資を続け、市場価値を維持できる人と、そうでない人の格差は、長期的には大きなものになることが予想されます。そこで私のゼミでは、就職してからも自分の市場価値を維持し高めて行くサバイバルのノウハウを身に付けることを大きな目標にしたいと思います。そのために、読書の仕方、情報整理の仕方、パソコンを使った情報収集や情報交換のやり方について、実践的に学ぶことを目標にします。具体的には、国際金融とコーポレート・ガバナンスの国際比較という金融のマクロとミクロの側面を毎年交互に勉強し、二年間のゼミを通して学ぶことにより、現実の金融・経済動向を見る目を育ててゆきたいと思っています。

テキスト:

深尾光洋、『実践ゼミナール 国際金融』、東洋経済、1990年。この教科書を使って国際金融論の授業を行うので受講すること。ゼミでは輪読は行わない。

参考書:

授業計画を参照。

研究会

教授 堀田 一善

授業科目の内容:

マーケティングおよび流通現象の経済分析を中心とする学説史関係の基礎的文献を輪読し、レポートの作成を通じて各自の関心に応じた論文テーマの選定、論文作成を指導する。またサブゼミでは、科学方法論を学習する。本年度、本ゼミではマーケティングの経済理論を中心に関連文献を輪読し、サブ・ゼミではカール・R・ポパーの科学哲学関係の文献を輪読する予定である。

テキスト:

第一回目のゼミで指示する。

参考書:

適宜、指示する。

研究会 (保険学・保険政策論) 教授 堀田 一吉**授業科目の内容:**

本研究会は、保険学および保険政策論を研究する。国民生活が豊かになるにつれて、保険制度は、我々の生活に深く浸透し、身近な存在になってきた。我々の安定した生活は、多くの人々との関わりの中で、広い意味で、さまざまな保険制度に支えられているといえる。しかも、それぞれに他の制度とのつながりを深めていることから、一つの問題を取り上げる上で、保険制度全体の理解が必要とされる。我々の最終的な課題は、経済活動をより安定的かつ発展的に営むためには、保険制度がどの程度有効に機能するか考究すると共に、その限界を把握することにある。そうした研究過程を通じて、さまざまな社会問題に対する本質的理解と、その解決策を追究する。

テキスト:

・堀田一吉『保険理論と保険政策—原理と機能』東洋経済新報社

参考書:

・西村周三『保険と年金の経済学』名古屋大学出版会

授業の計画:

テキストの輪読ならびに、4年生の卒業論文の中間報告、3年生の共同研究レポートなどを中心に進める。

授業科目の内容:

本研究会は、マーケティング論の研究会であるが、私の主たる研究領域がマーケティング方法論とマーケティング学説史であるということから、マーケティング論だけでなく、科学哲学および関連諸学科の文献も題材として取りあげられる。本研究会では、このより広い領域の基本的知識の概要を提示した上で、そこから自分のテーマを選定してもらい、論文作成を指導する。

本研究会の目的は、このプロセスからの知識修得よりも、むしろそのプロセスにおける要約力・批判力・構成員力という知の技法を磨くことにある。それゆえ、自分の中に表現したい熱いものを持ち、どんなテーマでも自分とつながりがあるのだという気持ちで、積極的に討論に参加できる人をゼミに迎え入れたい。

授業科目の内容:

一般に企業会計は、株主や債権者など企業外部の利害関係者に損益計算書・貸借対照表・キャッシュ・フロー計算書等の財務諸表を通じて企業の経営成績および財政状態を報告することを目的とする。財務会計と企業内部の管理者各層に意思決定を行いまは業績を評価するのに有用な会計情報を提供することを目的とする管理会計の2つに大別されるが、当研究会は前者の財務会計を研究対象とする。外部利害関係者に提供される会計情報は法律等の規制を受けることが多いため、財務会計の勉強といえば専ら会計処理や表示に関する現行の諸基準・諸規則を覚え込むことであるかのように思われがちであるが、研究会では、単なる知識の習得ではなく、常に、何故そのようなになっているのか、果たしてそれでよいのか、といった問い掛けをし、自分で答えを見出そうとする姿勢を身につけることを目標とする。

3年の本ゼミでは財務会計の基本書を2〜3冊選んで輪読を行う。前もって割当てを決め、レジュメの作成・発表という形を採って進めていくが、ゼミそのものは担当者の発表に基づいて全員で議論することが中心となる。4年の本ゼミは主に卒業論文作成のための発表に充てられ、各自2〜3回の中間報告を行って最終的な完成を目指す。その他にサブゼミ・合宿・三田祭発表なども行う予定である。

テキスト:

- ・新井清光『財務会計論』中央経済社
・伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』日本経済新聞社
・田中茂次『現代会計学総論』中央経済社
・広瀬義州『財務会計』中央経済社
など。

参考書:

授業の中で紹介する。

授業科目の内容:

現在、国際経営、国際経済をめぐる動向は、実に目まぐるしい。北海道拓殖銀行、山一証券、三洋証券の経営破綻、旧財閥の枠組みを越えたさくら銀行と住友銀行の合併、日産自動車に対するルノーの資本参加、国外に目を転じれば、東西ドイツ統一、欧州連合の結成、ユーロバンクの設立、アジア経済危機など枚挙にいとまがない。この企業・経済を巡る激変の本質や原理を客観的に理解し分析できる能力が益々必要とされる時代となっている。この能力を少しでもより多く身につけてもらうために3つの主たるメニューを用意している。

第1に、基本的な経営学、経済学の文献を輪読し、著者の主張する論点を正しく把握し理解できる能力をつけてもらう。レポーターと司会役を決め、レポーターの報告を基に質疑応答を通して文献の理解度を深めてもらう。

第2に経営分析である。今年は、国際的な再編成の動きの激しい、自動車メーカーの経営分析を予定している。この目的は、論理的思

考力と分析力の養成と発展である。また、欧州自動車メーカーの環境への取り組みを見ていながら「あるべき企業像」についても考えてみたい。

第3に、卒論作成である。上記2項目を通して身につけた論理的思考力、実証的分析力を遺憾なく発揮し、論文作成に取り組んでもらう。論文のテーマは各自自由に設定する。

授業科目の内容:

この研究会では「経済を見る目」を養い、複雑な経済現象を自分なりにわかりやすい言葉で説明できるような能力を開発していきたいと思います。

授業科目の内容:

私の研究会は、「経済社会学」の名称のもとで現在我々が展開している経済生活における人間問題の社会構造的背景の究明が試みられる。中心に置かれるのは私自身の専門である産業社会研究(したがって、人間問題として浮かびあがってくるのは労働者の社会的存在性であり、分科社会学の名称としては「産業社会学」がより近い)であるが、研究会としてはやや枠を広げ、経済活動との係わりで生じてくる多様な人間問題の中から各員が知的関心を持つものを選べるようにしてある。しかし、これだけでは些か漠然とし過ぎるので、研究会としては、一方で「社会学的思考法を磨く」ことに努めるとともに、他方で現在の我が国に代表される「資本主義の高度産業社会における人間問題の具体的諸相の確認」が果たされていく。何はともあれ、現代の経済生活は産業社会として結実しているからである。各員はこの二つの方向性を結びつけようとする努力の中から、直接的ないし間接的に自らの研究テーマを選ぶことになっている。

テキスト:

その都度指定する。

参考書:

必要に応じて紹介している。

授業科目の内容:

この研究会では、「経済活動と地球環境に関する計量分析」を行う。各ゼミ員の自主性を重んじ、ゼミの計画、活動も全てゼミ員が合意のもとで決定していく方式をとります。したがって商学部の学生が卒業までに必要な経済学、商学などの幅広い教養育成は、当ゼミでは行わず授業で補っていただく。ゼミ活動を楽しんで卒業してもらうには、次のような学生が望ましい。

- 1. 数学、統計学が比較的苦にならない人
2. コンピューター・プログラムに関心を持って、経済分析に活用してみたいと考えている人

授業科目の内容:

私の研究領域は管理会計です。管理会計とは、経営管理に役立つ会計を対象とする学問領域です。実務においては、日本企業では典型的に、経理、経営企画や人事担当部署などが管理会計を担当しています。管理会計の扱うテーマは、実に多岐にわたるため、興味をもった人は、一度、書店にて管理会計のテキストを手にとり、目次をご覧になって下さい。

そうした多くの管理会計のテーマの中でも、私個人は、「製品開発ならびに生産段階での原価管理」と「非製造業における原価管理」に興味をもっています。もちろん、みなさんの研究テーマは、これらに限定する必要はありません。

授業科目の内容：

1. 企業経営と企業者活動について経済的・経営的考察を行います
が、中心的課題となるのは企業経営の発展・成長であり、これ
を文献および歴史資料等を用いて輪読をおこない、レポートを
作成して理解を深めていきます。なお、理論・歴史のいずれの
研究領域においても日本とアメリカを中心にとりあげます。
2. 比較検討の視点を養い、また多面的アプローチによる総合的理
解力を深めていくうえで、文献精読とその成果発表は欠かせま
せん。このため毎週数人の発表をもとに議論する形式をとって
いきますが、具体的な文献リストは春学期最初に提示します。

テキスト：

- ・アルフレッド・キヤンドゥー「経営者の時代」鳥羽欽一郎他訳、
東洋経済上・下
- ・ヒルシュマイヤー「日本の経営発展」東洋経済

授業科目の内容：

国境をこえた経済取引にかかわる問題発見とその解明を研究領域とする。したがって、今日では、外国貿易、通商政策、直接投資（多国籍企業）、国際金融、国際マクロ運営、開発途上国問題そして地球環境問題とその研究テーマは多岐にわたっている。

当研究会では、経済分析のための理論的素養と、グローバルな視点からの現実認識を2つの基本方針として、グループを中心とした作業や報告、そして討論を通じて自己を磨くことを主眼としている。また、最終的には独自の問題意識にそって各自テーマを絞り、理論と実態を体系的に整理・分析し、卒業論文の作成にあたることになる。

授業科目の内容：

私達のゼミナールの研究領域は、大きく分類すれば「経営学」ないし「企業研究」といったジャンルに入る。しかし、このようなことはゼミナールのメンバーが、この領域に属する研究のみに従事することを意味している訳ではない。

つまり私のゼミの各メンバーには、各々が主体的に自分達の領域及び課程を見つけ、これらを深化させていくことが望まれている。各メンバーは自分達の関心に従って、自分自身の問題を自らの方法によって探究し、それを発展させることが常に求められている。そのため各メンバーの研究テーマが、従来の「経営学」の領域からはみ出してしまうことは、当然のことである。

ゼミナールの各メンバーに望まれることは、より具体的には、三田の2年間という短い時間の中で、いかに自ら問題を深め、他の人とは一味も二味も違った卒業論文を書きあげるかということになる。

しかし、このことは言う程は易しいことではない。私達が皆さんにできることは、この分野の問題はこの様なものであり、これを解決するのはいくつかのやり方が考えられる、といったこと（=いわば料理のレシピ）を提示することと考えている。どのレシピを選ぶのか、そしてそれをどのように使うのかは、皆さんゼミの各メンバーの仕事なのである。

テキスト：

テキストは授業の進行にあわせて示すが、今年は以下のものを考えている
・青木昌彦著『比較制度分析に向けて』NTT出版

参考書：

参考書は経営学、経済学、ゲーム理論の入門書を使用する予定である。

〔 A 経営 〕

現代企業経営論 教授 植竹 晃久

授業科目の内容：

現代における企業と企業経営の特徴と課題について講述し、企業経営に関する基本的知識を身につけるとともに、今日の企業において何が問題となっているかについて考察していく。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・植竹晃久・仲田正機編著『現代企業の所有・支配・管理—コーポレート・ガバナンスと企業管理システム—』、ミネルヴァ書房

経営管理論

戦略構築と組織設計のマネジメント

教授 今口 忠政

授業科目の内容：

経営管理とは企業の目標を効果的に達成するために、組織メンバーの協働をいかに確保して実現するか、に関する学問である。そのために、目標をいかに設定すればよいか、設定した目標をどのような戦略として具体化するか、役割分担をどのようにすればよいか、動機づけやリーダーシップをどのように発揮すればよいか等の問題を解決しなければならない。経営管理とはこのような一連の行動を指したものであるが、その良し悪しによって生産性や企業業績が左右される。

講義はマネジメントに対する考え方を理論的に説明するとともに、実際の企業の事例を用いて、できるだけ理解しやすいように心がける。

テキスト：

・今口忠政著「戦略構築と組織設計のマネジメント」(中央経済社、2001年、2500円)

参考書：

教科書に記載、他は講義中に紹介します。

経営学説史

教授 榊原 研互

授業科目の内容：

経営学が学問として成立してから約1世紀が経過し、経営学は今日社会科学の1学科として確固たる市民権を獲得するに至っている。しかしこのことは、経営学がもはや十分な体系性を具えているということではない。むしろ今日の経営学の対象領域の拡大は、学際的研究の名のもとに多種多様な理論や命題を次々と生み出し、それは「セオリー・ジャングル」と呼ぶにふさわしい様相を呈している。こうした状況にあって、われわれがさらに実り豊かな発展を経営学に期待しようと思うならば、われわれは何よりもこれら諸理論・諸学説の関係を明らかにし、かつそれらの科学性や説明力を批判的に吟味する必要がある。このような問題意識から、本講義では、まず科学的知識とはどのようなものかという方法論的基本問題から説き起こし、経営学の科学化のために先人たちが払ってきた多くの努力の成果をドイツやアメリカの諸学説を通して明らかにしながら、経営学の今日の課題を考察する。

テキスト：

とくに指定しない。

参考書：

・G.シャッツ／小島三郎編著『経済科学と批判的合理主義』慶應通信、1988年
 ・土屋守章・二村敏子編『現代経営学説の系譜』有斐閣、1989年
 ・G.シャッツ著、榊原訳『経営経済学の課題と方法』同文館、1991年
 ・H.ウルリッヒ／G.ブロープスト著、榊原他訳『全体的思考と行為の方法』文真堂、1997年
 ・A.ピコー／H.ディートル／E.フランク著、榊原他訳『新制度派経

現代企業経営各論 (企業形態) (秋学期)

助教授 谷口 和弘

授業科目の内容：

株式会社形態をとる大企業は、現代の資本主義経済システムにおける代表的なゲームのプレイヤーとなっている。本講では、株式会社形態を中心として、企業形態の多様性と進化について検討する。さらに制度を重視する視点から、比較コーポレート・ガバナンス、企業間関係やクラスターの進化、新しい組織アーキテクチャ(たとえば、NPO[非営利組織])などにかかわる問題を考察する予定である。

テキスト：

特定のテキストを用いる予定はない。文献(論文や著作など)については、テーマに応じて適宜紹介していく。

参考書：

R.ラングロウ・P.ロバートソン(谷口和弘訳)(2004)『企業制度のダイナミクス：取引費用とケイパビリティの進化論』NTT出版、近刊。
 青木昌彦(瀧澤弘和・谷口和弘訳)(2001)『比較制度分析に向けて』NTT出版。
 鈴木清之輔(1999)「現代企業の株式所有構造と支配構造：企業の所有・支配分析の基礎視角」植竹晃久・仲田正機編『現代企業の所有・支配・管理：コーポレート・ガバナンスと企業管理システム』ミネルヴァ書房、pp.23-38。
 植竹晃久(1984)『企業形態論：資本集中組織の研究』中央経済社。

現代企業経営各論 (企業評価) (春学期)

教授 岡本 大輔

授業科目の内容：

企業評価論とは、ひとことで言ってしまうとどのような企業がよい企業か、どのような企業が良くない企業か、を考える学問である。しかし何を以て“良い”とするかはその評価基準によって、また評価を行なう主体によって異なる。すなわち、資金を貸し出す金融機関が評価する場合、投資家が評価する場合、実際に企業経営を行なっている経営者が評価する場合、また、就職のために学生が評価する場合、それぞれ評価基準が異なる。従来この企業評価は経営分析という手法によって行なわれてきたが、本講義ではそれをさらに応用した様々な企業評価を考察する。

テキスト：

・岡本大輔著『企業評価の視点と手法』中央経済社、1996年

参考書：

・岡本大輔著『AI企業評価』中央経済社、2004年
 ・通産省産業政策局企業行動課編『平成12年度版 総合経営力指標(製造業編)(小売業編)』大蔵省印刷局、2002年

現代企業経営各論 (企業倫理) (春学期)

専任講師 梅津 光弘

授業科目の内容：

昨今の企業不祥事の高発や不透明な取り引き慣行への批判などから、企業倫理やコーポレート・ガバナンスの問題が企業経営の中核を担う課題として日本でも自覚されるようになってきた。このクラスではこうした事情を踏まえて、近年アメリカを中心に急成長してきた“Business Ethics(企業倫理学・経営倫理学)”という新学問領域の概説を行いながら、企業経営における社会的・道義的責任とは何かを共に考えてみたい。企業倫理は日本企業が今後直面する規制緩和、国際化、職場環境の多様化、社会全体の成熟化などの企業経営を取り巻く環境の変化との関係から今後もその重要性が増すと考えられる。また、国際化、地球環境保全、従業員の人権といった「新たな規範」に関する問題は企業だけでなくあらゆる組織が取り組まなければならない課題でもある。参加者との活発な討論を通じて、国際的にも通用する経営理念と指導原理とを確立する契機になればと思う。

テキスト：

- ・『ビジネスの倫理学』丸善
- ・その他必要な文献は適宜プリントにして配布する。

現代企業経営各論（経営情報論）（春学期）

助教授 神戸和雄

授業科目の内容：

企業経営における情報の取り扱いに関する理解を深め、経営情報システムの活用と問題点を把握することを目的とする。

テキスト：

必要に応じて資料を配布する。インターネット経由での配布を予定している。

参考書：

必要に応じて紹介する。

現代企業経営各論（経営組織）（春学期）

教授 渡部直樹

授業科目の内容：

一 組織・市場・情報一

本講義では、従来からの組織に関する有力なアプローチをレビューするとともに、近年盛んになりつつある経済学的アプローチ、及びゲームの理論からのアプローチ、更に進化論的なアプローチといったものを検討し、これらを用いてわが国における組織問題一企業内のみならず企業間の一を説明することにある。

テキスト：

テキストについては、授業の進行にあわせて具体的に指示する。

参考書：

- ・ピコー他著『新制度派経営学による組織入門』（丹沢 他訳）白桃書房、1999年

現代企業経営各論（組織文化論）（春学期）

助教授 佐藤和

授業科目の内容：

特にバブル崩壊以降、従来の日本型経営を行ってきた企業では、大きな変革が進行している。果たして「日本的」な要素は、21世紀にはすべて姿を消してしまうのだろうか。本講義では、現代企業経営を組織文化論という視点から捉え、特に国や社会の持つ文化との関係を踏まえて考えてみたい。

テキスト：

必要に応じて講義の中で紹介する。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

現代企業経営各論（中小企業経営）（秋学期）

教授 高橋美樹

授業科目の内容：

日本経済・産業のダイナミズム喪失が懸念される中、今日、中小企業は「日本経済再建の担い手」とまで呼ばれるようになっていきます。この授業では、「活力ある多数派」、「自己実現に挑戦する場」、「二重構造の底辺」など、様々に論じられる中小企業を題材に、①中小企業について基礎的な知識を身につけること、②商業学、経営学、経済学など多様なバックグラウンドをもつ諸君が分野を超えて意見を交わし、自分の頭で考える楽しさを味わってもらうこと、③これから社会に出ようとするとする諸君が自分自身の価値観、人生観、社会観を見直す契機を与えること、を講義の目標にしたいと思えます。

テキスト：

- ・佐藤芳雄・巽信晴編著『新中小企業論を学ぶ（新版）』有斐閣選書、1996]

参考書：

必要に応じて、講義中に紹介します。

現代企業経営各論（比較経営論）（秋学期）

助教授 前田 淳

授業科目の内容：

日本の生産システムの特徴をよりよく理解するために、テイラーシステム、フォードシステムとの相互の比較検討をテーマとする。生産システムの史的展開の中で日本の生産システムの意義と特質を理解して欲しい。

参考書：

講義の中で紹介する。

〔 B 会 計 〕

財務会計論

教授 黒川行治

授業科目の内容：

財務会計の基本的枠組み、会計基準の設定過程の問題、会計代替案選択に関する企業の会計意思決定の問題、会計認識および測定に関する基本的論理、会計測定の拡大・変容をふまえた近年の会計諸基準の具体的内容について、理解を深めることを目標とする。

テキスト：

- ・田中茂次「現代会計学総論 [第2版]」（中央経済社）
- ・黒川行治「連結会計」（新世社）

参考書：

- ・黒川行治「合併会計選択論」（中央経済社）

管理会計論

助教授 園田智昭

授業科目の内容：

管理会計は、企業の経営に有用な会計情報を、経営者・管理者・現場の作業員に提供します。管理会計を理解するためには、その前提として広く企業活動全般について理解する必要がありますので、本講義では、関連する箇所でも適宜それらの説明も行います。

テキスト：

- ・山口操編『エッセンス管理会計』中央経済社

参考書：

授業中に紹介します。

会 計 史

教授 友岡 賛

授業科目の内容：

そもそも会計とは何か、をかんがえる手掛かりとして、会計というものが経てきた変遷の姿、ときの経過にもなって過去から現在にいたるまで移り変わってきたそのプロセスをみる。方法としては、経済発展のプロセスに沿った通史的なそれが採用される。

また、会計の変遷と相即不離の関係にある企業形体の変遷を検討し、とりわけ、今日もっとも一般的な企業形体であるところの株式会社というそれについて、そもそも株式会社とは何か、をかんがえる。

テキスト：

- ・友岡賛『歴史にふれる会計学』有斐閣
- ・友岡賛『株式会社とは何か』講談社

参考書：

- ・友岡賛『近代会計制度の成立』有斐閣
- ・友岡賛（編）『会計学の基礎』有斐閣

財務会計各論（会計測定論）

助教授 前川千春

授業科目の内容：

近年、我が国においてもキャッシュ・フロー計算書が貸借対照表・損益計算書とともに基本財務諸表の一つとして位置づけられるようになってきた。当科目は、キャッシュ・フロー計算書の意義ならびに他の財務諸表との関係を理解し、具体的な作成方法・読み方

を習得することを目的としている。

テキスト：

第1回の授業の際に指示する。

参考書：

必要に応じてプリントを配付する。

財務会計各論（取得原価主義会計論）（春学期）

名誉教授 笠井 昭 次

授業科目の内容：

今日、実践においては、時価評価が導入されているが、それと取得原価主義会計論との関係は、明らかになっていない。それが明らかにならないかぎり、時価評価の理論的根拠も明らかにならない。そうした問題意識のもとに、取得原価主義論の意義を検討する。

テキスト：

・拙稿「貨幣性資産・費用性資産分類論の総合的検討(1)～(7)」
『三田商学研究』45-2～46-2

参考書：

・拙著『会計の論理』（税務経理協会）

財務会計各論（時価主義会計論）（秋学期）

名誉教授 笠井 昭 次

授業科目の内容：

今日、実践的には、時価評価が導入されているが、その理論的根拠は、明らかになっているとは言えない。本講義では、今日の代表的学説としての主観のれん説の時価評価論を取り上げて、その問題点を検討する。

参考書：

・拙著『会計の論理』（税務経理協会）

財務会計各論（国際会計論）（春学期）

教授 伊藤 眞

授業科目の内容：

国際会計基準（IAS、国際財務報告基準IFRSを含む。）の歴史、現状、今後の展開を簡潔に紹介、IAS財務諸表の作成と表示に係るフレームワーク、主要なIASの会計基準—棚卸資産、キャッシュ・フロー計算書、法人所得税（税効果を含む。）、金融商品等を解説

テキスト：

レジメを配布又はホームページからダウンロード

参考書：

・International Financial Reporting Standards 2004（原書）、IASB
・『国際会計基準書2001』日本公認会計士協会訳、同文館 2001年
・『テキスト国際会計基準』桜井久勝編著、白桃書房 2002年

財務会計各論（新会計基準概論）（秋学期）

教授 伊藤 眞

授業科目の内容：

会計ビッグバンといわれる会計基準の整備改善が行われ、連結財務諸表原則及び外貨建取引等会計処理基準の改訂、並びに税効果会計に係る会計基準、連結キャッシュ・フロー計算書等の作成基準、研究開発費等に係る会計基準、退職給付に係る会計基準、及び金融商品に係る会計基準等の設定が行われた。その後も固定資産の減損に係る会計基準、企業結合に係る会計基準の設定が行われた。これらは、新会計基準と呼ばれている。各会計基準について、その考え方や会計処理について概要を講義する。

テキスト：

レジメを配布又はホームページからダウンロード

参考書：

各基準及び実務指針（日本公認会計士協会による監査小六法に掲載されている。）

財務会計各論（財務諸表論）（春学期）

教授 友岡 賛

授業科目の内容：

会計は事業の経営者から資本主への説明であって、財務諸表はそうした説明行為のための、いってみれば道具として位置づけられる。本講義は、会計という行為の目的から説き起こし、その目的に合うべき財務諸表の性格をかंगがえる。財務諸表の在り方を規定する会計の基本的な思考、これをいくつかの具体的な論点を材料として検討する。また、ときとして歴史的な視座がもちいられる。

テキスト：

・友岡賛（編）『会計学の基礎』有斐閣
・友岡賛、福島千幸『アカウンティング・エッセンシャルズ』有斐閣

参考書：

・友岡賛『歴史にふれる会計学』有斐閣
・友岡賛『株式会社とは何か』講談社

財務会計各論（非営利法人会計論）（春学期）

講師 千葉 洋

授業科目の内容：

非営利法人には、プライベート・セクターとしては学校法人、社会福祉法人、医療法人、宗教法人および民法法人などの公益法人と中間法人などが、またパブリック・セクターとしては独立行政法人や各種の特殊法人などがある。本講義では非営利法人の概要をみたあと、とくに学校法人会計をとりあげ、以下の順で考察することにする。

- I 学校法人会計の概要
- II 資金収支計算の構造
- III 消費収支計算の構造
- IV 基本金の特質

テキスト：

特に指定しないが、その都度指示するほか、随時プリントを配布する。

財務会計各論（資産会計論）（秋学期）

講師 千葉 洋

授業科目の内容：

本講義では「貸借対照表の借方項目としてほんらい何を計上するべきか。」という命題を以下の順で考察することにする。

- I. IASにおける資産概念
- II. 資産概念をめぐる二つのアプローチ
- III. リース契約の資産性

テキスト：

特に指定しないが、その都度指示するほか、随時プリントを配布する。

参考書：

・『財務諸表の作成表示に関する枠組み』
*日本公認会計士協会国際委員会の訳により国際会計基準委員会が公表したもの。

会計監査各論（監査論）

講師 原 征 士

授業科目の内容：

わが国の株式会社監査制度を体系的に理解することを課題とする。わが国の株式会社には、商法上監査役制度があり、また大規模株式会社には、商法特例法により監査役のほかに会計監査人（職業的監査人が任命される。）を置き、監査を強化する制度となっている。さらに、一定規模以上の資金を証券市場から調達する会社は、証券取引法に基づく職業的監査人（公認会計士・監査法人）の監査が義務づけられている。前者は商法監査であり、後者は証券取引法監査である。これら両監査制度を体系的に把握することを課題とする。近年監査基準の改定や商法改正がなされており、これらの新しい制度

が理解できるようにしたい。また、監査制度の国際化の動きの中で、わが国の監査制度の特質や直面する課題なども含めて講義する予定である。

テキスト：

・原 征士著『株式会社監査論〔第2版〕』白桃書房

参考書：

- ・脇田良一『財務情報監査』税務経理協会
- ・山浦久司『会計監査論〔第3版〕』中央経済社
- ・日本監査研究学会・監査役監査研究部『監査役監査』第一法規
- ・浦野雄幸『株式会社監査制度論』商事法務研究会
- ・原征士『わが国職業的監査人制度発達史』白桃書房

管理会計各論（原価管理論） 助教授 吉田 栄 介

授業科目の内容：

この授業では、原価管理（コストマネジメント）の様々なトピックスについて講義・議論する。ここでコストマネジメントとは「適正なコスト水準を確保する」ことを意図するだけでなく、「コストの観点からビジネス・システム全体の最適化」を意図するアプローチである。

テキスト：

・伊藤嘉博『コストマネジメント入門』日経文庫。

参考書：

- ・加登豊・李建『ケースブック コストマネジメント』新世社。
- ・興津裕康・岡野憲治・吉田栄介他編『基礎から学ぶ現代原価計算』白桃書房。
- ・吉田栄介『持続的競争優位をもたらす原価企画能力』中央経済社。その他、トピックに応じて、適宜紹介する。

管理会計各論（原価計算論） 教授 小林 啓 孝

授業科目の内容：

原価計算では、製品などの原価計算対象にそれ（＝原価計算対象）に関連して発生する原価を集計する。このような集計計算を行うのは、ここから得られる情報を経営管理の実施や財務報告に利用するためである。本講義では、主に製品への原価の集計をどのように行っていくかを講義する。

テキスト：

・小林啓孝『現代原価計算講義（第2版）』（中央経済社）

〔 C 商業 〕

マクロ・マーケティング論

マクロ・マーケティング・システムと社会のインタラクション
教授 高橋 郁 夫

授業科目の内容：

生産、流通、消費の関係を巨視的に捉え、それをマーケティング・システムと呼ぶとき、本講はシステムそれ自体と、加えて、それを取り巻く社会とのインタラクションを対象とする。

テキスト：

毎回、プリント配布する。

参考書：

- ・清水猛(1988)『マーケティングと広告研究【増補版】』千倉書房。
- ・田村正紀(2001)『流通原理』千倉書房。
- ・高橋郁夫(2004)『消費者購買行動—小売マーケティングへの写像【増補版】』千倉書房。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（秋学期末試験のみ）
- ・授業中に実施される小レポートおよび発言ポイントも加味して成績評価を行う。

ミクロ・マーケティング論 教授 堀 田 一 善

授業科目の内容：

本講義では、まず、歴史的にみて、マーケティングが国内市場を中心にもっとも純粋な形で展開されてきたアメリカ社会を中心に検討し、事実の世界における諸企業の状況適な合理的行為が、意図せざる帰結としてもたらした産業構造の変貌や反トラスト法などの新たな制度の成立を境に、どのようにその基本的性格を変えながら現代のマーケティングにまで進化してきたのかを考察する。

次いで、当時の産業社会にみられた様々な問題と共に、次第に人々の問題関心を占めるようになった流通ならびにマーケティング関連の問題が、当初、どのような見地から理解や分析の対象として指定され、自律的な倫理的知識を構成するようになっていったのかを、背景知識との関連で解明する。第3に、初期の代表的な研究成果の内容を検討しながら、それによって生み出された理論的問題の深化とその解明のための営みを紹介しながら、今日のマーケティング管理論あるいはマネジリアル・マーケティング論との関連を明らかにしたいと思う。

テキスト：

テキストは特に使用しない。

参考書：

- ・堀田一善『マーケティング思想史の中の広告研究』日本経済新聞社。
- ・マーケティング史研究会編『オルダースン理論の再検討』同文館

マクロ・マーケティング各論（マーケティング学説史）（春学期） 教授 堀 越 比呂志

授業科目の内容：

今世紀初頭に始まったとされるマーケティング研究の諸成果の展開を概観し、それを構造化することによって、マーケティング研究をより深く理解することが本講座の目的である。

テキスト：

テキストはとくに用いない。

参考書：

主要参考文献リストは初回の講義の時に配る予定。

マクロ・マーケティング各論（マーケティング史）（秋学期） 教授 堀 田 一 善

授業科目の内容：

およそ人間社会におけるほとんどすべての制度や仕組みあるいは行動様式は、直面する問題を解決しようと腐心してきた人々の努力の所産に他ならない。今日、マーケティングと呼ばれている企業の市場支配的あるいは市場適応的行動様式もその例外ではない。本講では、マーケティングがとりわけ純粋な形式をもって発展してきたと言われているアメリカを中心に、19世紀半ば以降の諸企業を取り巻く経済的、政治的、あるいは社会的状況要因に触発された市場の競争条件の変化と関係づけて、目的志向的な企業の行為様式としてのマーケティングがどのように進化してきたのか、そしてそれが個別経済的にも社会経済的にも無視できない影響力を有するようになってきた様相を、方法論的固体主義ないし制度主義的個人主義の観点に立って、状況の論理に照らして解明することを目的とする。

テキスト：

テキストは特に指定しない。

参考書：

- ・堀田一善『マーケティング思想史の中の広告研究』日本経済新聞社

マクロ・マーケティング各論（流通論）（春学期） 名誉教授 清 水 猛

授業科目の内容：

本講は生産者から流通業者を経て消費者に至る流過程をマクロの視点から系統的に考察することにより、わが国の流通の実態を解明することを狙いとする。このための枠組みとしては、構造、

行動、成果の関係がそのベースとして用いられる。

テキスト：

特になし

参考書：

- ・「流通原理」田村正紀著、千倉書房
- その他

マイクロ・マーケティング各論（広告論）(春学期)

助教授 小野 晃 典

授業科目の内容：

本講では、マーケティング論の主要な下位分野の1つである広告論が取り上げられる。企業は自社製品の存在や優位性を潜在顧客に知らせるために、広告を行うかもしれない。また、広告イメージという名で知られているように、製品によってではなく広告によって優位性を確立しようとするかもしれない。多様な機能を有する広告と、それに対する消費者の認知的反応とを巡ることによって、本講は、例えば「広告は消費者の購買行動にどのような影響を及ぼさるのだろうか」や「どのような状況の下でどのような広告が有効なのだろうか」といった問いに関心を持つ学生に対して、研究サポートを提供する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

参考書の推薦を求める学生に対しては、個々人の関心の方向や理解の度合いに応じて個別に紹介したい。

マイクロ・マーケティング各論（消費者行動論）(秋学期)

助教授 小野 晃 典

授業科目の内容：

いかなる製品戦略や広告戦略を行うべきかを策定するとき、企業は、特定の製品や広告に対して消費者がいかなる反応を示すであろうかを思索するであろう。マーケティング研究者たちもまた、企業のマーケティング行動と相互作用関係にある消費者行動を重要視してきた。しかし、多数の研究者が参画している消費者行動論は、多様なアイデアが交錯して初学者には理解しがたくなりつつある。そこで本講においては、消費者のブランド選択行動と情報探索行動を描写するフレームワークを軸として、「満足」「関与」「知識」「流行」といった様々なトピックへの探求の軌跡を追っていく。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

参考書の推薦を求める学生に対しては、個々人の関心の方向や理解の度合いに応じて個別に紹介したい。

マイクロ・マーケティング各論（マーケティング経済学）(秋学期)

教授 榎原 正 勝

授業科目の内容：

流通及びマーケティング研究は、伝統的に問題解決テクニックの研究や現実の現象を単に記述する研究が多く、なぜその現象がそのように説明しうるのかといった論証の説明やそれらの現象がなぜ生じうるのかといった因果的説明などを十分成立させていないのが現状である。そこで本講では論証形式や因果的説明をふまえて、流通及びマーケティングにおける科学的知識を構築することをめざして、流通マーケティング現象の経済学的接近による理論研究を講義する予定である。

テキスト：

適当なテキストがないので、講義はノートによる。

参考書：

講義内容との関連で多岐にわたる為、参考文献は、授業中その都度指示する。

マイクロ・マーケティング各論

(マーケティング・リサーチ) (春学期)

助教授 濱 岡 豊

授業科目の内容：

「どの授業を履修するか?」「どの製品を買うか?」など、皆さんが意思決定をする際には、なんらかの情報を収集、分析するはずである。これと同じように、企業がマーケティング意思決定（「どんな新製品を発売するか?」「どのような広告にするか?」「小売店にどのような対策を行うか?」）をする際にも情報が必要となる。

マーケティング・リサーチとは、情報の収集・分析を通じて、よりよいマーケティング意思決定が行われるように支援する機能である。ただし、有用な情報を得るためには、マーケティング課題をリサーチ可能な仮説へと細分化し、さらに適切な調査手法を選択、実施し、分析結果を正しく理解することが必要になる。つまり、次の3つの能力を身につけることがこの講義の目的である。

- ・マーケティング課題、リサーチ仮説を設定、発見できるようにする。
- ・リサーチ仮説を検証するためのデータを収集できるようにする。
- ・データを正しく分析、解釈、報告できるようにする。

テキスト：

特に指定しない。資料は濱岡のホームページよりダウンロード可能。
<http://news.fbc.keio.ac.jp/~hamaoka>
もしくは面接で

マイクロ・マーケティング各論（製品開発論）(秋学期)

助教授 濱 岡 豊

授業科目の内容：

この授業では、マーケティングにおいて4Pの一つとしてとらえられている「製品」について、特に「開発」する段階に注目する。そこで行われている手法について紹介する一方、ケース演習やプロジェクトなどを通じて、それらを体得してもらいたい。なお、便宜上、「製品」という言葉をあてるが、製品のみならずサービスについても可能な手法について紹介する。

テキスト：

特に指定しない。資料は濱岡のホームページよりダウンロード可能。
<http://news.fbc.keio.ac.jp/~hamaoka>

参考書：

上記参照

〔 D 国 際 〕

国際経済学

教授 和 気 洋 子

授業科目の内容：

国際化の進んだ今日では、経済活動のネットワークは広く世界のすみずみにまで張りめぐらされている。実際、もろもろの経済資源が比較的自由に、しかも迅速に、国境を越えて移動する時代となった。そして、これほどに国際間の相互依存が高まると、どの国の経済、政策、ビジネスも、世界の他の諸国との取り引き関係抜きに語ることはできない。

さまざまな財・サービスなどのアウトプット（産出物）が国境を越えて取り引きされているだけではない。株式、国債・社債などの金融資産の国際売買取り引きや、資金の対外借入あるいは対外貸付の国際金融取り引きや、企業そのものの海外進出が盛んに行われている。それが今日の国際経済取り引きの実態である。先進国はもとよりのこと、遅れて近代的経済発展のスタートをした途上国にとって、国際経済取り引きはとりわけ重要であったし、その重要性は将来も高まりこそすれ低下することはないであろう。

本講では、各国経済のそうした国際化現象をふまえて、日本を取り巻く国際経済問題の体系的理解と、世界経済が直面する重要な政策課題について、国際経済学の分析視点を提供することに基本目標を

専攻科目IV類

置きたい。

テキスト:

・石井・清野・秋葉・須田・和気・ブラギンスキー著『入門・国際経済学』有斐閣, 1999年。

参考書:

必要に応じて講義中に紹介する。

世界経済論

世界経済の現状と日本の通商政策

講師 馬田 啓一

授業科目の内容:

本講義では、最新かつ重要な世界経済の諸問題を平易に解説します。講義を通じて、世界経済の現状と日本の通商政策のあり方について学生諸君の関心と理解を大いに高めたいと思う。このため、今論議を呼んでいる世界経済のトピックス、例えば、貿易摩擦、海外直接投資、通貨不安、WTO 交渉、地域統合の動きなどをできるだけ講義のテーマに取り上げて、わかり易く説明していく方針です。

テキスト:

・青木健・馬田啓一編著『日本の通商政策入門』東洋経済新報社, 2002年, 2800円
なお、毎回、簡単なレジュメを配布します。

参考書:

・池間誠・大山大道編著『国際日本経済論』文真堂, 2002年, 2800円
・青木健・馬田啓一編著『政策提言／日本の対アジア経済政策』日本評論社, 2004年, 2800円
・青木健・馬田啓一編著『経済検証／グローバリゼーション』文真堂, 2001年, 3300円
・青木健・馬田啓一編著『ポスト通貨危機の経済学』勁草書房, 2000年, 3800円
・青木健・馬田啓一編著『地域統合の経済学』勁草書房, 1999年, 2900円
・青木健・馬田啓一編著『WTO とアジアの経済発展』東洋経済新報社, 1998年, 2800円
・白石孝・馬田啓一編著『為替レートと日本経済』東洋経済新報社, 1996年, 2700円

国際金融論

教授 深尾 光洋

授業科目の内容:

為替相場の変動、国際収支の不均衡などの国際金融に関連する諸問題を理解するために必要不可欠な諸概念と分析ツールを説明する。その基礎に立って、変動相場制下における経済政策運営、欧州通貨統合の背景、国際通貨政策等について理解を深めることを目標とする。

テキスト:

・深尾光洋『実践ゼミナール国際金融論』東洋経済新報社, 1990年

参考書:

授業開始後、関連文献や統計図表等をレジメとして生協経由で配布するので購入すること。

国際経済学各論 (国際経済政策論) (春学期)

商学研究科 教授 (フジタ・チェアシップ基金) 小島 明

授業科目の内容:

一般的な原論的知識を前提とし、国際経済の現場、最前線に案内する。冷戦の終焉、世界的な市場経済化ドミノ、情報通信革命などを背景に世界経済の構造変化が速している。時には変化のスピードが速く、既存の理論を現実が追い越す。そうした激動する世界の中における各国の経済政策の在り方、相互依存の実態を追う。実体経済の現場から政策当局者、経営者、研究者が今、何を考え、どうした問題意識を持つかを点検する。理論と現実の橋渡しをする「経済」が楽しいテーマであることを実感してもらいたい。

テキスト:

各国政府・研究機関、研究者の最新論文、資料を(インターネット等を通じ)活用。

国際経済学各論 (ミクロ貿易論) (春学期)

講師 古沢 泰治

授業科目の内容:

国際貿易・国際マクロ経済に関する様々な問題点を理解し分析するために必要な基礎的理論を身につけることを目的とする。国際貿易はなぜ発生するのか、どういう利益をもたらすのか、といった基本的な問題を解明したのち、各国にとっての最適貿易政策、さらに貿易政策の国際協調を論ずる。

テキスト:

指定しない

参考書:

・木村福成『国際経済学入門』日本評論社
・竹森俊平『国際経済学』東洋経済新報社

世界経済各論 (国際開発協力論) (春学期)

講師 後藤 一美

授業科目の内容:

(1)概要・目的: 21世紀は、「グローバル・ガバナンス」の時代。多様な価値観が渦巻く国際社会において展開される「国際協力」の世界とは、一見綺麗事のようにみえて、その実、利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係に裏打ちされた同床異夢の世界である。そこには、自らの利益を守ることと集団ないし全体の共通利益をもたらすために行動するという次元の異なる様々な要請の間で、人間社会の政治的営みが見てとれる。また、エゴイズムとヒューマニズムという両性具有の人間性が織りなす矛盾とご都合主義と後智慧によって、折々の要請を反映しながら、さまざまな戦略が展開される。「開発」とは、参加アクターの伸びる素質に「力」を与える行為。「発展」とは、生きとし生ける人間が「自由」(人間らしさを求める自由、欠乏と貧困からの自由、恐怖と紛争からの自由)を求めるプロセス。本講義では、国際協力の基礎を学習しながら、地球規模問題群のうち、発展途上地域の「開発問題」に焦点をあて、日本を含む先進諸国・国際機関・民間企業・非政府組織 (NGO) 等による「援助」という行為を主たる分析対象とした「開発援助政策論」(援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ)を展開することによって、将来、国際開発協力の世界で活躍する人材の育成をめざしたい。

(2)手法: 本講義は、①ビデオ (日本語・英語)、②講義 (OHP 使用)、③質疑応答の3点セットを組み合わせてながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので、特段の予備知識は必要としない。また、講師による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加者演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより、受講者の表現能力の能力向上に力点を置いている。

テキスト:

特定のテキストは使用しない。講義資料・参考資料・参考文献リストは、授業のなかで配布。

参考書:

参考書としては、下記を勧めたい。
・唐木園和・後藤一美・金子芳樹・山本信人 (編)『現代アジアの統治と共生』慶應義塾大学出版会, 2002年。
・『海外経済協力基金史』国際協力銀行, 2003年3月。(下記からダウンロード可)
<http://www.jbic.go.jp/japanese/base/publish/history/pdf/k01_mokuji.pdf>
・後藤一美 (監修)『国際協力用語集』(第3版), 国際開発ジャーナル社, 2004年。
・青木健・馬田啓一 (編)『政策提言／日本の対アジア経済政策』日本評論社, 2004年。

授業科目の内容：

中国経済は、78年以降の「改革・開放」政策の実施により、高成長が維持され、世界におけるプレゼンスは次第に大きくなってきた。高成長の維持は、国内の労働や資本といった生産要素の市場化、外国の資本・技術の中国への移転、及びWTOの加盟に象徴される世界市場への参入によるものであるが、このような市場化はどのように発生し、どのように進行し、どのような問題をもたらしめているだろうか。この課題の解明は、世界の経済発展に関する研究において重要な意味がある。本講義では、中国経済の市場化をキーワードとして、中国の経済発展に関する理解を深めることを目標とする。

参考書：

・加藤弘之『中国の経済発展と市場化』名古屋大学出版会

国際金融各論（国際金融システム論）（秋学期）

授業科目の内容：

この授業では、為替レート制度、通貨・債務危機への対応、主要国間のマクロ経済政策の協調と言った国際金融システムの基本的問題をとりあげる。そのために、まず、国際収支および為替レート決定の理論と、金本位制からブレトンウッズ体制を経て現行の変動為替制に到る国際金融システムの変遷を概括する。また、近年におけるグローバリゼーションの進展と国際資本移動の増加、およびその国際金融システムに及ぼす影響等についても検討する。その上で、現行国際金融システムの仕組みとその問題点を、IMFの政策勧告と多国間政策協調、国際収支赤字・通貨危機に陥った国への金融支援、重債務と貧困に苦しむ途上国への支援、等を中心に考察する。最後に、IMF、世界銀行を中心に進められている国際金融システム改革の状況を展望する。

テキスト：

指定せず。講義資料プリントを配布。

参考書：

・Krugman/Obstfeld, "International Economics — Theory and Policy (Seventh Edition)", 2000
 ・白井早百里, "入門現代の国際金融—検証経済危機と為替制度", 東洋経済新報社, 2002

〔 計 量 経 済 〕

理論経済学Ⅱ（春学期集中）

授業科目の内容：

経済現象を巨視的・微視的にとらえるマクロ・ミクロ経済理論を学ぶことにより、歴史的な転換期を迎えている世界経済特に、東アジアや米国と日本経済との相互依存関係を正確に理解し、現在の諸問題を整理し、今後の世界経済と日米経済の方向を議論できるような学生を養成する。

本科目は、本学部における経済関連及び他の専門科目の履修に際して、基礎的な理解を深めるために必要な科目の一つと考えられ、一年時履修の経済学の中・上級コースにあたる。

テキスト：

・Dornbusch, R. and S. Fischer (1994) Macroeconomics. Sixth edition (first edition, 1978), McGraw-Hill. (廣松/ドーンブッシュ/フィッシャー, マクロ経済学 (上下)「改訂版」CAP出版)

参考書：

・W. H. ブランソン (嘉治・今野訳) マクロ経済学 (上下) マグロウヒル.
 ・R. ドーンブッシュ (大山他訳) 国際マクロ経済学 文眞堂.
 ・W. J. イーシア (小田・太田訳) 現代国際経済学 (国際マクロ) 多賀出版.

授業科目の内容：

経済のグローバル化、産業構造の変化、少子高齢化の進展により、日本経済は大きな変革に迫られている。日本経済の特質を理解し、市場メカニズムと制度政策の関係について、マクロ経済学、ミクロ経済学の視点から考察し、これからの経済社会のあり方を検討していくのがこの授業の目的である。

参考書：

・樋口美雄『雇用と失業の経済学』日本経済新聞社
 その他は授業中に指示する

経済統計

(春) 経済学部教授 清 水 雅 彦

経済学部専任講師 赤 林 由 雄

(秋) 経済学部教授 辻 村 和 佑

授業科目の内容：

国民経済における所得（純生産）発生のメカニズムに関するマクロ経済分析は、1930年代におけるクズネツ等による国民所得統計の整備とケインズの一般理論を基礎として発展してきた。同時に、国民経済を一つの経済システムとして捉え、当該経済システムに内在する経済構造の特質を計量的に分析するための理論体系としてレオンチェフの投入・産出分析理論（産業連関分析モデル）が開発された。その後、国民経済の成長と発展に関する経済分析は、国民経済に関する統計データの拡充に伴い、理論モデルの構築にとどまらず理論モデルの現実妥当性を検証する方向を辿ってきた。いわゆる実証理論分析の展開である。

この講義では、まず国民経済に関する実証理論分析のための経済統計データについて、特に国民所得統計から派生した国民経済計算体系 (a system of national accounts: SNA) を中心に説明する。SNAは、基礎的な一次統計データ (primary statistical data) を再編・加工した二次統計データ (secondary statistical data) の体系である。したがって、SNAを理解するためには、一次統計データの生成過程についても理解しておく必要がある。本講義では、主要な一次統計データのうち、製造業における事業所の生産活動状況を統計的に捕捉する「工業統計調査」とその結果である「工業統計表」を取り上げ、その生成過程を説明する。春学期は、主に実物経済面に関する統計データを取り上げるが、秋学期には貨幣経済面を反映した資金循環分析に関する統計データを取り上げる。

テキスト：

最初の授業時間に指示する。

参考書：

講義資料と併せて適宜指示する。

計量経済学

授業科目の内容：

経済モデルを使いながら、計量経済学方法論を説明します。

テキスト：

・『応用計量経済学入門』(牧 厚志, 日本評論社, 2001)

計量経済学各論（応用計量経済学）

生産とエネルギーの計量経済学

授業科目の内容：

生産関数と効用関数から導出される需要関数体系の測定は、経済の実証分析にとって欠かすことのできない両論である。地球温暖化問題をはじめとする近年の環境問題に対する理解を深めるためにも、安定的かつ自律的な生産関数の測定が要請されている。この授業では、これまでの生産関数の歴史を実証経済学の立場から振り返り、より安定的かつ自律的な生産関数を測定するために必要な諸点をエネルギー・資源・環境問題の視点から整理する。

参考書：

- ・小尾恵一郎『計量経済学入門』（日本評論社）
- ・黒田昌裕『実証経済学入門』（日本評論社）
- その他様々な論文を指定する。

理論経済学各論（応用ミクロ経済学）（春学期）

教授 中島隆信

授業科目の内容：

本講義では、学生諸君が日吉で学んできた標準的価格理論をより発展させ、ヒト、モノ、カネの資源配分メカニズムをそれらが取引される市場の競争性との関連から説明する。

テキスト：

- ・黒田昌裕・中島隆信『テキストブック入門経済学』（東洋経済新報社）

参考書：

- ・奥野正寛・鈴木興太郎著『ミクロ経済学Ⅱ』（岩波書店）

理論経済学各論（経済成長論）（秋学期）

教授 中島隆信

授業科目の内容：

本講義では、経済成長に関する理論の解説を行う。経済成長論は、近年最も進境著しい経済学の分野のひとつである。授業では、理論的發展の歴史的経緯を追いながら、これらの理論が現実の経済成長を分析する上でどの程度役に立つものかを検証していく。

テキスト：

- ・黒田昌裕・中島隆信『テキストブック入門経済学』（東洋経済新報社）

参考書：

- ・香西・土志田『経済成長』（日経文庫）

経済統計各論（産業連関論）（春学期）

助教授 木地孝之

授業科目の内容：

本講では、まず産業連関表の学習を通じて日本経済の仕組みと国内総生産（GDP）統計に対する理解を深め、次に、産業連関分析の基礎理論を学ぶことによって、日本経済、国際経済、地球環境等に関する問題を全体的かつ構造的に捉える能力の養成に努める。

テキスト：

- ・宮澤健一編『産業連関分析入門』（日経文庫）

参考書：

- ・「環太平洋産業連関分析学会」ビジネス・ジャーナル『産業連関』各号。
- ・「産業連関分析のすすめ」（木地孝之ホームページ）

〔 F 金融 ・ 保 険 〕

金融論（春学期集中）

教授 辻 幸民

授業科目の内容：

今日の経済では、家計が貯蓄をして企業が投資をするというように、貯蓄主体と投資主体が分かれてしまっている。貯蓄が投資と有効に結びつくためには、貯蓄主体から投資主体への資金の融通、すなわち金融が効率的になされることが必要不可欠であり、さもないと企業の投資は抑制され、経済の発展は著しく阻害されてしまうであろう。従って金融は今日の経済では極めて重要な役割を担っており、金融のメカニズムを中心に、資金（貨幣）面から現代経済の仕組みを解明していこうとするのが金融論である。

テキスト：

下記の授業計画の

1～5については、必要に応じてプリントを利用（入手方法は授業中に指示する）

6～9については、辻幸民著『企業金融の経済理論』（創成社）

参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

財 政 学

教授 跡田直澄

授業科目の内容：

意義と目的：企業の経済活動はそれ自身がシステムを創り出すこともあるが、多くの場合には社会経済システムに制約される。その制約を作り出す一つのそして最大・最強の経済主体が政府である。20世紀、混合経済体制という考え方の下、政府は経済に積極的に介入してきた。先進諸国の中では、日本は最も強くかつ大規模に介入を行ってきたといえるが、近年行財政改革の名の下、そうした政府活動に一定の枠をはめようという議論が強まっている。そこで、本講義では、現代社会において、政府は経済活動にいかに関わるべきかという問題を基本テーマとして、以下のような内容で講義を行う。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

特に指定しない

証券経済論

休 講

保 険 学

教授 堀田一吉

授業科目の内容：

国民生活に深い関わりのある保険業界は、金融改革の進展の中でいま大きな環境変化を迎えている。本講義は、特徴的な保険の構造を経済学的に解説すると同時に、他の経済諸制度との関連性を図りながら、現代社会の抱える諸課題を保険学の立場から見直してみる。そして、現代生活において、保険がいかなる機能を担っているかをできるだけ現状に即して多面的に検証してみる。

テキスト：

- ・堀田一吉『保険理論と保険政策 — 原理と機能 —』東洋経済新報社

参考書：

- ・庭田範秋監修 (2002)『新世紀の保険』慶應義塾大学出版会
- ・庭田範秋編 (1993)『新保険学』有斐閣
- ・庭田範秋 (1995)『新保険学総論』慶應義塾大学出版会
- ・真屋尚生 (1997)『保険の知識』日本経済新聞社

金融各論（貨幣論）（秋学期）

教授 赤川元章

授業科目の内容：

貨幣は経済社会を構成する最も根本的な要素であり、したがって経済にとっては最も基本的なカテゴリーとなる。貨幣はまた歴史的カテゴリーであり、とりわけ資本主義制度の生み出す信用制度の発展に応じてその現象は著しく変化してきた。

本講義は貨幣と信用に関する本質と機能を原理的に説明することとどまらず、貨幣的経済理論のフレームワークを前提としながら、高度化し、グローバル化した現代の信用経済を視野に入れ、とくに制度的側面に強調点をおいて説明する予定である。本年度のトピックは、EUの拡大に伴うユーロ問題に焦点をあて、その方向と問題点も論じる。

なお、学説を取上げる場合は、教科書の解説に制約されないで、出来る限り、方法論の問題から整理・検討し、そのうえで、新しいフレームワークを用いて、その理論構造を追求する。金融・証券・財政などの専門分野のみならず、経済・産業・経営・商業・会計など各分野においても、「モノ」に対する「マネー」の側面を理解するためには役立つ契機となろう。

テキスト：

原則として使用しない。

参考書：

講義内容に応じて指示する。

金融各論（資本市場論）(春学期) 教授 金子 隆

授業科目の内容：

今日、企業は資本市場と無縁の経営を行うことはできない。事業を営むのに必要な元手（すなわち資本）をそこで調達したり、逆に余裕資金をそこで運用したりするだけでなく、どういう投資プロジェクトを実行するかの意思決定にも、じつは資本市場は重要な影響を及ぼしている。したがって、将来、たとえ金融関係の仕事に就かなくても、資本市場の論理を理解しておくことはビジネスの世界で活躍する上で必要不可欠な条件である。本講義では、狭義の資本市場（株式市場、債券市場）だけでなく、短期金融市場や金融派生商品市場まで含めたわが国の金融・資本市場を、理論（理屈）と現実の両面から体系的に考察する。市場を理解する上で、理屈だけ知っているに立たないし、現実だけ知っていても本当の意味で理解したことにはならない。両者をバランスよく身につけることが肝要である。そうした考えから、本講義では、日本経済新聞の「マーケット総合」面に記された記事と統計を、背後にある理屈とともに読みこなせるようになることを目指す。

テキスト：

特に使用しない。代わりに講義ノートで学期始めに有料で配布する。

参考書：

講義ノートの中に記してある。

金融各論（企業金融論）(秋学期) 教授 金子 隆

授業科目の内容：

企業の投資政策・財務政策・配当政策に関する諸問題を経済学的な視点から体系的に論じる。具体的には、数ある投資プロジェクトの中からどれを選択して実行するか、そのための資金をどのように調達するか（すなわち、自己資金で賄うか、増資をするか、社債を発行するか、銀行借入をするか）、得られた利益をどのように処分するか（すなわち、株主に配当の形で還元するか、それとも内部保留に回して将来の再投資に充てるか）、等々の問題を取り上げる。これらの選択が企業にとっていかに重要な問題であるかは、あらためて強調するまでもないであろう。本講義では、これらの問題を理論と現実のバランスを取りながら体系的に考察する。学部の授業であるから、理論的な厳密さは多少犠牲にしても、応用のきく考え方を身に付けてもらうように心がける。

テキスト：

特に使用しない。代わりにレジュメを毎回配布する。

参考書：

適宜指示する。

証券経済各論（証券制度論）(秋学期)

講師 齊藤 壽彦

授業科目の内容：

公債・社債・株式の発行と流通の仕組みについてできるだけわかりやすく講義する。これらを理解することは今日の産業社会を理解する上できわめて重要である。

テキスト：

・齊藤壽彦『信頼・信認・信用の構造』（泉文堂、2002年、3300円）

参考書：

・証券広報センター編『証券市場2004』（中央経済社、2004年）

保険学各論（生命保険論）(春学期) 教授 堀田 一吉

授業科目の内容：

生命保険の歴史は古く、概念は、古代ギリシャ（紀元前500頃）の宗教的慈悲組織にまで遡ることができるが、諸科学の成果を取り入れた近代的保険制度は、18世紀になってからのことであり、比較的新しいともいえる。高齢化社会を控えて、生活保障を支える上で、生命保険の果たす役割は、近年一段と大きくなっている。他方、国民経済的には、生命保険に対する需要の高まりが、生命保険業の金

融業としての地位を高くしている。本講義では、現代社会において生命保険がいかなる機能を果たしているかを単なる技術論ではなくて、社会保障や企業保障など他の関連制度と関係づけながら、多面的に論じるつもりである。

テキスト：

教科書は、とくに指定しないが、次の文献をはじめ授業中に紹介する文献を各自参照してもらいたい。

参考書：

- ・石田重森・石田成則（1997）『自由競争時代の生命保険経営』（東洋経済新報社）
- ・山中宏編『生命保険読本』（東洋経済新報社）ほか
- ・ニッセイ基礎研究所『生命保険の知識』（日本経済新聞社）

保険学各論（損害保険論）(春学期) 講師 岡村 国和

授業科目の内容：

本講義の目的は損害保険に関する保険理論の理解と現実の保険現象を分析する能力を修得することにある。さしあたり保険理論の理解に努める。保険理論は原理的には単純明快であるが、実際には多様な応用が施されているために、一見して複雑な感じがすると思う。こうした複雑に見える保険の理論的構造を分解して単純化した後に再構築することにより、損害保険のさまざまな特徴が浮き彫りにされるのである。実社会において提示される損害保険市場の諸問題を理解・整理して分析することが可能となるのである。

損害保険市場の分析に関しては産業組織論からのアプローチを用いる。具体的には市場構造、市場行動、市場成果の各ブロック間の相互関係の説明、および保険規制がこれら各ブロックに及ぼす影響を与えるかなどについて講義する。これらを理解した上で、最終的には、損害保険会社の倒産と消費者保護について講義する。

その骨子は、保険企業の存続保証を前提とした契約者保護（いわゆる船団体制）と保険市場の効率性の両立を考えることであり、「契約者の直接保護を前提とした契約者保護システム」（いわゆるセーフティネットの張り替え）を考察することによって保険市場の効率性と保険契約者の保護を整合的に接続するシステムを模索することである。

テキスト：

使用しない。レジュメや資料を随時配付する。

参考書：

- ・庭田範秋編『保険学』成文堂。
- その他、講義中に適宜指示する。

保険学各論（保険経営論）(秋学期) 講師 岡村 国和

授業科目の内容：

保険業を取り巻く環境変化のスピードは著しい。保障業務を本来業務としつつも同時に肥大化・拡大化しつつある（派生業務としてかつて位置づけられていた）金融業務は、今や本来業務の中に取り込まれつつあり、保険業を質的に変化させようとしてきている。保険経営の質的変化が保険業の本質的性格に及ぼす影響は計り知れないものであり、かつ金融業の業態間の垣根問題をめぐる緊張関係が今や無視しえないレベルにまで達している以上、われわれがここで保険業の本質的性格を再度検討することの意義は決して小さくはない。

本講で講義される「保険経営論」は、広義には経済学の一分科としての経営学に属し、狭義には特殊（業種別）経営学の一部としての「保険経営論」に位置づけられる。さしあたり、総論として保険経営の諸特徴を概観し、その後で規制緩和の環境変化の下での保険業の行動原理と競争をめぐる諸問題について「多様化する行動原理と経営目的」を念頭に置きつつ講義を進めていく予定である。

テキスト：

未定、但しレジュメを配布する。

参考書：

- ① 庭田範秋編著『保険経営学』有斐閣。
 - ② 庭田範秋編著『保険学』成文堂。
- その他、補足資料などを配布する。

授業科目の内容:

生命保険事業は、死亡率・利率・事業費率の三要素を基礎に成り立っている。本講義はこれらの三要素を具体的に評価、算定することによって得られる保険料や責任準備金の仕組み、計算方法等について基本的な事項を説明する。また、このような三要素があるために、生命保険会社会計は一般事業に見られないユニークさを有していることから、生保会計の特徴についても説明し、生命保険事業の仕組みや経営の理解に努めたい。

テキスト:

使用せず (適宜資料を購入してもらう)

参考書:

指定せず

リスク・マネジメント各論 (現代社会とリスク) (秋学期)

教授 堀田 一吉

授業科目の内容:

現代社会において、われわれが直面するリスクは巨大化、多様化、複雑化している。こうした中で、安定的かつ効率的な経済発展のために、近年、リスクマネジメントのあり方についての関心が急速に高まってきている。本講義では、主として、企業活動の観点から、実際の事例を交えながら、リスクマネジメントの考え方ならびに課題を論じる。

テキスト:

特定のテキストは指定しないが、参考書を随時紹介する。

参考書:

- ・亀井利明『リスクマネジメント理論』中央経済社
- ・石名坂邦昭『リスク・マネジメントの理論』白桃書房
- ・武井勲『リスクマネジメントと危機管理』中央経済社
- ・前川寛『リスクマネジメント』ダイヤモンド社

〔 G 産 業 ・ 交 通 〕

産業組織論 (春学期集中)

教授 井手 秀 樹

授業科目の内容:

産業組織論は応用ミクロ経済学の一分野です。この講義では、なるべく具体的な事例を取り上げながら、現実の様々な企業行動が経済厚生に与える影響 (独占・寡占問題)、さらには独占禁止政策・公共政策の必要性を論じます。なお、独占禁止法に関しては、専門の科目として「経済法」があります。

テキスト:

・植草・井手他「現代産業組織論」NTT 出版

参考書:

・新庄浩二 (編)『産業組織論』有斐閣ブックス

サービス経済学

教授 井原 哲 夫

授業科目の内容:

サービスはモノとは基本的に異なる性質をもっている。そして、モノの生産や市場を主たる研究対象としてできあがっている経済学では説明できない諸々の現象を見せてくれる。これらの現象を体系的に理解する理論を提供するのがサービス経済学である。先進国ではサービス経済化が進行し、サービス産業 (第3次産業) のウェイトは過半をかなり超えたところまで到達している。このような中で、サービス経済学は現実の社会を観察し、理解し、将来を見通す上で有用性を高めている。

テキスト:

・『サービス・エコノミー (第2版)』(東洋経済新報社, 井原哲夫著)

授業科目の内容:

この講義では、交通・公益事業分野の産業に属する企業の、

- ① 構造と行動の一般的な理論、および、
- ② これら産業に対する政策を経済学的に分析する際のベンチマークがどのようなものであるか、

を理解してもらうことを目的とする。交通・公益事業サービスは、社会的生活に不可欠なサービスあるいは社会資本であるがゆえに、政府による市場への介入が頻繁に行われる。しかし経済活動である以上は資源配分の効率性からの視点が不可欠である。厚生経済学の基礎的な理論はその意味で交通・公益事業分野を分析するうえでの有力な道具である。本講義では、厚生経済学の概念整理から出発し、規範的なアプローチによる伝統的経済理論からの分析道具の提供をする一方、近年整理がなされてきた、ポジティブ・アプローチによる「規制の経済学」の考え方も示すことで、規制政策を考える際に有用な道具も提供する。なお、公平性といった観点も必要な場合については、適宜、概念を提示することにする。

テキスト:

特に指定はないが、担当者作成の授業用のホームページがある。これについては講義でアナウンスする。

参考書:

- ・竹内・山内『交通経済学』(有斐閣アルマ)
- ・藤井・中条編『現代交通政策』(東大出版会)
- ・岡野行秀『交通の経済学』(有斐閣)
- ・永井・藤井・阪本他著『経済政策入門 (2)』(有斐閣)
- ・ウォーターソン著、木谷・新納訳『企業の規制と自然独占』(晃洋書房)
- ・山谷修作編著『現代日本の公共料金』(電力新報社)
- ・前田義信『交通経済要論』(晃洋書房)

その他、必要に応じて授業中にアナウンスする。なお、上記の参考文献は、旧図書館内に設置のリザーブブックにあるので、閲覧が可能である。

産業組織各論 (規制の経済学) (春学期)
(社会問題の経済学) (秋学期)

教授 中 条 潮

授業科目の内容:

この講義では、社会的・経済的問題とそれに対する政府の規制や慣習に関する課題を経済学的に検討する。

あらゆる社会・経済活動は多かれ少なかれ規制を受けているが、これは「公共性」、すなわち市場の失敗・欠落の議論によって説明することができる。交通や通信の公共性、金融や保険の自由化、農業保護、流通規制、外国人労働者規制、住宅問題、発展途上国への経済援助といった様々な経済問題は、市場の失敗の視点から分析することによって政策判断に寄与することが可能である。したがって、商学部の産業・経済分野を学ぶ者にとっては、政府規制の問題は必須のバックグラウンドであると言える。

また、経営・会計分野の学生にとっても、企業の経営分析や財務分析を行なうにあたって、政府規制は少なからず影響を与える変数である。たとえば、規制下にある企業の経営指標は一般的に安定的であるが、それは政府の保護によるものであって経営政策に基づく安定度ではないかもしれない。

さらに、規制は経済上の規制にとどまらない。我々の日常生活は多くの規制にとりかまれている。たとえば、麻薬の所持・使用、一方的な離婚、希少動物の捕獲、プロ野球球団の自由な選択等は禁止されている。これらの規制は一見、社会的あるいは道徳的な価値判断に基づくもののようにみえるが、人間の社会的行動はすべて費用と便益に基づいてなされるという事実を照らせば、これらの社会的規制の妥当性を経済学を用いて分析することが可能である。

それゆえ、医療、自然保護、公害、教育、国防、福祉、死刑廃止論議など、社会的問題とされている様々な問題についても、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの社会問題の

解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを議論することが可能である。

このように、市場介入の意義・妥当性を研究することによって、経済制度・社会制度を経済学的に分析するのが本講義の目的である。

テキスト：

[春学期]

- ・中条潮『規制破壊』（東洋経済新報社）
- ・藤井・中条編『現代交通政策』（東大出版会）第4章

[秋学期]

- ・中条潮『景気復活最後の切札—規制改革なくして日本再生なし—』小学館文庫

参考書：

必要があればその都度指示する。

産業組織各論（産業組織と企業戦略）（春学期）

教授 高橋 美樹

授業科目の内容：

産業組織論は、他の学問分野と密接な関連をもって発展してきました。本講義では、関連分野の中でもとくに企業戦略論との関連に注目し、企業のとる様々な戦略的行動、また、企業競争力の源泉について議論したいと思います。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

必要に応じて、講義中に紹介します。

交通経済各論（経済地理）

経済学部 助教授 武山 政直

授業科目の内容：

この授業では、都市や地域社会にみられる様々な現象を空間的システム思考のアプローチによって理解する。特に前半は立地行動や立地パターンの論理的モデル化やシミュレーションの技法を中心に解説し、後半では情報化にともなう都市機能や人々の時空間行動の変化について様々な事例を通して分析する。学期中のレポート課題および試験、レポート課題の報告によって成績評価を行う予定である。

参考書：

授業中に紹介する。

交通経済各論（国際交通論Ⅰ）（春学期）

講師 織田 政夫

授業科目の内容：

国際交通の一手段というよりも、主要な国際物流手段である「海上輸送」は、一国の産業経済ならびに国民経済のいわばインフラストラクチャーとして、現代の生産および流通活動の根幹を成している。『交通経済各論（国際交通論Ⅰ）』は、その海運活動が営まれる「国際海運市場」がどのような構造になっており、そこでどのような競争が展開されているかを分析し、市場構造と競争の本質を明らかにする。そして、これによって海運業の景気変動のメカニズムを知るとともに、世界海運を構成する主要海運勢力について把握する。

次いで、この国際海運市場で営まれる「海運業の経営特性」を明確にする。

続いて「海運政策の概念と本質」を明確にしたうえで、海運政策の形態、海運政策と海運業経営との係わり、わが国の海運政策課題等について考察する。

参考書：

- ・織田政夫『海運要論』（海文堂）

授業科目の内容：

現在の労働市場で起きていることを経済学の枠組みを使って理解、分析できるようにすることを目的にしています。内容は次の通りです。

〔Ⅰ〕労働経済分析の枠組み

- (1) 労働経済学とは何か
- (2) 労働力の観測
- (3) 労働統計

〔Ⅱ〕労働の需給

- (1) 労働供給
 - (i) 性・年齢別労働力率の観測
 - (ii) 就業・最適労働供給時間の決定
 - (iii) 労働供給曲線の導出
- (2) 労働需要
 - (i) 労働需要の決定要因
 - (ii) 産業別労働需要の変動
 - (iii) 最適労働需要の決定
 - (iv) 労働需要曲線の導出

〔Ⅲ〕労働市場

- (1) 失業
 - (i) 失業とは何か
 - (ii) 失業にかんする経験法則
 - (iii) 日本の失業構造
- (2) 雇用調整
 - (i) 雇用調整とは何か
 - (ii) 雇用調整係数と雇用調整コスト
- (3) 労働市場における情報の役割
 - (i) 情報の不完全性
 - (ii) 情報の不完全性ゆえに生じる経済主体の行動
 - (iii) 情報の不完全性と企業組織
- (4) 労働力のフロー表
 - (i) 労働力のフローとは何か
 - (ii) フロー表を使った分析

〔Ⅳ〕労働市場の実態分析

- (1) 経済の構造変化と雇用制度
 - (i) 人口構造の変化と雇用制度
 - (ii) 競争構造の変化と雇用制度
 - (iii) 意識構造の変化と雇用制度
- (2) 賃金と労働時間の経済分析
 - (i) 年功賃金制度とは何か
 - (ii) 年功賃金制度の変化と能力・成果主義
 - (iii) 労働時間と企業への貢献度
 - (iv) 労働時間短縮のために
- (3) 高齢者雇用の経済分析
 - (i) 高齢者の労働供給
 - (ii) 高齢者の労働需要
 - (iii) 必要な制度変革
- (4) 労使関係
 - (i) 集团的労使関係の意義
 - (ii) 変化する労使関係

テキスト：

- ・清家篤『労働経済』（東洋経済新報社）

参考書：

- ・生産性労働情報センター『活用労働統計』（社会経済生産性本部生産性情報センター）

産業関係論（春学期集中）

講師 菊野 一雄

授業科目の内容：

近代以降の工業化社会を、我々は「インダストリアル・ソサエティー」ないし「ビジネス・ソサエティー」と呼び、豊かな生活を約

資源であるが、中でもヒト（人的資源）は最も重要なものだと言えよう。なぜなら、事業を企画したり実際に遂行していくのは、人的資源以外にはないからである。労務管理論とは、近年は人的資源管理論と呼ばれることが多いが、このように重要な経営資源「ヒト」に関することがらを扱う分野である。

一年間の講義は、日本企業の労務管理システムの大枠を示した後、労務管理の個別の活動（採用等）について解説し、さらに最近の労務管理上のトピックス（就業形態の多様化等）を論ずるという構成である。講義を通じて、単なる現象の理解だけではなく、そのような現象がなぜ発生するのかを考察する糸口を受講者に提供したいと思っている。

テキスト：

・石田英夫他『MBA人材マネジメント』中央経済社、2002年

参考書：

- ・永野仁『日本企業の賃金と雇用』中央経済社、1996年
- ・佐藤・藤村・八代『マテリアル人事労務管理』有斐閣、2000年
- ・永野仁編著『大学生の就職と採用』中央経済社、2004年

産業社会学各論（経営社会学） 講師 塚本成美

授業科目の内容：

経営社会学は、社会不安の引火点としての経営という視点から、社会構成体としての経営の社会過程・社会関係の解明を目的として、1920年代ワイマール期のドイツで形成された。経営社会学の底流には、自立した産業市民層の育成と企業経営の全体社会への自覚的編入を基本理念とした、経営の社会改革という考え方がある。混迷する社会を根底から改革するという経営の社会的・人間的課題からも、環境適応的な動態的組織編成という経営の経済的・戦略的課題からも、経営従業者の自発性と自立性の要求をみだすことは現代経営の急務である。自発性と自立性は、働く人間の自由な精神活動を前提とするため、企業経営の人間問題は、現代の高度の合理化された経営支配構造の中で、経営従業者の人格的独立と社会的協同はいかにしたら両立可能か、という問題に行き尽す。ここに経営の人間の・社会的問題の核心がある。

本講義では、経済的計算理性と社会的理性の錯綜した経営の社会的現実をときほぐしながら、経営の社会的・人間的問題に対する理解を深めることをめざす。経営が社会不安のより切迫した発生源としておおきな社会的影響力をもつ時代に生きるわれわれは、経営の現実から社会の行く末を看破する洞察力を養わなければならないからである。

テキスト：

とくに指定しない。

参考書：

講義のなかで、必要に応じてその都度紹介する。

〔 Ⅰ 産業史・経営史 〕

産業史（春学期） 助教授 牛島利明

授業科目の内容：

この講義では明治期から戦時期にいたる日本の産業発展とそれを支えた制度的要因を事例としてとりあげ、産業の発展・衰退の過程、産業間の相互依存関係、個別産業と経済全体との関連について理解を深めることを目的とする。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

参考文献は必要に応じてその都度指示するが、さしあたり下記の文献を参照されたい。

- ・橋本寿朗『近代日本経済史』岩波書店、2000年。
- ・西川俊作ほか編『日本経済の200年』日本評論社、1996年。

経営史（春学期） 助教授 平野 隆

授業科目の内容：

今日の企業が直面している諸問題の本質を把握するためには、それらが歴史的に形成されてきた過程を理解することが不可欠である。

この講義では、まず経営史学の基本的な考え方と方法について解説し、つづいて18世紀以降のイギリス、アメリカおよび日本におけるモダン・ビジネスの形成・発展と企業経営の展開過程を概観する。

テキスト：

特に使用しない。

参考書：

参考文献は講義中に適宜指示する。さしあたって以下の文献をあげておく。

- ・大河内暁男『経営史講義』（第2版）東京大学出版会、2001年。
- ・宮本又郎ほか『日本経営史』有斐閣、1995年。
- ・鈴木良隆・安部悦生・米倉誠一郎『経営史』有斐閣、1987年。

産業史各論（科学技術政策史）（秋学期）

講師 ルイス、ジョナサン

授業科目の内容：

http://homepage.mac.com/jonathan_lewis/ja/teaching/Keio/index.html

世界各国の科学技術政策がどのような目的で形成されてきたのか、科学技術政策の効果、そしてその思いがけない結果などを論じる。グローバル化が進む中で、国家・企業・大学などが科学研究と技術開発で果たしてきた役割を様々な視点から考察する。

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It considers the roles of states, enterprises and universities in scientific research and technological development in the context of globalization from a variety of perspectives.

The class will be in English and Japanese.

参考書：

- ・Etzkowitz, Henry, 2002. MIT and the Rise of Entrepreneurial Science. Routledge.
- ・Fuller, Steve, 1997. Science. Open University Press.
- ・Hafner, Katie and Lyons, Matthew, 1998. Where Wizards Stay Up Late. Simon & Schuster.
- ・L_vy, Pierre, 2001. Cyberculture. University of Minnesota Press.
- ・Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshioka, Hitoshi, 1999. Science, technology and society in contemporary Japan. Cambridge University Press.
- ・Mani, Sunil, 2002. Government, innovation and technology policy: an international comparative analysis. Edward Elgar.
- ・Penley, Constance. 1997. NASA/Trek: Popular Science and Sex in America, Verso.
- ・Samuels, Richard J., 1994. "Rich Nation, Strong Army". Cornell University Press.
- ・加藤弘一著『電腦社会の日本語』文春新書、2000。
- ・中山茂 他 編『通史 日本の科学技術』ガクヨウ書房、1995。

産業史各論（起業家福澤諭吉の生涯）（春学期）

教授 玉置紀夫

授業科目の内容：

この講義では、福澤諭吉の生涯をまったく新しい視点から見直すことを目的としている。

テキスト：

- ・拙著『起業家福澤諭吉の生涯』有斐閣

産業史各論 (日本金融史 I) (秋学期) 教授 玉置 紀夫

授業科目の内容:

意義と目的: 日本の金融システムがどのようにして成立したのかを、幕末から明治 30 年 (1897) の金本位制の制定までの期間をとりあげて、検討する。日本金融システム形成の特質を理解することは、現代の金融システムと金融理論の理解の為に不可欠である。

テキスト:

・拙著『日本金融史』(有斐閣選書) ¥2,100

参考書:

必要に応じて授業のなかで指摘する。

産業史各論 (日本産業史 I) (秋学期) 助教授 牛島 利明

授業科目の内容:

この講義は、戦後日本における主要な産業の変化を概観し、現代日本経済・産業の歴史的背景に対する理解を深めることを目的とする。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

必要に応じてその都度指示するが、さしあたり下記の文献を参照されたい。

- ・森川英正編『戦後経営史入門』日本経済新聞社、1992年。
- ・橋本寿朗ほか『現代日本経済』有斐閣、1998年。
- ・橋本寿朗『現代日本経済史』岩波書店、2000年。

産業史各論 (比較小売業史) (秋学期) 助教授 平野 隆

授業科目の内容:

本講義は、19世紀後半以降の日本、イギリスおよびアメリカにおける近代小売業の成立・発展過程を比較検討し、各国の異なる社会的・歴史的背景要因が、小売業の発展パターンにどのように反映したかを考察する。

テキスト:

特に使用しない。

参考書:

講義中に適宜指示する。さしあたり、以下の文献を参照されたい。
・J. ペンソン、G. ショー編、前田他訳 (1996)『小売システムの歴史的發展』中央大学出版部。
・山本武利・西沢保編 (1999)『百貨店の文化史 — 日本の消費革命 —』世界思想社。

経営史各論 (アメリカ経営史) (春学期)

講師 安部 悦生

授業科目の内容:

企業と企業家の発展を理解する。産業史、経済史、経営学、経営組織論、経営戦略論、ミクロ理論などをすでに勉強したか、それらと並行して、勉強することが望ましい。

テキスト:

・『ケースブック アメリカ経営史』有斐閣、2002年

参考書:

・安部悦生『経営史』日経文庫、日本経済新聞社、2002

経営史各論 (日本経営史) (春学期) 教授 吉田 正樹

授業科目の内容:

わが国の明治以降の急速な経済発展をとげた要因のひとつに、近代的動力技術の普及があげられます。春学期の経営史各論は動力技術の国内移植過程を説明し、あわせて西洋技術を導入・定着させる基盤となった諸条件について考察を加えていきます。講義内容は主に電気利用の考察を中心に構成されます。この電気利用が2つの産業「電燈・電力」産業と「電気機械」産業の生成と発展に規定された事実を前提に講義をすすめ、折にふれて、両産業発展のキーパー

ソンとなった技術者、経営者の行動、思想に言及していきます。

経営史各論 (福澤と門下の経営者たち) (秋学期)

名誉教授 西川 俊作

授業科目の内容:

この講義は、福澤の『実業論』(1893)を中心にして、競争や会社、実業(産業 industry)、また元金社中・働き社中といった彼の「理念」について吟味する。これまでの研究は、彼の経済思想を論じるのがふつうであったが、ここで注意すべきは、彼がベスト・セラーの著者であると同時に自分の著書の出版、流通を営む書物商、福澤屋論吉であって、のちには慶應義塾出版社の大株主であるとともに、事実上の経営者でもあったことである。

三田出の経営者は少なくないが、そのなかから荘田平五郎、阿部泰蔵、中上川彦次郎、井坂直幹、下村亀三郎ならびに武藤山治を取り上げ、彼らの経営理念や management について検討する。したがって、講義は business history というより、むしろ entrepreneurial history というのが適当な内容になる。彼ら 6 人に共通する理念上実際上の公分母があったかどうか、またそれは福澤のそれと同じであったか、違いがあるとしたらどういう点か探してみる。

テキスト:

テキストなし、毎回資料を配付する。

参考書:

配布資料に記掲する。

[J そ の 他]

数学各論 (ゲーム理論 I) (春学期) 助教授 木戸 一夫

授業科目の内容:

無視し得ない力を持つ複数の主体に係る最適値問題としてゲーム理論を学ぶ。ゲーム理論の基本概念および応用力を演習を交えながら身につけることを目指す。

テキスト:

・島津祐一編『絶対負けられないゲーム理論の思考法』日本実業出版会

参考書:

・中山幹夫著『はじめてのゲーム理論』有斐閣ブックス

数学各論 (ゲーム理論 II) (秋学期) 助教授 木戸 一夫

授業科目の内容:

無視し得ない力をもつ複数の主体に係る実際的な問題をゲーム理論の応用として考えてみる。

テキスト:

・中山・武藤・舟木編『ゲーム理論で解く』有斐閣ブックス

参考書:

・中山幹夫著『はじめてのゲーム理論』有斐閣ブックス

数学各論 (最適化理論 I) (春学期) 教授 小宮 英敏

授業科目の内容:

経済学における効用最大化、利潤最大化、ゲーム理論における利得最大化などの数学的構造を正確に理解することを目的とする。本授業では、最大化行動分析の基本的知識としての、微分法、線形代数を整理しながら理解することから始め、制約なしの最適化問題の理解を目指す。

また、演習にも重きを置く。

テキスト:

使用しない。授業中に資料を配布する。

参考書:

・R.K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge Univ. Press 1996.
・K. Binmore and J. Davies, Calculus, Cambridge Univ. Press 2001.

数学各論 (最適化理論Ⅱ) (秋学期) 教授 小宮英敏

授業科目の内容:

経済学における効用最大化, 利潤最大化, ゲーム理論における利得最大化などの数学的構造を正確に理解することを目的とする。本授業では, 数学各論 (最適化理論Ⅰ) の履修を前提として制約つき最適化問題と凸性を伴った最適化問題の理解を目指す。

テキスト:

使用しない。授業中に資料を配布する。

参考書:

- ・ R.K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge Univ. Press 1996.
- ・ K. Binmore and J. Davies, Calculus, Cambridge Univ. Press 2001.

情報処理Ⅲ (Web プログラミング) (秋学期集中)

助教授 木戸一夫

授業科目の内容:

計算機言語およびネットワークの仕組みを手を動かしながら根本的に理解することにより, 社会において“e...”と名付けられるような斬新で実際の仕組みを発想・考案できるようになることを目指す。計算機言語としては Perl を中心にするが, C, Ruby, シェルスクリプトなど UNIX サーバ上で使用できる言語の中から自分の好みで選択すれば良い。

テキスト:

指定テキストはない。各自, 自分が使用する言語を解説した本と, CGI について解説した本を用意すること。

参考書:

授業の中で指定する。

情報処理Ⅲ (電子計算概論)

産業研究所 教授 新井益洋

授業科目の内容:

今日の社会は情報化の時代と言われ, 好むと好まざるにかかわらず, コンピュータと関係を持たずに済むことはできない。大学において研究を進める諸君にとってもコンピュータによる情報処理は不可欠なものとなってきている。そして, その多くはワードプロセッサや表計算ソフト, 各種アプリケーションソフトなどの既製ソフトを利用して行うことになろう。

しかし, コンピュータの効果的利用を実現するためには, コンピュータに関する正しい理解が必要である。それには, 既製ソフトの利用だけでなく, 自分でプログラムを作り, コンピュータを使って実践することが最良の方法である。また, 既製ソフトではできない処理に対処するためにも, 自らプログラムを作成できることが望ましい。

授業内容に示す題目について解説しつつ, 演習・実習をまじえて, 実用面を重視した問題を通じて, どのようにすればコンピュータでの処理が可能になるのか, その考え方やその解き方, プログラミングの技法の習得を目的とする。なお, 実習はパーソナルコンピュータを用い, 使用言語は Java で行う。

テキスト:

使用しない。

参考書:

授業中に指示する。

法学各論 (民法Ⅰ)

民法物権法/総則 講師 河原 格

授業科目の内容:

総則/物権・担保物権

日常生活の一部は民法の適用される領域であると思って間違いなほど, その適用範囲は広い。この講座では, 民法の中で最もとっつきにくいとされるいわゆる民法総論, 金融取引の分野で重要とさ

れる物権法, 担保物権法を主として勉強する。

テキスト:

[春学期]

・河原格『入門 物権法』八千代出版 2004 年 2500 円 (予定)

[秋学期]

・河原格『入門 民法総則』八千代出版 2004 年 2200 円 (予定)

参考書:

いずれも図書館に入っている

- ・内田貴『民法Ⅰ [第2版] 総則・物権総論』
- ・丸山英気『物権法入門』(1997)

法学各論 (民法Ⅱ)

民法 債権法 講師 河原 格

授業科目の内容:

契約法/債権総論

日常生活は契約によって規律され, 契約によって日々債権・債務 (内容) が発生している。このことから債権そのものは, 非常に重要な法律内容と言える。特に金融関係に進む希望のある諸君にとり, 債権譲渡, 弁済などの内容は, 大変役に立つものである。だから心して勉強してもらいたいと思っている。

テキスト:

- ・池田真朗『スタートライン債権法 (第3版)』日本評論社, 1998 年
- ・河原格『入門 債権総論』八千代出版 2003 年

参考書:

- ・平野裕之『民法Ⅱ』新世社 2002 年

法学各論 (商法Ⅰ)

会社法講義 法学部 教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容:

このところ, 目まぐるしく変動する日本企業を取り巻く状況の変化によって, 商法は毎年改正を受けているが, それは第二編会社編 (いわゆる会社法) に関する部分である。会社に興味を持っている者は多いと思うが, 会社の存在自体が法律によって認められているのであるから, 是非, 会社の設立, 株式および株主, 経営機構, 資金調達, 企業結合というような諸分野について, 法的知識を持ってもらいたい。

テキスト:

・古瀬村邦夫ほか編「プライマリー会社法」法律文化社

参考書:

授業中に指示する。

法学各論 (商法Ⅱ)

法学部 助教授 高田 晴仁

授業科目の内容:

電子商取引の時代に入った現代においても, 企業間取引の決済方法として, 手形・小切手が重要な位置を占めていることに変わりはない。手形小切手は典型的な有価証券であるから, それらについての体系的な理解は他の有価証券をするうえで必須であり, 来るべき電子商取引法制の基礎にもなるべきものである。

企業活動に関わったことのない学生諸君には有価証券の世界はリアリティに乏しいだろうから講義は出来る限り具体的な事例を示して進めていくつもりである。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

- ・宮島 司『やさしい手形法・小切手法[第二版]』法学書院
その他講義中に指示する。

法学各論（経済法）（春学期集中）

独占禁止法

名誉教授 金子 晃
産業研究所 助教授 石岡 克俊

授業科目の内容：

本講義では、時間の関係で実定経済法の中核をなし、経済の基本的秩序を形成している「独占禁止法」の体系的講義を行う。ただし必要最小限の範囲（独占禁止法の性格を明らかにする範囲）で、経済法理論についても触れる。独占禁止法は競争法とも呼ばれ、国内経済のみならず、国際経済をも基本的に秩序付けているグローバルスタンダードである。現代の経済社会で活躍するビジネスマンにとって必要不可欠な法律である。

わが国の独占禁止法は、敗戦後の昭和 22 年（1947 年）に制定され、現在にいたるまで既に 50 年余が経過している。この間に、わが国の経済社会は大きく変化し、わが国経済を基本的に秩序付ける独占禁止法の内容、公正取引委員会の運用・解釈もそれに依りて変化してきたといえる。現代において独占禁止法の社会的役割、そしてその重要性は国民一般に広く理解・認識されてきているが、いまだ完全にわが国の経済社会に定着したとはいえない状況にある。わが国が経済大国に相応しい国家になるためには独占禁止法をわが国の経済社会に定着させることが不可欠である。

本講義では現実の経済社会で活用できる知識と応用可能な理論を提供する。いかなる法科大学院の講義にも負けない充実した授業を学生諸君に提供したい。

テキスト：

教科書は特に指定しない。ただし、近時、経済法ないし独占禁止法のテキストが数多く刊行されているので、講義初回に現在入手（ないし参照）可能なこれら関連書籍の簡単な紹介を行なう。

授業で提供される資料を毎回入手し、整理することにより、卒業後に企業等で活用できる実用的な教科書が作成できる。

講義のレジュメや資料など必要な情報は主として講義担当の下記ウェブサイトを通じて公表される。ウェブサイトの URL は以下の通り。

OFFICE ISHIOKA <<http://www.ishioka.org/>>

参考書：

参考書も特に指定しない。前項と同様、経済法・独占禁止法に関する参考書や URL についてのさまざまなリソースへのアクセスは、講義初回にまとめて案内する。

法学各論（労働法）

企業と労働者（サラリーマン）をめぐる法的問題を分析する
法学部 助教授 内藤 恵

授業科目の内容：

労働法とは、賃金を得て生活する者（これを労働者と称します。）と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法、個別的労働関係法、そして集团的労使関係法に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期及び秋学期の初めを使って、特に労働者と使用者の間に締結された労働契約の始期からそれが終了する原因に至るまでを講義します。この二つの法主体間の関係を、個別的労働関係と呼びます。内容としては、下記授業計画の第二章から第十一章がそれに当たります。

続いて、労働法と社会保障法の間に位置する労働災害補償の問題を講義（第十二章）し、更に労働者・使用者・労働組合の三者間の法的関係を解釈する、集团的労使関係の領域を講じます。内容としては、第十三章から第十八章がそれに当たります。

講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、出来れば話題となった新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

テキストは指定せず、毎回 Web に講義資料プリントをアップロードします。

但し法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来な

いので、URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行して下さい。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第 7 版〕（有斐閣 2002）

参考書：

- ・初心者向けの参考書として、野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界（第 5 版）』（有斐閣、2003）
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法（第 7 版）』（有斐閣プリマシリーズ、2002）
- ・良く書き込まれた概説書に、菅野和夫『労働法（第 6 版）』（弘文堂）

ジャパニーズ・エコノミー（春学期）

商学研究科 教授（フジタ・チェアシップ基金）小島 明

授業科目の内容：

戦後から現在に至る日本経済を世界経済との関連を重視しながら分析。高度経済成長、制度改革、雇用慣行、企業経営など多面的に論ずる。

1980年代の円高、バブル景気とその崩壊、不良債権問題、直接投資、金融改革、日本の経営の在り方などを議論する。日本が現在直面している政策問題も点検。講義及び討議は英語を使用。

ビデオ、テープなども利用しながら当局者、専門家の生の声、意見に接することができるようにしたい。

Japan's economic performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective.

Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and tapes etc.

参考書：

- ・“Japan's Policy Trap — Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance”, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)
- ・“Balance Sheet Recession — Japan's Struggle with Uncharted Economics and its Global Implications”, by Richard C. Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

履修者へのコメント：

Active participation by students strongly desired.

成績評価方法：

- ・授業内試験
- ・成績はレポートと討議への参加等を重視して評価する。

経済学史

経済学部 助教授 神代 光朗

授業科目の内容：

資本制生産様式の経済法則の解明としての政治経済学および経済思想の歴史を、主にその成立、展開とその批判に焦点をあてて講ずるが、経済学と国民・民族、諸階級、社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け、私達をとりまく世界的な諸問題に過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを、諸君とともに考えながら講義をすすめてみたい。

テキスト：

特にスタンダードなテキストはない。担当者である私の講義内容そのものが、テキストに該当するものであるからして、履修者は必ず出席をし、ノートを自らとる心掛けをもってほしい。下記の参考書は、それを前提にして学生諸君の理解を補助する通史であるが、いかなる通史のテキストにも一長一短はある。

参考書：

- ・内田義彦『経済学史講義』未来社、1968 年（未来社の復刻版もあり）または『内田義彦著作集』（第 2 巻）岩波書店、1989 年、2001 年より増刷
- ・早坂忠編『経済学史 — 経済学の生誕から現代まで —』ミネルヴァ書房、1989 年

・馬渡尚憲『経済学史』有斐閣，1997年

・高橋誠一郎『経済学史略』慶應出版社，昭和27年

これらは、あくまで参考文献であり、諸君自らが、古典文献を読まれることが何より大切である。なお、他に必要な文献等は、授業中に適宜指示する予定である。

経済広報センター寄附講座「変革の時代を生き抜くための経営」

コーディネーター 教授 中島 隆 信

授業科目の内容：

現代の大学生にとって深刻な問題は、変化が少なく安定していた社会のシステムが崩れはじめた現在、卒業して社会に出たあと、どのような社会人として人生を過ごすべきか迷いはじめているということであろう。

社会人と一口にいってもいろいろな側面を持っていることはいうまでもない。しかし、なかでも最も重要な要素の一つは企業に就職し、勤労を通じて社会に貢献するという点である。大きな社会のうねりの中でこれからの企業を取り巻く環境はどうなっていくのか、そこで企業はどうあるべきなのか、そしてそこで働く企業人はどのようにして社会貢献ができるのか、こうした問題は近い将来社会人となる学生が最も強く関心を寄せているテーマであると思われる。

こうした点に鑑み、本年度は、「変革の時代を生き抜くための経営」と題し、日本経済の第一線で活躍されている企業人の方々の豊かな経験に基づく生き生きとしたお話をお聞きする。将来の日本経済を担う学生諸君にとって、社会に出る前にこうしたお話を伺えることは貴重な機会といえる。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

特に指定しない。

特別講座「21世紀のマネジメント」(秋学期)

コーディネーター 教授 岡本 大 輔

教授 檜原 正 勝

授業科目の内容：

商学部の基本理念の前文には「本学部は、福澤諭吉の実学の精神を『商学』の分野において継承し、現代社会の進歩と変革に対応して、つねに新鮮にして活力のある学部であることを目指す。」とある。

また、基本理念2には「教育にあたっては経済社会現象に対する自主的関心と豊かな発想をもってつねに新しい課題に取組み、体得した科学的方法と商学の専門知識を積極的に問題解決に適用できる人材の育成をめざす」と掲げられている。

本講座は、慶應義塾大学商学部においてかつて学び、実学の精神を「商学」の分野において継承したうえで、現代の産業社会において、経営者としてその進歩と変革に携わってこられた方々を講師とする。その講義を通じて、経済社会現象に対する、学生の自主的関心と豊かな発想を涵養することを目的とする。

テキスト：

使用しない。

参考書：

適宜紹介する。

〔自主選択科目〕

〔 英語第 XX について 〕

第3, 第4学年共通のオプション「英語第 XX」は自主選択科目もしくは自由科目として履修することができます。必修英語の履修を終えた後も、学習を継続し英語力のさらなるレベルアップを図るために、積極的にこの講座を活用してください。

内容は、「Writing」、「Public Speaking」、「Discussion」などを中心とするレベル2, 3, 4のクラスと、「TOEFL/TOEIC Practice」 「TOEFL/TOEIC」があります（レベル2, 3, 4のオプションクラスは、同一担当者の同一内容の授業を重視して履修することはありません）。

「TOEFL/TOEIC Practice」は TOEFL/TOEIC 受験のための準備コースで、このクラスを履修する学生は、授業に出席して受験のための実力を養成し、授業中の実績と学期末試験によって成績評価が決まります。

「TOEFL/TOEIC」を履修する学生は、実際に TOEFL/TOEIC を必ず受験し、取得したスコアによって成績評価が決まります。有効な提出スコアは、当該学年4月より翌年提出期限（1月17日）までに取得したものに限りません。なお、授業は Practice と合同で行われます。

「TOEFL/TOEIC Practice」と「TOEFL/TOEIC」はそれぞれ2単位しか履修できません。現在「TOEFL/TOEIC」の単位を既に取得している人は、2004年度中により良いスコアを提出すれば、それに基づく成績も併せて記載されます。（単位は2単位のままです。）スコアを再提出したい人は本年度履修登録をしてください。2005年度にはこの科目は廃止されますので、成績表への成績併記はできません。

また、日吉設置の未取得英語必修科目については、すべて日吉で任意の必修クラスを選択し再履修しなければなりません。

英語第 XX-レベル 2 講師 ウィット, ジャック M.

授業科目の内容:

Communication Skills

The purpose of this course is to help students to use English so that they can express themselves in a variety of situations. The focus of the class will be mostly on speaking and listening. Students will learn basic idioms and communicative functions, improve pronunciation and review common grammatical errors.

Attention will also be paid to pronunciation, speech reduction forms and the nonverbal cues that affect communication. The teaching method will consist mostly of group and pair work, role-play, discussion, listening comprehension activities, interviews and lectures. In addition, students will be asked to give a short presentation on the topic of their choice to the class. The materials which the instructor will provide, will come from various U.S. TV programs such as sitcoms and commercials as well as video material collected from the instructor's travel experiences. Students will have an opportunity to listen to real world English, to ask questions and to participate in classroom discussion.

テキスト:

Provided by the instructor. Students will be required to have an A4 binder and a folder to keep materials distributed.

英語第 XX-レベル 3 助教授 大矢 玲子

授業科目の内容:

The purpose of this course is to help you acquire proficiency in reading about and discussing various social and economic topics.

テキスト:

Handouts will be provided by the instructor.

英語第 XX-レベル 3

Topical Discussion

講師 スワン, ウィリアム L.

授業科目の内容:

Class discussion will center on stories/news articles/etc. which the students will get a week in advance to be read and prepared for discussion in the next class. Some of the stories/articles will be provided by the instructor; each student, or a group of students, will also be expected to prepare and present topics for discussion during the term. Along with the class discussion, higher levels of vocabulary and expressions will also be emphasized.

テキスト:

There is no textbook. Class discussions are based on handouts that are given out in class.

参考書:

none

英語第 XX-TOEFL/TOEIC

教授 トビン, ロバート I.

授業科目の内容:

Students who enroll in TOEFL/TOEIC must take an official TOEFL or TOEIC test between April 1, 2004 and December 31, 2004 and submit a copy of the official test report to the Gakuji Center prior to January 17, 2005. The exact dates for submitting the score will be posted on the Faculty of Business and Commerce Bulletin Board. Include your

- ・ Name and address in Romaji;
- ・ Telephone number or e-mail address;
- ・ Student number and class, for example, 49562318-4X; and
- ・ Clear photocopy of your report.

Grades will be determined based upon the following scale:

Grade	TOEFL CBT	TOEIC
A	213+	750+
B	190-212	690-749
C	173-189	640-689
D	172 and below	639 and below

英語第 XX-TOEFL/TOEIC Practice

教授 トビン, ロバート I.

授業科目の内容:

This course is designed to assist students in enhancing their skills in listening comprehension, vocabulary and test-taking. The class will be conducted as a resource center with a variety of activities to meet student needs.

The course is conducted in English and is open to all students who are willing to be actively involved.

テキスト:

- ・ Longman Preparation Series for TOEIC/Advanced Course.

参考書:

- ・ English-English Dictionary, 121 Common Mistakes

英語第 XX-TOEFL/TOEIC

英語第 XX-TOEFL/TOEIC Practice

講師 ブラッドショー, リチャード E.

授業科目の内容:

In the "TOEFL/TOEIC Practice Course" we will practice taking TOEIC (and if we have time) TOEFL exams. As in the real exams, the emphasis will be on grammar, listening, and reading comprehension. A number of "practice exams" will be taken in class. After taking each exam, we as a class will go over the answers to the questions and explore the underlying reasons why any particular answer is correct or incorrect. By constantly taking practice exams of this nature, the

student should become very familiar with TOEFL/TOEIC testing strategies, and thus be able to achieve higher scores when taking the real exam.

The student can also obtain credit for this class by actually taking the official TOEFL/TOEIC exam and achieving a specific score. If the student chooses to take the TOEFL/TOEIC exam as fulfillment for the course requirements he/she must register in the TOEFL/TOEIC test course and not the TOEFL/TOEIC practice course. A copy of the official TOEFL/TOEIC score transcript must be presented to the Gakuji Center before the end of the course year. Inquire at the Gakuji Center for submission deadline.

Although class attendance is not required of students registered in the TOEFL/TOEIC test course, students registered for the TOEFL/TOEIC test course should feel free to attend classes along with the students officially registered in the TOEFL/TOEIC practice course (for which attendance is mandatory).

テキスト:

The text for the TOEFL/TOEIC practice course is the *Longman Preparation Series for the TOEIC Test, Second Edition*, authored by Lin Lougheed.

〔 中国語科目について 〕

三田に設置された中国語の自主選択科目は、中国語第 XX (表現練習) である。

専攻科目Ⅲ類として設置される外国語特殊 (中国語中・上級) を 2 コマ履修を希望し、かつ担当教員の了承を得られた場合、2 つ目のコマを自主選択科目として履修することができる。

なお、この授業は専攻科目Ⅲ類の中・上級の会話より上のレベルを求める学生を対象とする。

中国語第 XX (表現練習) 講師 張 明 傑

授業科目の内容:

表現力の養成に力を入れ、ある話題について、自分の思っている事がある程度ははっきりと相手に伝えられることを目指す。同時に現代中国の社会や中国人の暮らしに触れることもできるようにする。

テキスト:

・『走进中国』中級本 (北京大学出版社)

参考書:

中国語辞書を持参すること。

〔 その他の語学科目について 〕

以下のイタリア語、ロシア語、朝鮮語、アラビア語、ギリシャ語、ラテン語については、文学部併設であるため、履修人数が多い場合は文学部生優先となる。

必ず履修申告前に、授業担当者に許可をもらうこと。

イタリア語 文学部 講師 ジョエ、イニャツィオ

授業科目の内容:

初心者向けの会話クラス。

テキスト:

・『エスプレッソ Espresso』

参考書:

・辞書: プログレッシブ伊和・和伊辞典 (小学館)

・参考書: 『イタリア語のABC』 (白水社)

『1からはじめるイタリア語練習』 (白水社)

『イタリア語を学ぶ』 (PHP 新書)

ロシア語 文学部 講師 佐野朝子

授業科目の内容:

初めてロシア語を学ぶ者を対象とした週一回のクラスです。一年間で基礎文法を終了し、平易なテキストを辞書を使って読んでいきます。

テキスト:

・白水社「ロシア語の初級クラス」

他にプリントを配布します。

朝鮮語 (初級) 文学部 講師 崔 鶴 山

授業科目の内容:

日常的に使う韓国語のための基礎文法知識を習得する授業です。まず、発音と文字体系、文の仕組みになれるようにします。「ハングル」という馴染みのない文字を使う韓国語は一見難しく見えますが、文の構造や語順、漢字語などは日本語のそれととてもよく似ているため、特に日本人には意外と早い上達が期待できる言語の一つです。発音と文字を覚える 1~2 ヶ月の苦行の後には、暗号のようなハングル文字を読み書きし (意味はわからなくても)、一年後にはソウルの街角で、韓国語でチャレンジしているあなたの姿がみられるかもしれません。

テキスト:

・崔鶴山著「はじめての韓国語」白水社 2003 年 2100円

朝鮮語 (中級) 文学部 講師 李 泰 文

授業科目の内容:

この中級は、1 年ほど学習し、基本的な文章体、口語体の読み書きができる人を対象にしています。具体的には、現在・過去・未来といった時制や変則活用、連体形などを一通り習得した皆さんの文型や表現パターンを増やすことを目的としています。

テキスト:

・慶應義塾外国語学校のテキスト (中級)

参考書:

・『外国人のための韓国語文法』延世大学出版社

・油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館

朝鮮語 (中級) 文学部 教授 野村伸一

授業科目の内容:

この中級は、1 年ほど学習し、基本的な文章体、口語体の読み書きができる人を対象にしています。具体的には、現在・過去・未来といった時制や変則活用、連体形などを一通り習得した皆さんの文型や表現パターンを増やすことを目的としています。

テキスト:

・慶應義塾外国語学校のテキスト (中級)

参考書:

・『外国人のための韓国語文法』延世大学出版社

・油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館

アラビア語 文学部 講師 ザルイ、マブルーカ

講義内容は授業内で提示します。

ギリシャ語

古典ギリシア語入門

言語文化研究所 教授 高橋通男

授業科目の内容:

古典ギリシア語文献を講読する準備として、文法の修得を目指す。

テキスト:

・「ギリシア語入門 改訂版」田中美知太郎・松平千秋著 (岩波全書)

ラテン語

古典期のラテン語文法学習

文学部 講師 平田 眞

授業科目の内容：

インド・ヨーロッパ語の一員であると共にロマンス諸語の母体言語でもあるラテン語の基礎文法修得を目標とする。

テキスト：

- ・樋口・藤井共著『詳解ラテン文法』（研究社）
- ・逸身喜一郎著『ラテン語のはなし』（大修館書店）

諸 研 究 所

教 職 課 程 セ ン タ ー
言 語 文 化 研 究 所
メ デ ィ ア ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 研 究 所
外 国 語 教 育 研 究 セ ン タ ー
情 報 処 理 教 育 室
国 際 セ ン タ ー
体 育 研 究 所
知 的 資 産 セ ン タ ー

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

※ 学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

サンスクリット I (初級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。参加者は、練習問題の予習が必要となる。

教科書：ヤン・ホンダ著・鏡淳譯『サンスクリット語初等文法』（春秋社）

参考書：辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波書店）

サンスクリット II (中級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

サンスクリット語の初歩をすでに一通り修得したもののための授業である。

テキスト等は参加者の希望で決める。

アラビア語 I (基礎)

言語文化研究所 助教授 野元 晋

アラビア語初学者を対象とし、アラビア語文法の初級文法の修得を目的とします。春学期はアラビア文字の書き方、基本的な発音、単語の表記法、名詞、形容詞など、秋学期は動詞を中心に講義し、基礎的な文法事項を一年かけて学習していきます。下記の教科書、参考書以外にも、多くの補助的プリントを用いる予定です。

教科書：佐々木淑子著『改訂版アラビア語入門』（青山社）

参考書：David Cowan, *An Introduction to Modern Literary Arabic* (Cambridge University Press)

アラビア語 II (現代文講読)

言語文化研究所 講師 稲葉 隆 政

基礎文法を学んだ人を対象として現代文の講読を行う。講読を通じて文章の基本的構造に対する理解を深め、併せて読解力を養成することを目的とする。

授業は、極めて平易な文章から読み始め、既習の基礎的知識を再認識しながら順次程度の高い文章を講読し、文語学習の当面の目標の一つである、母音記号等補助記号がついていない文章に対処できる力をつけることを目指す。テキストについては、履修者と相談して決めます。

アラビア語 II (古典)

言語文化研究所 講師 岩見 隆

初級文法を終えたばかりの人を対象に文法の復習に重点を置きながら平易な散文を読みます。文法の初歩以上の予備知識や経験は要求致しません。

テキストはプリントを準備します。はじめは母音符合のついたやさしいものにします。

アラビア語文献講読

言語文化研究所 講師 岩見 隆

定評ある古典をあたりまえに読めるようになることを目標にやってみてほしいと思います。

テキストは履修者と相談して決めます。

ヴェトナム語 I (初級)

言語文化研究所 講師 春日 淳

ヴェトナム語を初歩から学び、初級文法を一通り終える。最初は発音と綴り字から始め、初歩的な会話が可能な程度を目指す。

教科書：『ベトナム語入門 I』（慶應義塾外国語学校）

ヴェトナム語 II (中級)

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

初級ヴェトナム語を学び終えた人を対象に文献講読を行う。最初は簡単なものから始めるが、受講者のレベル・要望に応じて、雑誌・新聞の記事などを読んでいくことにしたい。

ヴェトナム語文献講読

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

ヴェトナム語で書かれた歴史関係の論文あるいは研究書を講読する。テキストは、受講者と相談して決める。

ペルシア語 I (初級)

言語文化研究所 講師 関 喜房

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）を使い、現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。

文法は前期で終え、後期からは易しい文章を読むつもりです。履修希望者は必ず最初の時間から出席してください。

教科書：岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）

ペルシア語 II (中級)

言語文化研究所 講師 岩見 隆

初級文法を学び終えた人を対象に文献講読を行います。ペルシア語は文法で押さえるというより、読み慣れが大きな働きをする言葉なので、散文をたくさん読みたいと思います。テキストはネザームルルク『スィヤーサト・ナーメ』を予定しています。

教科書：ネザームルルク『スィヤーサト・ナーメ』

タイ語 I (初級)

言語文化研究所 教授 三上 直光

タイ語の初級文法及び初級会話を学ぶ。タイ語独特の文字と発音の習得には特に重点を置く。

テキスト：プリント

参考書：三上直光著『タイ語の基礎』（白水社）

タイ語 II (中級)

言語文化研究所 講師 ボンシー・ライト

このクラスでは、主にタイの小学校の教科書から短編ストーリーを抜粋し、読解力・ライティングの向上を目指します。

更に、スピーキング、リスニングによる理解にも、焦点をあてていきます。

トルコ語 I (初級)

言語文化研究所 講師 アイドゥン・ヤマンラール

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

教科書：プリント使用

トルコ語 II (中級)

言語文化研究所 講師 アイドゥン・ヤマンラール

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキストは履修者と相談して決めます。

朝鮮語文献講読

文学部 教授 野村 伸一 (春学期)

言語文化研究所 講師 李 泰文 (秋学期)

朝鮮民族、朝鮮社会、朝鮮の人びとを知るためのテキストを講読します。読む対象は言語で表現されたものを第一義としつつ、随時、図像、写真、映像などを解説します。対象とする時代は特に限定しませ

んが、現代の朝鮮民族を理解するためには、やはり近代を扱う必要があります。

分野別のリストは開講後に提示します。後期は受講者の関心領域を反映するかたちにするつもりですが、一点にしなければならない場合はこちらから提案します。設置講座の性格上、受講者は朝鮮語を読む準備ができていないことが前提となります。口頭会話の能力は必要ありません。テキストは受講者と相談して決めます。

カンボジア語 I (初級)

言語文化研究所 教授 三上直光

カンボジア語の初級文法及び初級会話を学ぶ。カンボジア語独特の文字と発音の習得には特に重点を置く。

テキストは開講時に指示する。

ヘブライ語 I (初級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

旧約聖書のヘブライ語の初歩。テキストはルツ記を用いるが、プリントを授業で配布する。英語ないしドイツ語による辞書(¥2,500~¥10,000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

ヘブライ語 II (中級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

サムエル記の講読。テキストはクラスで配布する。

古代エジプト語 I (初級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

後期エジプト語の初歩。テキストは授業で配布する。5月頃から辞書(約¥9,000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

古代エジプト語 II (中級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

中期エジプト語の初歩。テキストは「難破した水夫」。辞書は Raymond O. Faulkner, *A Concise Dictionary of Middle Egyptian* Oxford (Amazon US で \$ 45) が必要となる。秋学期には後期エジプト語テキストも合わせて講読する。

アッカド語 I (初級)

言語文化研究所 講師 高井啓介

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

教科書: Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

アッカド語 II (中級)

言語文化研究所 講師 高井啓介

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

〔参考〕平成16年度言語文化研究所特殊講座

科目名	教員名	単位数
サンスクリット I (初級)	土田 龍太郎	通年 2 単位
サンスクリット II (中級)	土田 龍太郎	
アラビア語 I (基礎)	野元 晋	
アラビア語 II (現代文講読)	稲葉 隆 政	
アラビア語 II (古典)	岩見 隆	
アラビア語文献講読	岩見 隆	
ヴェトナム語 I (初級)	春日 淳	
ヴェトナム語 II (中級)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読	嶋尾 稔	
ペルシア語 I (初級)	関 喜 房	
ペルシア語 II (中級)	岩見 隆	
タイ語 I (初級)	三上 直 光	
タイ語 II (中級)	ボンシー・ライト	
トルコ語 I (初級)	アイドゥン・ヤマンラル	
トルコ語 II (中級)	アイドゥン・ヤマンラル	
朝鮮語文献講読	野村 伸 一 (春学期) 李 泰 文 (秋学期)	
カンボジア語 I (初級)	三上 直 光	
ヘブライ語 I (初級)	笈川 博 一	
ヘブライ語 II (中級)	笈川 博 一	
古代エジプト語 I (初級)	笈川 博 一	
古代エジプト語 II (中級)	笈川 博 一	
アッカド語 I (初級)	高井 啓 介	
アッカド語 II (中級)	高井 啓 介	

諸
研
究
所

メディア・コミュニケーション研究所

【メディア・コミュニケーション研究所とは】

メディア・コミュニケーション研究所（Institute for Media and Communications Research）は、昭和21年（1946年）に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、平成8年（1996年）に50回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたこととなります。新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合軍占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任せられることになったというのがその発端であると伝えられています。

既述の通り、当初、新聞研究所は新聞研究室として出発しましたが、後に研究機能の重視を目的に研究所に名称を改めました。かつては、新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていました（当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので読もうと思えば読めます）、今日では実習的な側面よりも研究生（新聞研究所に入学した学生はこう呼ばれます）にはマス・メディアおよびマス・コミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心として基礎的な研究に力を入れてきました。メディア業界からは、テクニカルな知識や技術を身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められており、そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりつつあります。戦後50年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、新聞研究所がスタートした頃の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに多少付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行して行きました。近年では地上波だけでなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的かつグローバルにコミュニケーションが展開する時代になってきました。また、スーパー情報ハイウェイとインターネットを中核とし、パソコン通信ネットワークを土台にマルチ・メディアの展開が叫ばれ、コンピュータ・メディアの時代へと大きく変化し、新聞、ラジオ・テレビの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達を中心であったものが、コンピュータ・メディアの発達により双方向的なものとなると同時に、その情報通信範囲もパーソナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大化し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化は驚くべきものとなりました。また、多チャンネル時代を迎え、放送内容も多様なものになり、アイデアや創造力がメディア業界に働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになったため、平成8年（1996年）には、研究所50年の記念式典を行い翌平成9年度より名称を変更いたしました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による新しいコミュニケーションの時代に合致した名称に変更したというわけです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正なる報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。そして、そのための少人数精鋭教育のためのカリキュラム変更も行いました。研究生には、報道ジャーナリズムやマス・コミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア（とくにコンピュータ・メディア）をある程度理解した上に自由に使いこなせるだけの能力も身に付けて欲しいと思っています。そのために、平成11年（1999年）10月より、この方面のメディア・リテラシー向上を求めて、「メディア・ワークショップルーム（MWR）」を開設しました（本格的稼働は平成12年4月より）。今ではインターネット放送もはじめました。間もなくオンライン新聞の発行をはじめたいと思いますので、<http://www.>に慣れてください。学生との連絡にEメールも利用しています。

1996年秋に新聞研究所は記念式典を実施し、その際に新しい名称を与え新たなスタートを切りました。基本的な研究所の研究生教育とメディア・コミュニケーション研究は変わりませんが、新たな名称のもとに生まれ変わった研究所の次の50年の発展が大変期待されます。現在のスタッフは所長、専任および兼担所員、事務職員総勢でも10名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生150名（2～4年生）の教育を行いつつ、新たな研究に邁進する決意をしております。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たな歴史を刻む当事者となります。再出発にふさわしい成果を生むために大いに頑張ってください。

なお、メディア・コミュニケーション研究所の名称は長いので、通常は「メディアコム」と呼ばれます。

◇カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の4つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱い、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）
メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。
- ・研究会（研究生のみ対象）
研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。
- ・特殊研究（研究生のみ対象）
少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。
- ・基礎演習（研究生のみ対象）
メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

- (1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田，日吉，藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。
- (2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

- ・基礎科目 10 単位以上
 - ・研究会 8 単位以上※
 - ・特殊研究 4 単位以上
 - ・基礎演習 2 単位以上
 - 合 計 28 単位以上
- ※ 2～4年春学期までに研究会Ⅰ～Ⅴを順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会Ⅵ（論文指導）を履修すること。すなわち、研究会Ⅰ～Ⅲと研究会Ⅵは全員が履修するが、研究会ⅣとⅤは必修ではない。
3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成16年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

*基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	大井 眞二
三田設置科目	国際コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	内藤 耕
三田設置科目	メディア法制Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	林 紘一郎
三田設置科目	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	玉木 明
三田設置科目	世論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	河野 武司
三田設置科目	情報行動論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	福田 充
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋2	手塚千鶴子
三田設置科目	メディア文化論Ⅰ	春2	畠 信彦
三田設置科目	メディア文化論Ⅱ	秋2	白水 繁彦
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	情報産業論Ⅰ	春2	宿南達志郎
三田設置科目	情報産業論Ⅱ	秋2	内山 隆
日吉設置科目	メディア・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	伊藤 高史
日吉設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ（法学部併設）	春2	小川 恒夫
日吉設置科目	社会心理学Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	萩原 滋

*研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	金山 智子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	伊藤 高史
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）（新規募集なし）	春2/秋2	渡辺 秀樹
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2/秋2	小澤 太郎

*特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	上野 邦治
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	河原 理子
三田設置科目	広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	池田 諸苗
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅰ	春2	境 真良
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅱ	秋2	前澤 哲爾
三田設置科目	特殊研究Ⅰ・Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）	春2/秋2	小川 浩一
三田設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	★ジャーナリズム特殊研究Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	佐藤公正・大石裕
日吉設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	菅谷実・金山智子

*基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小林 雅一
三田設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	村上久仁子
三田設置科目	放送制作Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	碓井 広義
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	酒井由紀子
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅲ・Ⅳ	春2/秋2	酒井由紀子
日吉設置科目	電子ネットワーク調査法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 智子
日吉設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小林 雅一
日吉設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	栗田 亘

★印は朝日新聞寄付講座

マス・コミュニケーション論 I	大石 裕
-----------------	------

マス・コミュニケーションと政治

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

- ・大石 裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
- ・大石 裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・ニューマン『マス・オーディエンスの将来像』学文社

マス・コミュニケーション論 II	大石 裕
------------------	------

政治コミュニケーションの理論と分析

授業科目の内容：

本講義では、政治コミュニケーションに関する理論について解説し、また、それを用いて現実の政治社会（主として戦後日本社会）について分析を行う。その際、マス・コミュニケーションに関する諸研究、世論研究、社会運動論、政治権力論などを参照する。

テキスト：

- ・大石 裕『政治コミュニケーション』勁草書房
- ・大石 裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

- ・大石 裕『コミュニケーション研究』
- ・ルークス『現代権力論批判』未来社

マス・コミュニケーション発達史 I	大井 眞二
-------------------	-------

近代化の位相とマス・コミュニケーション

授業科目の内容：

日本の近代化を縦軸にし、マス・メディア空間を横軸にして、日本の近代史をメディア史のパスベクディブから振り返ってみたい。近代社会という固有の空間に誕生した最初のマス・メディアである新聞は、近代化の過程と密接に絡み合いながらその姿を変えてきた。本講では、幕末維新期から第一次世界大戦までを射程にいて、日本の近代政治史に「変化のエージェントとしてのメディア」（エイゼンシュテイン）がどのように関わったか、を考察する。

テキスト：

特に指定しない。適宜資料を配付する。

参考書：

- ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社、2004年

マス・コミュニケーション発達史 II	大井 眞二
--------------------	-------

デモクラシーとマス・メディア

授業科目の内容：

日本のマス・メディアに与えた大きな影響の視点から、米国のメディア史を取り上げたい。

これには日本のメディア史を相対化する意図が込められている。米国のメディアとりわけ新聞は、建国期からデモクラシーにおける役割が重視されてきた。あるいはデモクラシーの制度的前提であったといってもいい。この考え方は、基本的に今日においても変わることがない。このことの意味を考えてみたい。

テキスト：

講義の際に指示する。

参考書：

- ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社

国際コミュニケーション論 I	内藤 耕
----------------	------

国際報道の現状とニュースの流れの構造

授業科目の内容：

本講義では国際コミュニケーションを諸国家間のコミュニケーションおよび国境を相対化するグローバル・コミュニケーションをめぐる問題構成としてとらえていきます。とくにIでは、イラク戦争でクローズアップされた、戦争報道を中心とした国際報道の現状と問題点を考えていきます。戦争報道の歴史の変遷から始まって、報道を支えるシステムのはらむ問題やニュースの国際的な流れの構造にいたるまで概観していきます。事例研究と理論的議論をセットにして紹介します。あまり明るい話はできませんが、「世界」に対する批判的精神を養うと同時に、むしろ受講生自身の力でオルタナティブな道を見つけていただけるような問題提起ができればと思っています。

テキスト：

学期中にご案内します。

参考書：

- ・鶴木真『情報政治学』三嶺書房、2002年

国際コミュニケーション論 II	内藤 耕
-----------------	------

メディアのグローバリゼーションと文化摩擦

授業科目の内容：

グローバル化しつつあるメディアの現状とそれをめぐる問題について多面的に解説を試みます。講義は大きく二つに分かれ、前半が資本、コンテンツの流通等の側面からの分析となります。メディア資本の世界戦略、アジアにおける日本製アニメやテレビ番組の流通と受容などの事例を取り上げます。後半は、政策論として、文化交流政策と開発コミュニケーションについて概観していきます。受容する側の「したたかさ」についても理解できればと思います。全体的に、日本との関係、それから授業担当者の専攻領域の都合により、アジアの事例を多く取り上げることになるでしょう。対象の性格上、春学期の内容と一部重複する部分があるかもしれませんが、Iを受講している必要はありません。

テキスト：

学期中に案内します。

参考書：

適宜、授業中に紹介します。

メディア法制 I	林 紘一郎
----------	-------

授業科目の内容：

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マス・コミュニケーション法制」として実施されてきたものを基礎にしつつ、2002年度から通信やインターネットも取り込んで、包括的な「メディア法制」として再出発したものである。

テキスト：

- ・拙著『情報メディア法』（2004年夏出版予定）

参考書：

- ・松井茂記『マス・メディア法入門（第2版）』日本評論社、1998年

メディア法制 II	林 紘一郎
-----------	-------

授業科目の内容：

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マス・コミュニケーション法制」として実施されてきたものを基礎にしつつ、2002年度から通信やインターネットも取り込んで、包括的な「メディア法制」として再出発したものである。

テキスト：

- ・拙著『情報メディア法』（2004年夏出版予定）

参考書：

- ・松井茂記『インターネットの憲法学』岩波書店、2002年

ジャーナリズム論 I	玉木 明
------------	------

授業科目の内容：

明治以来のジャーナリズム史を概観し、日本のジャーナリズムの特殊性を考察する。

テキスト：

・玉木明著「ゴシップと醜聞」（洋泉社 680 円）

参考書：

・玉木明著「ニュース報道の言語論」（洋泉社）

ジャーナリズム論 II

玉 木 明

授業科目の内容：

中立公平・客観報道の限界が露呈してきた 1960 年代、アメリカで起こったニュー・ジャーナリズムに注目し、その具体的な成果（作品）の分析を通して、新しいジャーナリズムの在り方を考察する。

テキスト：

・玉木明著「言語としてのニュー・ジャーナリズム」（洋泉社 2000 円）

参考書：

・玉木明著「ニュース報道の言語論」（洋泉社）

世 論 I

河 野 武 司

世論と政治

授業科目の内容：

デモクラシーは、世論による政治と言われる。しかし世論とは一体全体何なんだろうか。国民の多数が賛成する意見なのであろうか。国民の多数が賛成する意見は正しいものなのだろうか。本講義では、世論についての定義や概念を明らかにした後、政治や社会を動かす原動力とみなされている世論が、今日において相応しく機能しているか否かといった問題を考察します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

世 論 II

河 野 武 司

世論調査データの分析

授業科目の内容：

今日いわゆる世論の方向と量は、世論調査によって測定されますが、本講義では世論調査データの分析方法の基礎を、コンピュータ室における実習を通して、身につけることを目的としています。実習にあたっては統計解析ソフトである SPSS を用います。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・酒井麻衣子『SPSS 完全活用法—データの入力と加工』（東京図書、2001 年、2800 円）

・西澤由隆、西澤浩美訳『誰にでもできる SPSS によるサーベイリサーチ』（丸善株式会社、1997 年、2900 円）

その他授業中に適宜紹介します。

情報行動論 I

福 田 充

情報行動の基礎理論とメディア利用の諸問題

授業科目の内容：

高度情報化社会に生きる現代人は、情報とメディアに囲まれた日常に生きている。現代社会における情報環境のあり方、情報行動の変容に関して、具体的なメディア利用の現象を社会的、社会心理学的なアプローチから理論的に考察する。情報行動論の基礎編である。

テキスト：

・特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書：

・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動 2000』東京大学出版会

・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

情報行動論 II

福 田 充

ユビキタス社会における情報行動の変容

授業科目の内容：

現代のメディア環境、情報環境の変容は、私たちの日常生活における情報行動に対してどのような影響を与えているのだろうか。情報行動に関する最新の問題群をトピックごとに考察しながら、変容する現代の情報行動の特質を解明する。情報行動論の応用編である。

テキスト：

・特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書：

・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動 2000』東京大学出版会

・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

異文化間コミュニケーション

手 塚 千 鶴 子

日本人学生と留学生との交流をめざして

授業科目の内容：

グローバル化下での世界的な人口移動の激しい現代、日本人は、国内外で初めて多様な外国人と広範囲にしかも日常的な接触を持つようになっていく。この授業では、近代の「知識」「情報」「モノ」の欧米からの一方的な異文化受容の歴史が、日本人の異文化コミュニケーションに与えた負の遺産をふまえて、双方で着目する異文化コミュニケーションをめざす現代の日本人にとっての課題を明らかにし、異文化コミュニケーションの基本的概念、枠組みを理解しながら、実際に日本人学生が、キャンパスの留学生達とどうコミュニケーションしていけばよいのか、留学生との授業内外の交流体験を通して、異文化コミュニケーションの基本的態度やスキルを身に付けることを目的とします。

テキスト：

特に指定せず資料を配布します。参考書：

・「異文化コミュニケーション・ワークブック」（三修社）

・「異文化への理解」（東京大学出版会）

メディア文化論 I

鳥 信 彦

各種メディアの特質とメディア・リテラシー

授業科目の内容：

テレビ、新聞、ラジオ、インターネットなど各種メディアの特色とその影響力を検証し、メディアリテラシーの重要性を考える。学生たちに構想力や現場主義について体験論を講義。

テキスト：

・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

・鳥信彦著「ニュースキャスターたちの 24 時間」（講談社 α 文庫、1999 年）

メディア文化論 II

白 水 繁 彦

メディアが作りだす地域や集団のイメージ

授業科目の内容：

地域や集団のイメージ作りに欠かせないメディアのあり方を具体的に且つクリティカルに検討する。内容は；まず、観光地イメージの形成とメディアの働きの例としてハワイをとりあげる。つぎにイメージ作りに欠かせない手段である広告の分析手法を学ぶ。次いで、一般になじみにくいエスニック・メディアの実態分析を通して、マジョリティの外国人イメージを逆照射する。

テキスト：

・山中速人『ハワイ』岩波新書 1993 年 740 円、その他プリント

参考書：

・白水繁彦『エスニック文化の社会学』

・同『エスニック・メディア』

メディア産業と政策 I	菅谷 実
-------------	------

メディア政策基礎理論とメディア・コンテンツ

授業科目の内容：

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論、後半はメディア産業の個別政策課題（本年度は映画を中心とした映像コンテンツ産業を取り上げる）を中心に論じる。

テキスト：

・菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』丸善、2002年

メディア産業と政策 II	菅谷 実
--------------	------

米国のメディア政策

授業科目の内容：（講義回数の目安）

本講義では米国のメディア産業の発展史、放送、通信、ケーブルテレビを含む各メディアの市場および産業構造、政策の変容などを体系的に明らかにする。

情報産業論 I	宿南 達志郎
---------	--------

授業科目の内容：

情報産業について、とりわけ技術革新により変化の激しい、コンピュータ、通信、放送、出版等を中心に講義します。大きな流れとしては、デジタル化（電子化）、ネットワーク化、パーソナル化、ブロードバンド化などがあります。

これらのメディア間の競合・補完について、最新の情報に基づき、普及状況や利用形態を含め、日本と海外との比較を交えながら解説します。例えば、地上波デジタル放送、携帯電話への放送受信機能の搭載、映像のインターネット配信、ウェアラブル・コンピュータなどについて学びます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料はプリントの配布または Web サイトでの閲覧とする予定です。

参考書：

・総務省（編）「情報通信白書 平成 15 年版」ぎょうせい 2003 年
・野村総合研究所「これから情報・通信市場で何が起ころのか 2004 年版」東洋経済新報社 2003 年

情報産業論 II	内山 隆
----------	------

経営戦略と政府政策

授業科目の内容：

情報産業といわれたときにイメージされる業種、一例えば放送・通信、新聞・出版、映画・映像、などには二面性があります。それは先進国では一大産業セクターとなること、そして文化・思想の育成機関であることです。産業が持続可能であるためには、これらの一面だけを追求するのではなく、その両立を図ることを考えなければなりません。本講義では産業としての側面から、情報産業の他産業に対する特色を考え、同時に豊かな文化を築くという経営使命を達成する方法としての経営戦略と政府政策を考えていきます。なお講義トピックとして、以下のことを中心に講義を進める予定です。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・菅谷実・中村清編『放送メディアの経済学』中央経済社、2000年
・菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』丸善、2002年

メディア・コミュニケーション論 I (日吉)	伊藤 高史
------------------------	-------

メディアと公共性の変容と情報社会

授業科目の内容：

メディア・コミュニケーションという言葉は、個人と個人が顔をつけあわせて行う「対面的」コミュニケーション（パーソナル・コミュニケーション）に対して使われる言葉です。ですから、まずは、対面的コミュニケーションとメディア・コミュニケーションの関係などについて議論から講義を始めます。そして、情報社会と言われ

る今日において、両者の関係がどのように変化しつつあるのか、また、メディア・コミュニケーションそのものがどのように変容しつつあるのかについて、社会学および法律学的な観点から解説します。

参考書：

・鶴木真編『客観報道』成文堂
・阿部潔著『公共圏とコミュニケーション』ミネルヴァ書房

メディア・コミュニケーション論 II (日吉)	伊藤 高史
-------------------------	-------

情報社会時代の情報操作と表現の自由

授業科目の内容：

秋学期は特に、メディアの送り手という視点に立って、メディアコミュニケーションについて講義します。昨今では、個人がインターネットを利用して、一般に向かって広く情報発信をすることが容易になりました。その一方で、欧米での政治キャンペーンの場などでは、既存のマスメディアを利用する広報専門家「スピンドクター」の存在が大きな関心を呼んでいます。情報化社会になり、誰でもが情報発信できる時代だからこそ、有力なメディアを利用する能力が必要になっているのかもしれませんが。こうした状況の変化について、表現の自由に関する議論や既存のマスメディア研究、ジャーナリズム研究の視点を踏まえて、講義していきます。

参考書：

・津金澤聡廣、佐藤卓己編『広報・広告・プロパガンダ』ミネルヴァ書房

マス・コミュニケーション論 I (日吉)	小川 恒夫
----------------------	-------

政治とメディアの相関図

授業科目の内容：

極めて遠く離れた場所に、ただちにメッセージを送ったり、また何百人もの人々に同じような意味を伝達するといった、今日われわれがもっている驚くべき能力は、私達にとってきわめてなじみ深いものであるために、ともするとそのような能力を当然のことのように見なしてしまう。しかし、このような能力が、個人的に、あるいはまた集会的に、われわれにどんな影響を与えているのか、またこれがわれわれの未来をどのようなものにしていくのか、こうしたことについて明確な予測をすることは難しいのが現状である。

本授業の中心的課題は、これらの問題に答えるべく、これまでに現れてきた主要な論述を概観し、1) マス・コミュニケーションはどのような形で発生したか、その結果、2) 個人や社会秩序に対してどのような結果をもたらされたかの点について考察を行うことにある。

参考書：

・大石裕著「コミュニケーション研究」慶應大学出版会

社会心理学 I (日吉)	萩原 滋
--------------	------

社会的認知と対人行動

授業科目の内容：

自分たちの社会的環境をいかにして把握するかという問題、すなわち「社会的認知」と呼ばれる研究領域を中心に、均衡理論、認知的不協和理論、帰属理論など社会心理学の代表的な理論枠組について概説し、それに依拠して行われた実験など具体的な研究事例を詳しく紹介する。また対人魅力など、対人行動の基礎となる問題も取り上げることとする。

参考書：

適宜、指示する

社会心理学 II (日吉)	萩原 滋
---------------	------

メディアとコミュニケーション

授業科目の内容：

対人コミュニケーションからマス・コミュニケーションまで幅広く「コミュニケーション」の過程を取り上げるが、前者に関しては「説得的コミュニケーションと態度変容」、後者に関しては「テレビの社会的機能、対人的影響」に焦点を当てて、新旧取り混ぜて社会心理学的研究の成果を紹介する。

参考書：
適宜，指示する

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

萩原 滋

メディア利用と社会行動

授業科目の内容：

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。つまり研究方法としては、理論研究や主観的解釈を排除するわけではないが、できるだけ実証的手法を重視するということである。

テキスト：

・田崎篤郎・児島和人編著(2003) マス・コミュニケーション効果研究の展開[改訂新版] 北樹出版(もう1冊は、追って指示する)

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

菅谷 実

メディア産業論

授業科目の内容：

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネットに代表されるマルチメディアまで、メディア産業全体を対象にその産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめる。

春学期は、個人研究の発表、秋学期は三田祭での共同研究(2003年度は、「LOVEMUSIC 変わり行く音楽産業」)、4年生の修了論文発表を中心に進める。また、夏合宿、企業訪問等も計画している。

なお、ゼミ活動の詳細は、メディアアコムのホームページ(www.mediacom.keio.ac.jp)を参照のこと。

成績評価方法：

・授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。
・なお研究会Ⅵは修了研究の発表および論文による評価。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

宿南 達志郎

授業科目の内容：

本研究会では、インターネット及び携帯電話などの情報通信メディアを中心に、メディアの発展の歴史、情報通信産業の構造、情報通信政策の変化、経済・社会の変化などについて実証的に研究していく。

テキスト：

・春学期：岡田・松田(編)「ケータイ学入門」有斐閣選書 2002年
・秋学期：研究生の皆さんと議論して決定

参考書：

・林紘一郎「電子情報通信産業」コロナ社 2002年
・総務省(編)「情報通信白書 平成15年版」ぎょうせい 2003年

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

金山 智子

授業科目の内容：

本研究会は、情報コミュニケーション技術(ICT)の普及が社会や個人に与える影響をテーマにさまざまな観点から研究します。技術普及と社会との関係をクリティカルに考察し、分析する力の養成を目指します。また、これまで議論されてきた情報化やICTの活用にとらわれることなく、市民やNPOによる創造的なメディアやICTの活用についても考察します。

テキスト：

現在未定ですが、基礎文献リストを用意します。

参考書：

折々のテーマに即して紹介します。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

伊藤 高史

メディアと表現の自由にかかわる諸問題についての学際的研究

授業科目の内容：

メディア論やコミュニケーション論は、様々な学問分野からアプローチされるべき学際的分野です。春学期には、社会学、法学、政治学といった各分野からメディアあるいはコミュニケーションにアプローチした諸論文を提示しますので、担当者にそれら論文について報告してもらい、互いに討論します。これを通じて、学問的な考え方や研究方法を身につけてもらいたいと思います。また適宜、メディアとコミュニケーションに関連した事件を取りあげて、解説、討議してもらいます。秋学期には履修者の修了論文完成に向けて、メディアをとりまく具体的な問題等についての、出席者の個人研究発表を中心に進めます。

参考書：

・『コミュニケーションの政治学』(鶴木真編、慶應大学出版)

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

伊藤 陽一

情報化と近代化

授業科目の内容：

「情報化」(情報技術が発達し、マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し、情報流通量が増大する現象として定義される)が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には、「近代」の特質である民主主義、合理主義、個人主義、資本主義が、「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか、あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

テキスト：

・伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」
・関口一郎(編)「コミュニケーションのしくみと作用」大修館、1999年

参考書：

・稲葉三千男「コミュニケーション発達史」創風社、1989年
・竹内成明「コミュニケーション物語」人文書院、1986年
・香内三郎「活字文化の誕生」晶文社、1982年

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

渡辺 秀樹

映画の社会学

授業科目の内容：

映画を素材とする社会学的考察がテーマ。ビデオを見ながら社会学的視点、枠組に慣れ、社会学的なものの考え方(Sociological way of thinking)を育てることを目的とする。

参考書：

・田中直毅・長田弘「この百年の話—映画で語る二十世紀」
ほか多数

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

大石 裕

ジャーナリズムについて考える

授業科目の内容：

・ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的文献や論文を輪読する。
・各グループごとに新聞報道を中心に分析を行う。
・修了論文の発表を行う(4年生中心)。

テキスト：

・大石裕他『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

・田村紀雄他編著『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社
・リップマン『世論』岩波文庫

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

小澤 太郎

電子社会の公共選択論

授業科目の内容：

情報通信社会の光と影を、学際的に検討したいと思います。春学

期は、「技術」と「米国の国家戦略」を軽視する、我が国の通信行政の歪みを取り上げます。秋学期は、電子政府の可能性と弊害について考えてみたいと思います。

テキスト：

春学期：石黒一憲『電子社会の法と経済』岩波書店、2003年（秋学期は未定）

参考書：

春学期

- ①石黒一憲『IT戦略の法と技術』信山社、2003年
- ②中村慎助・小澤太郎・グレーヴァ香子編『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社、2003年
- ③金子郁容編『総合政策学の最先端Ⅱ：インターネット社会・組織革新・SFC教育』慶應義塾大学出版会、2003年

放送特殊講義Ⅰ

上野邦治

テレビジャーナリズム論Ⅰ

授業科目の内容：

テレビ番組はこんなことをしていいの？世論の厳しい目が光る中、テレビ界にも自主・自律の動きも出てきた。テレビ界にいるものの立場から、現状（問題番組）を実例検証し、テレビのあるべき姿を考察する。

放送特殊講義Ⅱ

上野邦治

テレビジャーナリズム論Ⅱ

授業科目の内容：

（教材 ビデオ・テープ）

放送特殊講義Ⅰに続いてテレビ番組の現状（問題番組）を、そのつど実例検証し、テレビ界のあるべき姿を考察する
メディア規制の動きが強まる中、テレビ界は、自主、自律を守るため、どうすべきか提議し、学生とともに検討する。

新聞特殊講義Ⅰ・Ⅱ

河原理子

授業科目の内容：

- ・事件報道（特に被害者への取材報道）を軸に、新聞の現状、役割と課題を学ぶ。
 - ・多角的な視点を身につけ、より良い読み手になる。
（借り物の批判でなく、自分の目で見て考えられるように。また、自分だったらどう書くか、まで考えたい）
 - ・自分で調べ、当事者の話を聞き、説得力ある文章を書くことを目指す。
 - ・ひとを取材するのに最低限必要なマナーと配慮を学ぶ。
- ★Ⅰで基礎となる視点を鍛え、Ⅱはできるだけ実践的に進めたい。

テキスト：

・プリントを配布

参考書：

- ・河原理子著「犯罪被害者」（平凡社新書、1999年）
- ・William Cote, Roger Simpson 著 “Covering Violence”（Columbia Univ. Press 2000年）

広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ

池田諸苗

授業科目の内容：

広告業界に身を置く者としての観点から、(1) 経済システムにおける「広告」の役割、(2) 広告会社の今日的業務の実態、(3) 最新の広告業界動向と将来見通し、の3点を学んでいただくことを目的としたプログラムを編成。講師は、内容ごとの専門家によるオムニバス形式を基本とし、適宜池田による「まとめ」を織り交ぜる。春学期は主に「過去～現在」、秋学期は主に「現在～未来」を対象領域とする。

メディア特殊講義Ⅰ

境真良

コンテンツ財の経済からエンタメビジネスの産業構造を「読む」

授業科目の内容：

娯楽系コンテンツ財の経済という視点から、資金調達とビジネス

モデルを二つのキーワードに、現在のエンタメ・コンテンツ産業のしくみを再解釈します。単にお金の運動として説明するのではなく、関係者の慣習や主観がどのような理由で形成されるかを重視します。IT二重革命や、国際化に代表される地殻変動の中で、今後エンタメ・コンテンツ産業がどこへ行くのかを考える基本的な力を身につけることが目標です。

テキスト：

特にありません。講義資料プリントを配付します。

参考書：

- ・映像コンテンツ産業論（菅谷実、他、2002、丸善）
- ・経済産業省メディアコンテンツ課の各報告（www.meti.go.jp からダウンロード可能）

メディア特殊講義Ⅱ

前澤哲爾

映画産業と映画振興～2004年、今起っていること

授業科目の内容：

現実の映画を取り巻く環境を国際的な視野で学ぶことの中から、実態を把握する力と主体的に考える力を自ら発見します。

参考書：

適宜、推薦します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 映画産業の構造 (2)
3. 日本の映画状況
4. アジアの映画状況
5. 世界の映画状況
6. 世界の映画祭 (2)
7. 映画振興策 (2)
8. フィルムコミッション (2)
9. これからの展望

履修者へのコメント：

常に疑問を持ち、積極的に質問する学生を希望します。ノートだけ取る学生は不用です。

成績評価方法：

・平常点（参加度、積極性、出席率）

質問・相談：

常にOKです。maezawa@film-com.jp

特殊研究Ⅰ（日本の近代化とマス・メディア）小川浩一

授業科目の内容：

戦後日本社会の近代化の原理を「民主主義」と考えた場合に、現在この原理はいかなる状態として認識できるか、原理の実体化にマス・メディアは如何なる貢献をしているかを評価したい。

参考書：

・沢山あるので授業時に指示しますが、岩波新書『新聞は生き残れるか』を読了すること。

特殊研究Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）小川浩一

授業科目の内容：

戦後日本の近代化の原理を「民主主義」と考えた場合に、現在この原理はいかなる状態として認識できるか、原理の実体化にマス・メディアはいかなる貢献をしているかを評価したい。

参考書：

・岩波新書『新聞は生き残れるか』を読了しておくこと。

メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ

（三田）宿南達志郎

（日吉）菅谷実

（日吉）金山智子

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加す

る。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度メディア産業実習Ⅱを登録し、インターンシップに参加することができる。

ジャーナリズム特殊研究Ⅰ・Ⅱ

佐藤 公正
大石 裕

朝日新聞寄付講座

授業科目の内容：

本講義は、第一線で活躍中の朝日新聞の記者をお招きし、ジャーナリズムの諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト：

・特に指定しないが、『新聞研究』、『総合ジャーナリズム研究』などは日常的に目を通しておくこと。

参考書：

・特に指定しないが、『新聞研究』、『総合ジャーナリズム研究』などは日常的に目を通しておくこと。

時事英語Ⅰ・Ⅱ(三田・日吉)

小林 雅一

外国メディアの報道から学ぶ現代社会と世界情勢

授業科目の内容：

英字紙・誌の記事を無理なく読解・咀嚼できるようになることが基本的な狙い。時にはビデオを教材にし、放送英語にも接する。「時事」英語なので、英語を通して世界の最新情勢を学ぶ。それによって、より実践的な英語力が養われる。

テキスト：

・特に指定しません。教材を配布します。

参考書：

・講義が進む中で、順に指定します。

文章作法Ⅰ・Ⅱ

村上 久仁子

「伝わる」文章を書こう

授業科目の内容：

文章を書く、ということは「伝える」ということと同時に自分の思考や感性を突き詰める作業でもあります。それだけに個性が強く表れます。その個性を活かしつつ、伝えようとする内容が効果的に読み手に届く、そのような作文能力を引き出すことを目指します。

参考書：

・本多勝一「日本語の作文技術」(朝日新聞社)

放送制作Ⅰ・Ⅱ

碓井 広義

映像制作で考えるテレビ・メディア

授業科目の内容：

2003年12月から始まった地上デジタル放送。送受信のシステムが変化しても、そこで流されるコンテンツ(番組)の重要性は変わりません。むしろ、これまで以上に「創ること」に対する認識が高まると考えられます。この授業では映像制作をしながらテレビ・メディアを考察してゆきます。

テキスト：

・碓井広義「テレビの教科書」(PHP新書・2003年・700円)

メディア・コミュニケーション実習Ⅰ

酒井 由紀子

映像編集の技術

授業科目の内容：

インターネット放送に必要な、ノンリニア編集を学びます。

メディア・コミュニケーション実習Ⅱ

酒井 由紀子

インターネット放送の仕組みを学ぶ

授業科目の内容：

インターネット放送の仕組みを学び、実際に配信を体験します。

メディア・コミュニケーション実習Ⅲ

酒井 由紀子

映像制作を通して学ぶインターネット放送(初級)

授業科目の内容：

映像制作を通してインターネット放送の可能性と問題点を考えます。(初級編)

メディア・コミュニケーション実習Ⅳ

酒井 由紀子

映像制作を通して学ぶインターネット放送(初中級)

授業科目の内容：

映像制作を通してインターネット放送の可能性と問題点を考えます。(初中級編)

電子ネットワーク調査法Ⅰ(日吉)

金山 智子

授業科目の内容：

インターネットの普及は、現代社会に生きる人々のコミュニケーションや情報行動に大きな影響を及ぼしており、また電子ネットワーク上では新しいメディア空間が展開されています。本講義では、人々がサイバースペースで繰り広げるコミュニケーション行動やヴァーチャル・コミュニティのありよう、さらに電子ネットワーク空間で伝達されるさまざまなメディア・メッセージなどを研究するための調査方法について学びます。春学期は電子ネットワーク調査研究の基礎を身に付けます。

教科書：

特に指定しません。講義中に次回までに予習しておく文献や関連ウェブサイトを示します。

参考書：

・池田謙一『ネットワーク・コミュニティ』東京大学出版会

電子ネットワーク調査法Ⅱ(日吉)

金山 智子

授業科目の内容：

秋学期は主に質問調査、内容分析、インタビュー、及び参与観察の調査方法について学びます。調査方法の選定、各調査方法を実施する際の留意点、さらにデータの分析方法も身につけます。実際に小グループで電子ネットワークに関する調査を実施し、クラスで発表してもらいます。

教科書：

特に指定しません。講義中に次回までに予習しておく文献や関連ウェブサイトを示します。

参考書：

・ステイブ・ジョーンズ『ドゥーイング インターネット リサーチ』セージ

文章作法Ⅰ(日吉)

栗田 亘

「天声人語」流に

授業科目の内容：

各自が実際に「書く」ことを通じて、文章の上達をめざす。

文章作法Ⅱ(日吉)

栗田 亘

文章作法Ⅰの成果を発展させて

授業科目の内容：

文章作法Ⅰ以上に実践を重んじ、さまざまな実践に備える。

外国語教育研究センターは、語学視聴覚教育研究室を改組して、昨年の10月に発足しました。英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語およびスペイン語の6外国語について、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行います。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています。

外国語教育研究センターでは、毎年夏休みに慶應立科山荘で行われていた集中セミナーに替わる集中講座を新たなコンセプトのもとに企画しています。計画が決定し次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者の募集をする予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター設置科目の一覧を掲載します。ガイダンス、履修の手続き、および各科目の詳しい講義内容ならびに併設科目については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

ガイダンス日程：4月5日(月) 12:20～12:50 533 番教室
受講料は無料です。

定員を超えた場合は抽選となります。

外国語教育研究センター設置科目一覧 (三田)

- *科目名に(A)(B)と表記されている科目は春(A)・秋(B)をセットで履修することが義務付けられている科目です。
- *科目名に(1)(2)と表記されている科目は春(1)と秋(2)のどちらかひとつを履修しても、あるいは両方履修することも可能です。
- *英語 Grammar in Action: Speaking and Writing と英語アカデミックライティングは春または秋のどちらかの履修のみ可能です。

語 種	科目名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数	
英 語	アドバンスト英語 (A) (最上級)	レイサイド, ジェイムズ	春	火・4	25	半期	1	
	アドバンスト英語 (B) (最上級)	レイサイド, ジェイムズ	秋			半期	1	
	アドバンスト英語 (最上級)	レイサイド, ジェイムズ	春 秋			通年	2	
	英語TOEFL 対策 (1) (Developing TOEFL Skills I)	バロウス, リチャード	春	木・5	30	半期	1	
	英語TOEFL 対策 (2) (Developing TOEFL Skills II)	バロウス, リチャード	秋			半期	1	
	英語TOEIC 対策 (1) (TOEICテスト対策のための実践演習)	狩野 みき	春	月・2	30	半期	1	
	英語TOEIC 対策 (2) (TOEICテスト対策のための実践演習)	狩野 みき	秋			半期	1	
	英語アカデミックライティング (Writing an Academic Paper in English)	和田 朋子	春 秋	月・5	25	半期	1	
	経済・金融英語 (1) (130パターンでおぼえる経済英語の常識)	日向 清人	春	月・3	30	半期	1	
	経済・金融英語 (2) (130パターンでおぼえる金融英語の常識)	日向 清人	秋			半期	1	
	法律・法務英語 (1) (130パターンでおぼえる会社と法務関係の英語)	日向 清人	春	月・4	30	半期	1	
	法律・法務英語 (2) (130パターンでおぼえる契約関係の英語)	日向 清人	秋			半期	1	
	ド イ ツ 語	ドイツ語表現技法Ⅳ (A) (中上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春	月・4	25	半期	1
		ドイツ語表現技法Ⅳ (B) (中上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	秋			半期	1
ドイツ語表現技法Ⅳ (中上級聴解・口頭表現)		三瓶 慎一	春 秋	通年			2	

諸
研
究
所

語 種	科目名	担当講師名	設置学期	曜日・時間	定員	形態	単位数
ドイツ語	ドイツ語表現技法Ⅴ(A) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル-タカヤマ, メヒティルド	春	火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法Ⅴ(B) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル-タカヤマ, メヒティルド	秋			半期	1
	ドイツ語表現技法Ⅴ (中・上級文章表現法)	ドゥッペル-タカヤマ, メヒティルド	春 秋			通年	2
フランス語	フランス語表現技法Ⅱ(1) (DELF第1段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春	月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法Ⅱ(2) (DELF第1段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	秋			半期	1
	フランス語表現技法Ⅲ(1) (DELF第2段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春	月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法Ⅲ(2) (DELF第2段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	秋			半期	1
	フランス語表現技法Ⅳ(1) (DALF対応クラス)	ペリセロ, クリステリアン・アンドレ	春	木・1	20	半期	1
	フランス語表現技法Ⅳ(2) (DALF対応クラス)	ペリセロ, クリステリアン・アンドレ	秋			半期	1
ロシア語	ロシア語表現技法Ⅰ(1) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	春	金・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法Ⅰ(2) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	秋			半期	1
	ロシア語表現技法Ⅱ(1) (ロシア語で発信しよう)	宮澤 淳一	春 秋	木・4	25	半期	1
	ロシア語表現技法Ⅱ(2) (ロシア語で発信しよう)	宮澤 淳一	春 秋			半期	1
中国語	中国語リスニングⅡ(1)(最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	春	月・3	25	半期	1
	中国語リスニングⅡ(2)(最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	秋			半期	1
	中国語ライティングⅡ(1)(最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明	春	月・5	25	半期	1
	中国語ライティングⅡ(2)(最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明	秋			半期	1
スペイン語	スペイン語表現技法Ⅲ(1)(上級) (スペイン語の新聞記事を読む)	長野 太郎	春	月・2	25	半期	1
	スペイン語表現技法Ⅲ(2)(上級) (スペイン語の新聞記事を読む)	長野 太郎	秋			半期	1

2004 年度 外国語教育研究センター設置科目 (三田) 春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9:00~10:30		10:45~12:15		13:00~14:30		14:45~16:15		16:30~18:00	
月			英語TOEIC対策 (1) スペイン語表現技法Ⅲ (1) (上級)	狩野 長野	経済・金融英語 (1) フランス語表現技法Ⅱ (1) 中国語リスニングⅡ (1) (最上級)	日向 ルカウエ 山下	法律・法務英語 (1) ドイツ語表現技法Ⅳ (A) ドイツ語表現技法Ⅳ フランス語表現技法Ⅲ (1)	日向 三瓶 ルカウエ	中国語ライティングⅡ (1) (最上級) 英語アカデミックライティング	蔭 和田
火							ドイツ語表現技法Ⅳ (A) ドイツ語表現技法Ⅳ ドイツ語表現技法Ⅴ (A) ドイツ語表現技法Ⅴ	レイザイト トウマハ ルカウエ		
水										
木	フランス語表現技法Ⅳ (1)	ペリロ					ロシア語表現技法Ⅱ (1)	宮澤	英語TOEFL対策 (1)	ハロウス
金					ロシア語表現技法Ⅰ (1)	熊野谷				
土										

2004 年度 外国語教育研究センター設置科目 (三田) 秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9:00~10:30		10:45~12:15		13:00~14:30		14:45~16:15		16:30~18:00	
月			英語TOEIC対策 (2) スペイン語表現技法Ⅲ (2) (上級)	狩野 長野	経済・金融英語 (2) フランス語表現技法Ⅱ (2) 中国語リスニングⅡ (2) (最上級)	日向 ルカウエ 山下	法律・法務英語 (2) ドイツ語表現技法Ⅳ (B) ドイツ語表現技法Ⅳ フランス語表現技法Ⅲ (2)	日向 三瓶 ルカウエ	中国語ライティングⅡ (2) (最上級) 英語アカデミックライティング	蔭 和田
火							ドイツ語表現技法Ⅳ (B) ドイツ語表現技法Ⅳ ドイツ語表現技法Ⅴ (B) ドイツ語表現技法Ⅴ	レイザイト トウマハ ルカウエ		
水										
木	フランス語表現技法Ⅳ (2)	ペリロ					ロシア語表現技法Ⅱ (2)	宮澤	英語TOEFL対策 (2)	ハロウス
金					ロシア語表現技法Ⅰ (2)	熊野谷				
土										

諸
研
究
所

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月2日（金） 2時限目（10：45～12：15） 513番教室

2 受講申し込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申し込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月 9日（金） 9：00～16：00

4月10日（土） 9：00～14：00（11：30～12：30は昼休み）

4月12日（月） 9：00～16：00

場 所：三田学事センター

3 履修上の注意

情報処理教育室に申し込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申し込みをしないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 問合せ先

情報処理教育室（日吉学事センター内） 045-566-1019

5 平成16年度開講科目及び受講料

設置講座は受講料が必要ですが、文学部、経済学部、法学部、商学部生については当年度学部設置の情報処理基礎関連の科目（文学部：基礎情報処理 経済学部：情報処理Ⅰ 法学部：情報処理Ⅰ・Ⅱ 商学部：情報処理Ⅰ）を定員の関係で履修できずに「情報処理概論Ⅲ（パソコンによる情報整理学）」を申し込む場合には受講料（12,000円）は免除されます。申し込み方法は変更ありませんが、必ず学生証を提示してください。

平成16年度 情報処理教育室設置講座（三田）

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅱ	JAVA	12 A 藤村 光	通 年	50	12,000円	4
情報処理概論Ⅲ	パソコンによる情報整理学	13 B 江島 夏実				
情報処理概論Ⅳ	Cobol	14 A 田窪 昭夫	春学期	30	6,000円	2
情報処理応用Ⅱ	統計解析	32 A 鴻巣 努				

開講曜日・時限は学部の時間割ではなく、情報処理教育室設置講座の時間割に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日（木）から開始されます。

参考：平成16年度 情報処理教育室設置講座（日吉）

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅰ	11 A	恩田 憲一	通 年	100	12,000円	4
	11 B	斎藤 博昭		50		
情報処理概論Ⅲ	13 A	河内谷幸子		46		
情報処理応用Ⅰ	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000円	2

授業科目の内容：

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、および基本的な考え方を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。基本情報技術者試験 (FE) 午後の Java の問題に取り組めるレベルを到達目標とします。

教科書：

Web サイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開。適宜更新します。

参考書：

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業科目の内容：

ITC のパソコンを利用して、コンピュータの仕組みや社会との関わりを、応用プログラムの使い方を学びながら理解する。けれども、それぞれの応用プログラムの使い方を学ぶことが目的ではなく、コンピュータを利用して、情報を獲得し、整理し、必要ならば加工し、伝達するための基礎知識を学び、これからの大学生活や社会に出ても役立つことが目的である。したがって、パソコンの使い方を憶えるのではなく、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの仕組みについて理解し、ネットワークを用いたコミュニケーションについても理解することが大切である。この講義では、できるだけ多くの実習をとり入れる予定であるが、限られた時間の中で細かな点までを教えることは到底できない。諸君が空いた時間を利用して、自発的に実習することが前提になっている。

教科書：

・ Computer System Workbook 「日本語文書処理」, 同「表計算 1」, (株) コンピュータ教育工学研究所

参考書：

・ Computer System Textbook 「2. ワープロ・表計算・プレゼンテーション」

授業科目の内容：

ビジネス (業務処理) を遂行するにあたって、コンピュータがどのようにデータ処理に利用できるかを理解し、COBOL 言語による基本的なプログラムの作成ができるようになることを目的とする。

コンピュータを使ったビジネスデータ処理 (業務処理) のために、与えられた問題を分析し、解法を設計しコンピュータプログラムの形で実現できる力を養う。

COBOL は、今日の C++, JAVA などと違い、生誕 40 余年を迎え、200 数十万と最大のコンピュータ言語人口を擁し、ビジネス処理の標準言語として、世界で常に一位の地位を保っている。

教科書：

・ 大駒誠一著 COBOL の基礎と応用 — JIS 1992 年版準拠 — サイエンス社

授業科目の内容：

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

教科書：

・ 室淳子、石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

参考書：

・ 東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
・ 田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社

慶應義塾大学 夏季在外研修プログラム

慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

The Keio University College of William & Mary Cross-Cultural Collaboration

柏崎 千佳子 経済学部助教授
大串 尚代 文学部助手

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座」を夏季休業期間に開講します。ウィリアム・アンド・メアリー大学（所在地：東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグ）は、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマ（2004年度は“American Dreams: Lost and Found”）に沿った講義、グループワーク、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション等で構成されています。現地では、大学内での寮生活や、ボランティアワーク、住民との交流、講演会、ホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流が体験できるように工夫されています。短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、アメリカでの生活体験をしたい方、語学力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。現地研修には本学の教職員が同行します。また、ビデオ会議などを含めた事前・事後研修を、日吉キャンパスで実施します。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。詳しくは、国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

教科書：

特にありませんが、研修に参加するにあたり必要と思われる文献・資料は事前研修の際にお知らせします。

授業の計画：

現地研修期間：2004年7月30日（金）～8月19日（木）

4月下旬より事前研修（6回程度）、また、帰国後には事後研修（2回程度）を行います。

研修内容：ウィリアム・アンド・メアリー大学教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイなど。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：40名（提出書類により選考を行います。）
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）
- (3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各A4一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など）、⑤RESEARCH PROPOSAL（所定用紙）書類選考後、グループ分けの時に利用します。
- (4) 募集期間：4月7日（水）～4月15日（木）各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）
- (5) 募集ガイダンス：4月5日（月）三田133番教室 13:00～14:30
4月5日（月）SFC Ω12教室 17:00～18:30
4月6日（火）矢上 14-201教室 13:00～14:30
4月6日（火）日吉 J11教室 17:00～18:30
- (6) 選考結果発表：4月28日（水）13:00（予定）

履修者へのコメント：

This program gives you a rare opportunity to stay at a prestigious American college and to work closely with its staff members. We welcome highly motivated students. (柏崎 千佳子 経済学部助教授)

成績評価方法：

事前・事後研修の出席、中間発表、現地研修期間中の活動、Final Presentation、日本帰国後のFinal Reportにより採点します。

質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

前 野 隆 司 理工学部助教授
池 田 幸 弘 経済学部教授

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学 ― ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座」を夏季休業期間中、英国・ケンブリッジにおいて開講します。ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。授業は英語による講義およびディスカッションを中心としており、講義は原則としてケンブリッジ大学の教員が担当します。講座期間中は、専門分野の知識を深めるだけでなく、ダウニングコレッジ内での寮生活や、ケンブリッジ大生が企画する様々なアクティビティを通して、現地の学生との交流も体験できます。このように本講座は、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。現地研修には本学の教職員が同行します。また、現地への出発前に、事前研修を3回程度三田キャンパスで実施する予定です。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する場合があることをあらかじめご了承ください。詳しくは国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

教科書：

現地での開講科目の参考文献を、国際センター作成の募集要項に記載しています。また、事前研修時にリストにして配布します。

授業の計画：

現地研修期間：2004年8月9日（月）～9月8日（水）
5月～7月に三田キャンパスにて事前研修を3回程度行います。

講義日程：第1週：8月10日（火）～8月16日（月）

Placement Interviews, English & writing preparation classes

第2週：8月17日（火）～8月23日（月）

Ancient Greece and Western Civilization および Genetics: ethical issues arising from developments in genetics

第3週：8月24日（火）～8月30日（月）

Society and Politics in Contemporary Britain および The Science of Chaos

第4週：8月31日（火）～9月6日（月）

English Literature および Astronomy: Unveiling the Universe

9月7日（火）Closing ceremony

第2週から第4週までは、各週2科目ずつ用意された授業の内1科目を選択、合計3科目を選択履修。

※ 各科目とも定員が30名のため、事前に参加者の希望をもとに履修調整を行います。

※ 開講科目は事情により変更されることがあります。

研修内容：ケンブリッジ大学の教員による講義及び質疑応答（午前）

ケンブリッジ大生 (TA: Teaching Assistant) を交えてのディスカッション（午後）。エッセイ作成・提出。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：60名（提出書類により選考を行います。）
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）
- (3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各A4一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など）、⑤履修希望科目申告表（所定用紙）
- (4) 募集期間：4月7日（水）～4月15日（木） 各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）
- (5) 募集ガイダンス： 4月5日（月）三田133番教室 13:00～14:30
4月5日（月）SFC Ω12教室 17:00～18:30
4月6日（火）矢上 14-201教室 13:00～14:30
4月6日（火）日吉 J11教室 17:00～18:30
- (6) 選考結果発表： 4月28日（水）13:00～14:30（予定）

履修者へのコメント：

私もかつて、カリフォルニア大、ハーバード大に留学したことがあります。国際経験は、世界観・人生観を1次元から2次元へ（線から面へ）広げることのできるすばらしい経験です。大いに学び、大いに楽しみましょう。（前野 隆司 理工学部助教授）

これからの若い人たちには、海外で職探しをするくらい気合を期待したいと思います。本プログラムは、イギリスの文化や制度を知るためにも、また日本を見直すための一助となるものと信じます。Good Luck!（池田 幸弘 経済学部教授）

成績評価方法：

現地でのエッセイの評価をもとに行います。

質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、東南アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、経済、産業、文学、芸術、マスコミなど幅広い側面から日本を探求します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、履修申告の際には履修単位の取り扱いを必ず確認してください。

1. 対象

1) 国際研究講座

本塾大学学部生ならびに大学院生

2) 日本研究講座

本塾大学に在籍する外国人留学生を対象としていますが、日本人学生の受講も奨励しています。海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

2. 手続方法

学事センターで所定の履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。 学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用して登録手続きをしてください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない科目については、三田、日吉の国際センターにある所定の用紙に必要事項を記入し、次の手続期間内に国際センターに直接申し込んでください。

国際センター受付期間：

春学期開講科目 4月15日(木)～21日(水) 10:00～16:00

秋学期開講科目 10月2日(土)～8日(金) 10:00～16:00

*いずれも日吉は 10:00～11:30, 12:30～16:00

*土曜日は 10:00～11:30, 12:30～14:00

3. 受講料

無料です。

4. 掲示

休講などの連絡事項は、三田西校舎国際センター掲示板（日吉では第四校舎・藤山記念館の国際センター掲示板、学事センターの共通掲示板）に掲示されます。

I 国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

異文化研究：文化、価値と自己理解

(2単位) (春 火3)

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS: LOOKING FOR THE HIDDEN ROOTS OF CULTURAL DIFFERENCE

(2 Credits) (Spring Tue 3)

シヨールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Course Description:

Culture has two sides, a visible side - food, clothing, architecture - and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Book:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities - Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.

Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

世界政治におけるラテンアメリカ

(2単位) (春 火5)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

(2 Credits) (Spring Tue 5)

アントリネス, マリオ 国際センター講師

Mario Antolinez

Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Book:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Recommended Readings:

Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.

Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.

Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.

Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.

Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.

Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.

Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.

Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.

Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.

Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.

Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.

Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.

Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.

Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

1. Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
2. Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
3. Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
4. Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
5. Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

Text Book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, *International Human Rights: Law, Policy and Process* (3rd ed. 2001) and supplement *Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law*

Course Description:

This is an introduction to Australian society examined through the prism of its experiences in death and loss. We will examine important dimensions of Australian history, politics and society by describing and reflecting on how these sociological dimensions shape - and are shaped by - experiences of Australian mortality.

The aims of this subject are:

- To provide a basic introduction to the culture and history of Australian society
- To provide a comparative basis for reflections about Australian national character with that of contemporary Japanese
- To provide an understanding of the most important patterns of national conflict – race, gender and class – that characterize the zeitgeist [‘spirit of the times’] for Australian society today.
- To understand Australian experiences of death and loss

Our discussions will revolve around a weekly reading. The topics and citations to these readings are supplied to you in this outline.

Your teacher for this course is:

Professor Allan Kellehear, PhD, is Professor of Palliative Care and Director of the Palliative Care Unit at La Trobe University in Melbourne, Australia. He is also Professorial Fellow at the University of Melbourne Medical School and Chair of the Scientific Advisory Committee of the National Centre for HIV Social Research in Sydney. In 2000 he was British Academy Visiting Professor at the University of Bath and the Religious Experience Research Centre at Westminster College, Oxford. He is the author or editor of 17 books and is currently in Japan as Visiting Professor of Australian Studies at the University of Tokyo.

グローバルビジネスにおける革新と戦略 (2単位) (春 金 3)
INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS (2 Credits) (Spring Fri 3)
トビン, ロバート I. 商学部教授
Robert I. Tobin Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy-and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments..

Text Book:

Leading the Revolution by Gary Hamel
Supplementary Reading Materials and Case Studies
Additional Book To Be Assigned

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

産業史各論 (科学技術政策史) (2単位) (秋 月 1)
HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY (2 Credits) (Fall Mon 1)
ルイス, ジョナサン 商学部非常勤講師 (一橋大学助教授)
Jonathan Lewis Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It considers the roles of states, enterprises and universities in scientific research and technological development in the context of globalization from a variety of perspectives.

The class will be in English and Japanese.

Recommended Readings:

Etzkowitz, Henry, 2002. MIT and the Rise of Entrepreneurial Science. Routledge.
Fuller, Steve, 1997. Science. Open University Press.
Hafner, Katie and Lyons, Matthe, 1998. Where Wizards Stay Up Late. Simon & Schuster.
L_vy, Pierre, 2001. Cyberculture. University of Minnesota Press.
Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshika, Hitoshi, 1999. Science, technology and society in contemporary Japan. Cambridge University Press.
Mani, Sunil, 2002. Government, innovation and Technology Policy: an international comparative analysis. Edward Elgar.
Penely, Constance. 1997. NASA/Trek: popular science and sex in America. Verso.
Samuels, Richard J. 1994. "Rich Nation, Strong Army". Cornell University Press.
加藤弘一 著「電脳社会の日本語」文春新書, 2000
中山茂 他 著「通史 日本の科学技術」ガクヨウ書房, 1995

アジアの政治, 宗教, 文化	(2単位) (秋 月4)
POLITICAL CULTURES OF SOUTHEAST ASIA: POLITICS, RELIGION, AND CULTURE	(2 Credits) (Fall Mon 4)
秋尾沙戸子	国際センター講師 (ジャーナリスト)
Satoko Akio	Lecturer, International Center (Journalist)

Course Description:

This course surveys the values and the attitudes which supply the original assumptions and the patterns which determine the political behavior influenced by the conventional traditions in Southeast Asia. Unique topics such as the role of Islam, Buddhism, and patron-client relations should be focused on while discussing the political leadership. Video presentation of historical events will help to understand the background of this region. Course requirements are active participation in the classroom, oral presentation and term paper.

Text Book:

Funston, John, (ed), *Government and Politics in Southeast Asia*, Singapore, Institute of Southeast Asian Studies, 2001.

アメリカ研究：アフリカ系アメリカ人の視点からみたアメリカ史	(2単位) (秋 月4)
AMERICAN STUDIES: HISTORY OF THE UNITED STATES FROM AN AFRICAN-AMERICAN PERSPECTIVE	(2 Credits) (Fall Mon 4)
奥田暁代	法学部助教授
Akiyo Okuda	Associate Professor, Faculty of Law

Course Description:

The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of black people in the United States. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on the historical events. By means of discussion, lectures, videos, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

Recommended Readings:

John Hope Franklin: From Slavery to Freedom

地球環境問題と企業・政府・消費者	(2単位) (秋 月4)
GLOBAL ENVIRONMENTAL ISSUES AND ACTORS	(2 Credits) (Fall Mon 4)
山口光恒	経済学部教授
Mitsutsune Yamaguchi	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English.

By attending this course, you will understand what's happening on global environment and how important they are to our economy, health and future generations. I will focus on the actors, such as firms, governments and consumers and explain their roles. Then move on to selected issues; First, climate change (including international as well as domestic policies and measures), second, waste minimization focusing on EPR (Extended Producer Responsibility), and, if time allows, compatibility of free trade and environment.

1. Nature of global environmental problems
2. Global environmental issues and firms
3. SO Environment Management and Firm
4. Government activity (1) - Cost benefit analysis and value of the environment
5. Government activity (2) - Policies and measures
6. Role of consumers and NGO's
7. Climate change (1) -IPCC report and Framework Convention on Climate Change
8. Climate change (2) -Kyoto Protocol and US withdrawal
9. Climate change (3) -Domestic measures
10. Waste problems, Extended Producer Responsibility
11. Waste Problems, EPR-Japanese situation
12. Free trade and the environmental protection

Text books:

F.Cairncross, "Costing the Earth", Harvard Business School Press, 1991
 山口光恒「地球環境問題と企業」岩波書店2000年

異文化研究：国際化と異文化理解プロセス

(2単位) (秋 火 4)

INTERNATIONALISM AND CULTURAL LEARNING: HUMAN RELATIONS IN THE NEW GLOBAL COMMUNITY

(2 Credits) (Fall Tue 4)

ショールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities - Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do
 Identity, by Shaules, Tsujioka & Iida, published by Oxford University Press

カナダという国とカナダの国際的な役割

(2単位) (秋 火 5)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

(2 Credits) (Fall Tue 5)

イエローリーズ, ジェームズ 国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Course Description:

The course will focus on introducing the history, economy and social and political systems of Canada. Students will then examine contemporary Canada and its role in the international community. We will make use of videos and computer assisted media.

比較映画論：映画における過去観の諸文化比較

(2単位) (秋 水 2)

VISIONS OF THE PAST: CROSS-CULTURAL COMPARISON OF HISTORICAL FILM

(2 Credits) (Fall Wed 2)

エインジ, マイケル W. 経済学部助教授

Michael W. Ainge Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

Historical Drama is a well-established film genre in most nations. While the majority of historical films ostensibly try to "re-create" past events, and present a "window on the past", others depict the past in such a way as to comment on the nature of presenting history on film. In this course, we will examine historical films from around the world—Asia, Africa, Europe, Latin America and North America—with an eye on how they treat their historical subjects and on which attendant historiographical issues they raise. We will learn to recognize the basic issues and problems of presenting history on film (as compared to history recorded in books and manuscripts, for example), and this will allow us to discuss and compare how filmmakers in different cultures have responded to those problems.

First, we will define the two dominant types of historical film, the drama and documentary, analyzing their conventions, as well as assessing their limitations. Then, we will proceed to survey some alternative approaches to representing the past on film. All along, we will try to uncover the "hidden" ideological and interpretive assumptions in the films. We will have to consider the relationship between fact and film, and the questions of accuracy, completeness, complexity, argument. Finally, students will be expected to view a film independently, and to write a paper analyzing that particular film in light of the questions and theories discussed in the class.

Students will be required to watch the assigned films on video before class, as homework, and to prepare questions for discussion in English in class. Assigned films will be available with English and/or Japanese subtitles. Evaluation will be based on: class participation (40%), and understanding of the course material as demonstrated in a term paper (60%).

A partial list of films on the course syllabus:

CEDDO (SENEGAL, 1978)
FRIDA, NATURALEZA VIVA (Mexico, 1984)
HEARTS AND MINDS (U.S.A., 1975)
JFK (U.S.A., 1991)
THE MARRIAGE OF MARIA BRAUN (W. GERMANY, 1979)
QUILOMBO (BRAZIL, 1984)
REDS (U.S.A., 1981)
SANS SOLEIL (FRANCE, 1982)
TANGO (SPAIN/ARGENTINA, 1998)
WALKER (U.S.A., 1987)

Additionally, written material for background reading and historical analysis will be available, for a small fee. The class will be conducted as a lecture-discussion, with frequent student presentations.

アフリカン イシューズ： アフリカにおける近代と危機の意味	(2 単位) (秋 木 5)
AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	(2 Credits) (Fall Thu 5)
近藤英俊	国際センター講師 (関西外国語大学助教授)
Hidetoshi Kondo	Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of medicine and illness in contemporary Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of medicine and illness in Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) complexity and flow of medical cultures, (2) social relations and power in medicine, (3) capitalism, the state and medicine, (4) development and decline of bio-medicine, (5) traditional medicine and professionalisation, (6) religion as medicine, (7) cultural understandings and social consequences of AIDS pandemic.

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course! Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

アジア諸国におけるビジネスマネジメント	(2 単位) (秋 金 3)
BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES	(2 Credits) (Fall Fri 3)
トビン, ロバート I.	商学部教授
Robert Tobin I.	Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on businesses and the styles of management of firms headquartered in Asia outside of Japan.

Students will explore traditional and emerging issues for Asia's business and political leaders and their organizations. In addition students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on Asian management, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, open-space activities, projects, experiential class activities, and research assignments.

Text Book:

Asian Management Systems, Min Chen.

Additional assigned articles and supplementary readings

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

国際開発協力論	(2単位) (秋 金 4)
INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	(2 Credits) (Fall Fri 4)
後藤一美	法学部非常勤講師 (法政大学教授)
Kazumi Goto	Part-time Lecturer, Faculty of Law (Professor, Hosei University)

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Text Book:

Textbook is not used in particular. Resume and list of reading materials will be available during the course and via e-mail.

Recommended Readings:

Some recommended readings are as follows:

Finn Tarp, *Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future*, Routledge, 2000.

John Degnol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, *Aid: Understanding International Development Cooperation*, Zed Books, 2003.

唐木園和・後藤一美・金子芳樹・山本信人 (編) 『現代アジアの統治と共生』慶應義塾大学出版会, 2002年。

青木健・馬田啓一 (編) 『政策提言/日本の対アジア経済政策』日本評論社, 2004年。

後藤一美 (監修) 『国際協力用語集』(第3版), 国際開発ジャーナル社, 2004年。

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ	(2単位) (秋 土 2)
EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS	(2 Credits) (Fall Sat 2)
嘉治佐保子	経済学部教授
Sahoko Kaji	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English. The text used in this course is Julie Gilson, *Japan and the European Union*, Macmillan Press (in the UK), St Martin's Press (in the USA), 2000. The contents of the book are as follows:

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations
- Chapter 2 Developing Cooperation, 1950s - 80s
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan
- Chapter 4 European Integration and Changing Views of Europe

Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations
Chapter 6 Cooperation in Regional Forums
Chapter 7 Addressing Global Agendas
Chapter 8 Conclusions: A Partnership for the Twenty-first Century

Lectures will be based mostly on chapters of this text. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical. The plan is to use the first lecture for introduction. During the following weeks, one to two lecture-hours will be spent discussing each of the chapters 1 through 8.

The topic to be discussed in the following week will be announced at the end of each lecture. Students must submit a report on the Topic each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Evaluation is by class participation and an essay at the end of the term. For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, *The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 1999, £ 3.99. Reading and/or purchasing of this latter book are not necessary.

II 日本研究講座 (JAPANESE STUDIES COURSES)

異文化コミュニケーション1 —日本のコミュニケーションパターンから見た場合—	(2単位) (春 月5)
INTERCULTURAL COMMUNICATION 1: SEEN FROM JAPANESE COMMUNICATION PATTERNS	(2 Credits) (Spring Mon 5)
手塚 千鶴子	国際センター助教授
Chizuko Tezuka	Associate Professor, International Center

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra
Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba
Dependency and Japanese socialization by Frank A. Johnson
Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohlen, and Patricia G. Steinhoff
An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef
Intercultural communication :a reader (6th edition) by L.A.Samovar & R.E.Peter

日本の金融ビッグバン	(2単位) (春 火3)
FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN	(2 Credits) (Spring Tue 3)
ハリス, グレアム O.B.E.	商学部非常勤講師
Graham Harris O.B.E.	Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

Text Book:

Current materials will be used.

英国と米国のマスコミに描かれた日本	(2単位) (春 火3)
JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	(2 Credits) (Spring Tue 3)
キンモンズ, アール H.	国際センター講師 (大正大学教授)
Earl H. Kinmonth	Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan from the earliest awareness of Japan until the present. For Japanese, the course serves as an introduction to the many ways Japan has been and is seen by foreign observers. For non-Japanese, the course serves to introduce students to the limits and peculiarities of scholarly and journalistic writing on Japan. For both, the course is intended to give students an awareness of the degree to which not just journalists but also allegedly objective scholarly observers are in fact heavily influenced by the historical and political circumstances in which they write.

Recommended Readings:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

多民族社会としての日本	(2 単位) (春 火 4)
MULTIETHNIC JAPAN	(2 Credits) (Spring Tue 4)
柏崎 千佳子	経済学部助教授
Chikako Kashiwazaki	Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, zainichi Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

日本企業の経営戦略と管理手法	(2 単位) (春 火 4)
CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN: Understanding Key Success Factors for Developing and Implementing Corporate Strategies	(2 Credits) (Spring Tue 4)
稲葉 エツ	国際センター講師 (財団法人貿易研修センター人材育成部長)
Etsu Inaba	Lecturer, International Center (Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)

Course Description:

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical and experiential learning skills as well as discussion/presentation skills in students.

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices. The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and the process of developing management practices. In-depth understanding of selected corporations in Japan as "best practice" will be pursued through case studies, company visits and student's own research

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

Recommended Readings:

Will be advised at the beginning of the course.

浮世と道行き	(2 単位) (春 水 3)
JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD	(2 Credits) (Spring Wed 3)
アーマー, アンドルー	文学部教授
Armour Andrew	Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course focuses on the pre-modern Japanese literature of the Edo period (1600-1867). Marking contrast with both the war tales of the samurai and the contemplative works of the solitary priests, much of the literature of this period reflects the concerns and tastes of the common townspeople. It was their prosperity and vitality that spurred the growth of printed literature and popular drama, encouraging men like Saikaku, Bashō, Chikamasa and Akinari. As well as the "floating world" of prose fiction, we shall be covering such topics as haiku poetry and love suicides in the puppet theatre.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website (www.armor.cc/ukiyo.htm)

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

日本の経営	(2単位) (春 水3)
JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	(2 Credits) (Spring Wed 3)
梅津 光弘	商学部専任講師
Mitsuhiro Umezu	Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. *The Japanese Today: Change and Continuity*. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

Recommended Readings:

TBA

美術を「よむ」－日本美術史入門	(2単位) (春 水4)
INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	(2 Credits) (Spring Wed 4)
河合 正朝	文学部教授
Kawai Masatomo	Professor, Faculty of Law
ルーマニエール, ニコル	国際センター講師 (セインズベリー日本藝術研究所所長)
Nicole Rousmaniere	Lecturer, International Center (Director, The Sainsbury Institute for Study of Japanese Arts and Cultures)
カーペンター, ジョン	国際センター講師 (ロンドン大学東洋アフリカ学院助教授)
John Carpenter	Lecturer, International Center (Assistant Professor, SOAS, University of London)

Course Description:

Through an examination of selected topics ranging from prehistory through to the 19th century, this introductory course aims to familiarize students with concepts and processes at work in Japanese art history. The course will provide a basic introduction to Japanese artistic formats, such as screen painting, calligraphy and ceramics, and to genres such as Zen painting, rinpa and literati styles. Primary emphasis is placed on understanding the work of art itself and its context.

Requirements:

Two short written assignments (4-5 double spaced A4 pages)

Active participation in class discussions and on field trips. Attendance and participation will be reflected in the final grade for the course.

Field Trips:

One field trip to Tokyo National Museum (Ueno Park) will be taken during the course in conjunction with a paper assignment.

Lecture Topics:

Japanese Prehistory

Todaiji and the Shosoin

Courtly Literature and Kana Calligraphy
 Zen Painting and Calligraphy
 Japanese Ceramics
 Japanese trade and relations with China and Europe
 Rinpa Painting and Calligraphy
 Literati Painting and Calligraphy
 Japanese Ceramics
 Kabuki and 17th Century Genre Painting
 Kazari, Japanese Design and Decoration
 Ukiyo-e and Surimono
 Collecting Japan in 19th-century America and Britain

Texts:

There is no single textbook for the course. Instead, a list of suggested books will be distributed and photocopies of selected sections will be available.

Castile, Rand (ed), *The Burghley House Porcelains*. New York: Japan Society, 1986.
 Clunas, Craig, "Oriental Antiquities/ Far Eastern Art," *Positions: East Asian Cultures Critique* vol. 2, no.2 (Fall 1994), pp.318-354.
 Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, *What is Japanese Architecture?* (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International.
 Fontein, Jan and Money Hickman, *Zen Painting and Calligraphy*. Boston: Museum of Fine Arts, 1970.
 Guth, Christine, *Art of Edo Japan: The Artist and The City 1615-1868*. New York: H.N. Abrams, 1996.
 Impey, Oliver and John Ayers and J.V.C. Mallet (ed), *Porcelain for Palaces*. London: The Oriental Ceramic Society, 1990.
 Mason, Penelope, *History of Japanese Art*. New York: H.N. Abrams, 1993.
 Mikami Tsugio. *Japanese Ceramics*. New York: Heibonsha International, 1977.
 Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, *What is Japanese Architecture?* (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International, 1985.
 Pearson, Richard, *Ancient Japan*. Washington, DC: Smithsonian Institution.
 Rousmaniere, Nicole (ed), Kazari, *Decoration and Display in Japan 15th - 19th Centuries*. London: British Museum Press, 2003.
 Singer, Robert, *Edo, Arts of Japan*. Washington D.C., National Gallery of Art, 1998.
 Wilson, Wilson, *Inside Japanese Ceramics*. Tokyo and New York: Weatherhill, 1995.

Also See:

Chanoyu Quarterly (Urasenke Foundation)
 The Kodansha Encyclopedia of Japan (9 vols.), New York: Kodansha International, 1983
 The Shibata Collection Catalogues (6 vols) published by The Kyushu Ceramic Museum, 1995 onwards.

日本の政治と外交	(2単位) (春 木 5)
JAPANESE POLITICS AND DIPLOMACY	(2 Credits) (Spring Thu 5)
添谷 芳秀	法学部教授
Yoshihide Soeya	Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course aims to evaluate the evolution of Japanese politics and diplomacy since the end of the World War II. It will deal with several key issues and questions relating to the emergence, evolution, and demise of the so-called 1955 regime of Japanese domestic politics, as well as the so-called Yoshida "doctrine" in its foreign policy.

Texts:

Reading assignments, shown in the syllabus to be distributed in the first class, will be available from the University Co-op.

ジャパニーズ・エコノミー	(2単位) (春 木 5)
JAPANESE ECONOMY	(2 Credits) (Spring Thu 5)
小島 明	商学研究科教授
Akira Kojima	Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all

discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and Tapes etc.

Recommended Readings:

Japan's Policy Trap - Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

Balance Sheet Recession - Japan's struggle with uncharted economics and its global implications, by Richard C. Koo, 2003 John Wiley & Sons

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam.

エコノミー・オブ・ジャパン	(2 単位) (春 土 2)
ECONOMY OF JAPAN	(2 Credits) (Spring Sat 2)
嘉治佐保子	経済学部教授
Sahoko Kaji	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English.

The text book is Takatoshi Ito, The Japanese Economy, MIT Press, 1992.

Lectures will be based on chapters of this text.

The book's contents are as follows:

Part I Background

Chapter 1 An Introduction to the Japanese economy

Chapter 2 Historical background of the Japanese economy

Part II Economic Analysis

Chapter 3 Economic growth

Chapter 4 Business cycles and economic policies

Chapter 5 Financial markets and monetary policy

Chapter 6 Public finance and fiscal policies

Chapter 7 Industrial structure and policy

Chapter 8 Labour market

Chapter 9 Saving the cost of capital

Chapter 10 International trade

Chapter 11 International finance

Part III Contemporary Topics

Chapter 12 US — Japan economic conflicts

Chapter 13 The distribution system

Chapter 14 Asset prices; land and equities

Students must submit a report on the chapter to be discussed each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Recommended Readings:

For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, The Xenophobe's Guide to the Japanese, Oval Books, 1999, £3.99. Reading and/or purchase of this latter book is not necessary.

Evaluation:

Class participation and an essay at the end of term

太田 昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Texts:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures) : General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
 2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
 3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures) : the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
 4. Japanese Visits Abroad (2 lectures) : the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways
 5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
 6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
 7. The significance of the Iwakura Mission (1~2 lectures)
 8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures) : comparative analysis of several primary sources
- ☆ Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 2,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

異文化コミュニケーション2 —異文化接触における日本人のアイデンティティー

(2単位) (秋 月5)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2: IDENTITY OF JAPANESE SOJOURNERS

(2 Credits) (Fall Mon 5)

手塚 千鶴子

国際センター助教授

Chizuko Tezuka

Associate Professor, International Center

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Texts:

There is no designated textbook. Handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Tsuda Umeko and Women's Education in Japan by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.

Nitobe Inazo: Japan's bridge across the Pacific by John F. Howes, Westview Press, 1995.

Foreign Studies (translated from Japanese by Mark Williams) by Shusaku Endo, Charles E. Tuttle, 1989.
Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.
Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed. by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.
Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.
Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray T. Donahue, Ablex Publishing Company, 2002.
Japan Encounters The Barbarian: Japanese travelers in America and Europe

日本の文学	(2単位) (秋 水 3)
JAPANESE LITERATURE	(2 Credits) (Fall Wed 3)
アーマー, アンドルー 文学部教授	
Andrew Armour	Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website (www.armour.cc/jilt.htm)

Recommended Readings:

A list reference works and useful links are available on-line.

20世紀日本の文学に与えたヨーロッパ文学の影響	(2単位) (秋 水 5)
THE IMPACT OF WESTERN LITERATURE ON JAPANESE TWENTIETH-CENTURY FICTION	(2 Credits) (Fall Wed 5)
レイサイド, ジェイムス 法学部教授	
James M. Raeside	Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course of lectures is intended to give a selective account of the way that Western literature was received in Japan during the 20th century, and the different ways that Japanese novelists engaged with the genres and techniques of foreign predecessors and contemporaries.

Consideration will be limited to Japanese novelists, though poets will also figure amongst the Western writers. The lectures will follow a basically chronological order, beginning with the Natsume Soseki and ending with Murakami Haruki. Students interested in this course should try to read at least some of the following (names appear without macrons).

Natsume Soseki 夏目漱石 『草枕』
English Translation A Three-Cornered World/ Unhuman Tour
 Nagai Kafu 永井荷風 『墨東奇談』
English Translation: A strange Tale from East of the River
 Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介 『蜘蛛の糸』, 『地獄変』, 『河童』
English Translation "The Spider's Thread"; "The Hell Screen" Kappa
 Tanizaki Junichiro 谷崎潤一郎 『痴人の愛』, 『蓼喰う虫』
English Translation Naomi; Some Prefer Nettles
 Mishima Yukio 三島由紀夫 『愛の渇き』, 『憂国』
English Translation: Thirst for Love; "Patriotism"
 Endo Shusaku 遠藤周作 『沈黙』
English Translation Silence
 Noma Hiroshi 野間宏 『わが塔はそこに立つ』
 (There Stands my Pagoda)
 Oe Kenzaburo 大江健三郎 『新しい人よ眼ざめよ』
English Translation Rouse Up O Young Men of the New Age!
 Murakami Haruki. 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』
English Translation Hard-boiled Wonderland

General surveys of Japanese literature such as those by Donald Keene and Shuichi Kato will also provide good background information.

日本の経済システムにおける政府の役割－規制と介入の特殊性を中心に－ (2単位) (秋 木 4)
THE ROLE OF GOVERNMENT IN THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM: A Critical Look at the Unique Features of Japanese
Regulations and Government Involvement (2 Credits) (Fall Thu 4)
伊藤 規子 商学部助教授
Noriko Ito Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course aims to help the student to understand the Japanese style of economic regulation and how and why the central/local government's involvement in many areas of the economy is distinctive to that of other industrial nations. The lectures will (A) cover the contents of the text book, *'Arthritic Japan'* which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems the Japanese have been facing during the last decade, (B) briefly explain general concepts and approaches in theories of industrial organization, public choice and regulatory economics and (C) survey some distinctively Japanese approaches to developing infrastructure and regulating industries.

Texts:

Edward, J. Lincoln, *Arthritic Japan: the slow pace of economic reform*, Brookings, 2001.

Recommended Readings:

Additional materials will be provided during some sessions if necessary.

芸術と戦争：日本の戦時体制と作家、詩人、評論家 (2単位) (秋 金 3)
THE ART OF WAR: JAPANESE WRITERS, FILMMAKERS, POETS, AND CRITICS UNDER THE WARTIME STATE
(2 Credits) (Fall Fri 3)
ドーシー, ジェームス 国際センター講師 (ダートマス大学助教授)
James Dorsey Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth University)

Course Description:

The course will examine a variety of Japanese literary and critical texts from the 1930s and 1940s, with a focus on those that deal directly or peripherally with the war efforts in China and the Pacific. Students will gain an understanding of the workings and relationship of nationalism, colonialism, censorship, propaganda, publishing practices, interpretive strategies, and the literary imagination.

Texts:

John W. Dower, *War Without Mercy: Race & Power in the Pacific War* (New York: Pantheon Books, 1986), 2000円.

Kawabata Yasunari, *Snow Country*, trans by Edward Seidensticker (New York: Vintage, 1996), 2000円.

Ishikawa Tatsuzō, *Soldiers Alive*, trans by Zeljko Cipris (Honolulu: University of Hawai'i Press, 2003), 2500円.

All other readings will be made available in copy form.

日本経済の展望 (2単位) (秋 金 4)
ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN (2 Credits) (Fall Fri 4)
市川 博也 国際センター講師 (上智大学教授)
Hiroya Ichikawa Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Book:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

NPO/NGO 実践講座 ー日本のケース	(2 単位) (秋 金 4)
REALITY OF NPO/NGO IN THE CASE OF JAPAN	(2 Credits) (Fall Fri 4)
石井宏明	国際センター講師 (ピース ウィンズ ジャパン 渉外)
Hiroaki Ishii	Lecturer, International Center (External Relations, Peace Winds Japan)

Course Description:

Recently NGOs and their activities have become more and more publicized in Japan, since the Hanshin-Awaji Earthquake occurred. Ordinary people who did not have access to NGOs may have a big question, such as “Why does this happen and why is NGO work so important in the Japanese context?”

This course will define the development of Japanese NPO/NGOs and their activities, responding to such questions, and examine the role of NGOs, especially in the field of international cooperation.

Through introducing the “live” activities of various kinds of NGOs, this course will show the real pictures of Japan-based NGOs as well as the environment surrounding them. Students could also learn strength and weakness of NGOs, particularly in the Japanese context, and the relations with other agencies such as the government, military forces, UN, and business sectors.

Guest speakers from NGOs and other players related to NGO's activities would be invited to address in the course. Handouts will be periodically provided during the class session, and the lecturer will introduce some relevant reading materials.

Students should be able at the end of the course to:

1. Understand the definition and the diversity of NGOs and their activities, particularly in humanitarian assistance.
2. Develop a basic knowledge of NGO activities, including implementation of project implementation, advocacy, administration activity, public relations, and so on, through lecture, guest speech.
3. Acquire practical methodology throughout the group activity in terms of how an NGO can be organized and develop its capacity.

日本の宗教：救済の探求	(2 単位) (秋 金 4)
RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION	(2 Credits) (Fall Fri 4)
ナコルチェフスキー, アンドリイ	文学部助教授
Andrei Nakortchevski	Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as “Religions in Japan” and not as “Japanese Religions.” Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion - Shinto and maybe some eclectic so called “new religions”, and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities - art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle - “In Search of Salvation.” Especially this aspect becomes important when we deliberate “new religions”, including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

体 育 科 目〔三田設置〕

(体育研究所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板(西校舎)に、日吉設置科目については、体育科目掲示板(日吉J11番教室前)にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目(日吉)の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技A(ウィークリー・スポーツ)が、8科目(テニス、バレーボール、フットサル、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス)開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技A」、「体育実技B」の4科目があります。学部、学科によって科目の取り扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください(学事センターで閲覧できます)。

- (1) 体育学講義 (2単位).....「身体」「健康」「運動」等に関する講義。
- (2) 体育学演習 (1単位)..... 講義+実習による演習形式の授業。
- (3) 体育実技A (1単位).....「身体活動」実技 A~Dの4段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ
- (4) 体育実技B (1単位).....「身体活動」実技 P(合)・F(否)(Pass/Fail)の2段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ

体育実技には「体育実技A」と「体育実技B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。なお、「体育実技A」と「体育実技B」、ともにウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツがあります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ..... 週1回半年(春学期または秋学期)の授業。

シーズン・スポーツ..... 夏季休業中(7月~9月)または春季休業中(2月)の7日間の授業。ただし、合宿科目は原則として3泊4日。

3 2003年度以前に入学した諸君へ

2004年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 履修方法について

体育実技を履修する場合は、以下の事項に留意して履修申告してください。

(1) 体育科目ガイダンス

体育科目を履修する場合は、体育科目ガイダンスに出席し、履修方法の説明を聞いてください。

日時・場所 4月5日(月)2限および5限 519番教室(西校舎、いずれの時限も同じ内容です。)

(2) 定期健康診断

体育実技を履修する場合、保健管理センターが行う定期健康診断を受診していることが前提条件となります。現在、運動に制限のある治療中の病气・ケガがある場合は、必ず健康診断時に診断書を持参してください(制限内容の記載のあるもの)。診断書がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますので注意してください。健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと体育実技の履修はできません。

体育実技を履修する学生は必ず日吉で健康診断を受けてください。その際、日吉の健康診断受付窓口で三田在籍の学生であることを申し出て、以下の健康診断項目をすべて受診してください。

【健康診断項目】

計測（身長・体重） 視力 検尿 血圧
胸部X線 ヘルスチェック 内科（指示された者） 心電図（同左）

【実施場所】

日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

(受付時間)		9:00～11:00	13:00～15:30	(受付時間)		9:00～11:00	13:00～15:30
4月14日	水	男子(10時開始)	男子	4月20日	火	男子	男子
15日	木	女子	女子	21日	水	女子	男子
16日	金	男子	男子	22日	木	男子	男子
17日	土	女子	男子	24日	土	男子	男子
19日	月	男子	女子	26日	月	男子	

- * この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する健康診断を受けることになります。その場合は、該当学年の健康診断項目を受診してください。
- * 健康診断の結果、「体育2」または「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター7番窓口に応じてください。
- * 授業開始時までに健康診断を受けていない場合は、必ず授業担当者に申し出てください。

(3) 履修申告

体育科目の履修申告は、体育研究所三田設置科目（体育実技A）と日吉設置科目（体育実技A、体育実技B、体育学演習、体育学講義）で申告方法が異なるので注意してください。

ア 三田設置科目

- (ア) 履修者数の調整は第1週目の授業時に行います。体育研究所時間割（三田諸研究所時間割に掲載）を参照の上、第1週目の授業で、体育研究所許可証を受け取ってください。秋学期についても同時に行います。
- (イ) 第1週目の授業に出席できない者は、4月8日（木）から14日（水）の12:30から14:00まで（日曜を除く）、三田綱町グラウンド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行します。そこで許可証取得の手続きをしてください。第2週目以降は、各授業担当者より許可証を受け取ってください。
- (ウ) 履修申告期間に学事Webシステムによる履修申告を行ってください。

イ 日吉設置科目

- 体育科目時間割（日吉）を参照の上、希望する体育科目を選択し、指定期日に履修申告してください。
- (ア) 学事Webシステムによる履修申告が必要です。履修申告用紙の場合は、必ずコピーしておいてください。
- (イ) 各学部履修案内をよく読んで、正確に履修申告してください。
- (ウ) 秋学期科目を履修する場合も必ず履修申告しておいてください。

(4) 日吉設置科目の履修者数の調整

日吉設置の体育実技A、体育実技Bおよび体育学演習については、定員を上回る履修希望者がいた場合、抽選による履修者数の調整を行います。調整結果は以下のとおり掲示しますので、履修申告した者は、履修の可否を必ず確認してください。

ただし、体育学講義は、抽選による履修者数の調整は行いません。

(日吉設置科目)

調整結果発表 4月24日（土）

9:00 日吉 体育科目掲示板（第4校舎B棟1階J11番教室前）

10:30 三田 共通掲示板（西校舎）

なお、三田、日吉の追加履修できる体育実技および体育学演習についても、同時に発表します。

(5) 追加履修

履修調整の結果、定員に余裕のある体育実技および体育学演習は追加履修することができます。追加履修のためには、①体育研究所許可証の取得と、②修正申告の2つの手続きが必要です。

ただし、追加履修の扱いは学部により異なります。所属学部の履修要項を確認してください。

※ 履修者数調整結果を再確認し、誤りのないようにしてください。

○ ウィークリー・スポーツ、シーズン・スポーツ（共に、体育実技A、体育実技B）と体育学演習の追加履修手続き

① 体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について、以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	受付場所
4月26日(月) 9:15~11:30, 12:30~16:00 27日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00	体育研究所(陸上競技場側)
4月28日(水) から5月修正申告期間終了まで (平日) 8:45~17:00 (土) 8:45~14:15	日吉学事センター 7番窓口

(注) 以上のいずれかで「体育研究所許可証」を取得してください。

② 修正申告(学事センター)

体育研究所許可証にもとづき、学事センターで修正申告期間終了までに修正申告をしてください。

◎ 以上①, ②いずれの手続きが不足しても追加履修はできません。

(6) シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

シーズン・スポーツのうち、以下の合宿形式6科目については、指定期間内に実技費用を納入してください。

実技費用納入科目
アウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット

① 実技費用納入日時

4月24日(土) 8:45~14:15
26日(月)~30日(金) 8:45~17:00(祝日を除く)

② 実技費用納入場所(証紙貼付)

日吉学事センター 7番窓口(納入用紙交付)

※ 上記の科目は、履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

※ 費用が納入期間に間に合わない場合は、窓口で相談してください。

※ 実技費用納入締め切り後、なお人員に余裕のある科目については追加履修を受け付けます(実技費用納入順, 前(5)項参照)。

体育実技実施要項〔三田設置科目〕

体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

〈球技〉

体育実技 A (テニス)

(初級)

平田 大輔

〔授業の目的〕

テニスの技術だけでなく、マナーやルールを学び、生涯スポーツとしてテニスを楽しめるようにする。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

ラケット、テニスシューズは各自で準備。

体育実技 A (テニス)

(中級)

平田 大輔

〔授業の目的〕

いままでの技術のさらなる向上を目指し、試合に生かせるようにする。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

ラケット・テニスシューズは各自で準備。

体育実技 A (テニス)

(上級)

堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット、シューズ (ハードまたはオールコート用)

体育実技 A (テニス)

(中級～打ち合いで安定して 10 往復以上続けられる方)

村松 憲

〔授業の目的〕

試合を楽しむために必要な技術・戦術を学びます。また、エチケット、ルールを再確認します。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

- ・テニスシューズ
- ・テニスラケット

体育実技 A (バレーボール)

野口 和行

〔授業の目的〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを

促進する。生涯スポーツとして楽しめるようにバレーボールを実践する。

〔実施場所〕

網町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装、屋外シューズ

体育実技 A (フットサル)

(初心者、経験者問わず)

須田 芳正

〔授業の目的〕

フットサルの基本的技術、戦術を習得するとともに、フットサルの楽しさを味わってもらうことを目的とする。

〔実施場所〕

銀座 de フットサル 田町スタジアム

〔服装・携行品・その他〕

スポーツのできる格好。

〈武道〉

体育実技 A (合気道)

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通して、心と身体の正しい使い方を学ぶ。心身統一を、日常の一挙手一投足で活用できるように修得する。

〔実施場所〕

網町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

- ・道着は貸与
- ・タオル (汗をふく為)
- ・Tシャツ (女子のみ)
- ・道着を持ち運ぶバッグ等

体育実技 A (弓術)

小笠原 清忠

〔授業の目的〕

弓術ウィークリー・スポーツの授業は、射法、射術の習得を目標とします。スポーツは動的なものです。弓術は静的なもので、相対する対して己の心のあり方が求められます。練習では常に正しい心のあり方、至誠と礼節を重んじることにあります。

〔実施場所〕

網町グラウンド 武道館 (正巴弓道場)

〔服装・携行品・その他〕

服装は運動の出来る服装 (ボタンや胸ポケットのないもの)。靴下または足袋を持参すること。

体育実技 A (剣道)

(初心者から有段者まで)

吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめで行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の實力アップを図りましょう。そ

して、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

網町グランド 武道館（剣道場）

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可） 手ぬぐい
※ 剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

体育実技 A（柔道）

（初心者，経験者を問わない～男女共習） 安藤 勝英

〔授業の目的〕

柔道を通して技術，体力の向上を図り，これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法，受身，正しい技の掛け方等をより深く解説する。

また，見る柔道の立場から，国際，国内ルールを説明する。

更に，昇段希望者には，この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

網町グランド 武道館（柔道場）

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣（希望者には貸与する），タオル，Tシャツ（女子のみ）

〈個人種目〉

体育実技 A（ダンス）

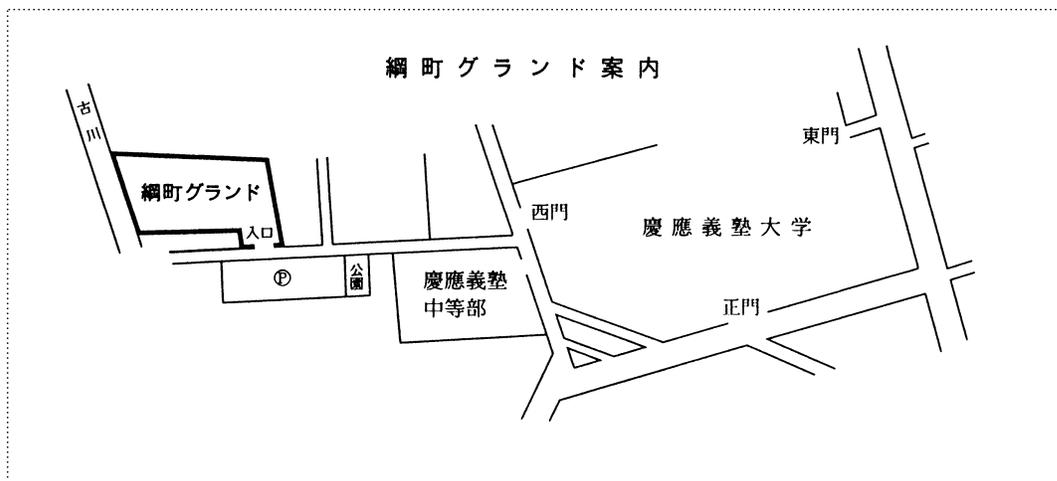
「ボールルームダンス」（入門及び初級） 篠原 しげ子

〔授業の目的〕

各種目のリズムの特徴を理解し動けるようになる。他のダンスと異なり，組んで踊るので相手の動きも理解し，協力して動けるようになる。

〔実施場所〕

網町グランド 武道館（剣道場）



平成 16 (2004) 年度 体育実技 A・体育実技 B (シーズン・スポーツ) 実施要領一覧〔日吉設置科目〕

実施月 (学期)	科 目	定員	実 施 日 程 (開始時間)	実 施 場 所	備 考
7・8月 (春)	体育実技 A (空手)	40	7/28 (水) ~ 8/4 (水) 日曜を除く 7 日間 (10:00)	空手部道場 (蝮谷)	
	体育実技 A (弓術)	40	〃 (9:00)	志正弓道場 (〃)	¥500 (教本)
	体育実技 A (少林寺拳法)	30	〃 (9:00)	拳法道場 (〃)	
	体育実技 A (水泳)	50	〃 (13:00)	日吉プール	
	体育実技 A (軟式野球)	40	〃 (9:30)	日吉台野球場 (蝮谷)	
	体育実技 B (山岳) (合宿)	50	8/3 (火) ~ 6 (金)	八ヶ岳連峰 (長野)	¥35,000 ※ (交通費除く)
	体育実技 B (馬術) (合宿)	36	7/29 (木) 8:00 日吉 ~ 8/1 (日)	馬術競技場 (山梨)	¥49,000 ※ (交通費含む)
体育実技 B (ヨット) (合宿)	40	8/2 (月) 14:00 ~ 5 (木)	ヨット部合宿所 (神奈川・三浦)	¥37,000 ※ (交通費除く)	
9月 (秋)	体育実技 A (器械体操) (新体操含む~女子のみ)	30	9/13 (月) ~ 22 (水) 土曜・日曜・祝日を除く 7 日間 (15:00)	日吉記念館	
	体育実技 A (端艇)	20	9/15 (水) ~ 24 (金) 日曜・祝日を除く 7 日間 (9:00)	端艇部戸田艇庫 (埼玉)	埼京線戸田公園駅 下車 10 分
	体育実技 B (バレーボール) 「夏のバレーボール」	30	9/15 (水) ~ 22 (水) 日曜・祝日を除く 6 日間 (10:00)	日吉記念館	
	体育実技 B (アウトドア レクリエーション) (合宿)	50	9/2 (木) ~ 6 (月)	慶應義塾立科山荘 (長野)	¥26,000 ※ (交通費除く)
2月 (秋)	体育実技 B (スキー) (合宿)	150	2/8 (火) ~ 11 (金)	志賀高原発晴温泉スキー場 (長野)	¥45,000 ※ (交通費除く)
	体育実技 B (スケート) (合宿)	40	2/7 (月) ~ 10 (木)	軽井沢スケートセンター (長野)	¥27,000 ※ (交通費除く)

※ 合宿科目費用納入

納入日時 4月24日(土)~30日(金) 8:45~17:00 (ただし、土曜は、14:15まで)

納入場所 日吉学事センター7番窓口

(費用が納入期間に間に合わない場合は、窓口で相談してください。)

- 終了時間等の質問については、初回授業で担当者に聞いてください。

知的資産センター設置講座（平成 16 年度開講）

1. 知的資産センター設置講座開講にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として 1998 年 11 月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとして広大な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果に対する特許保護から始め、技術の移転、起業の支援と段階的に拡充していく計画です。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化してきました。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一貫として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開講しました。

2. 設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の 1 科目を、春学期三田キャンパスで開講します。

授業時間は 18:10~19:40、単位は 2 単位です。その他授業に関する情報は、三田共通掲示板（西校舎 1 階）、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、各学部窓口で履修申告をしてください。

3. 講義要綱

知的資産概論 ―知的財産の保護と活用をめぐる課題―
(ナテグリニド特別講座)

コーディネーター 知的資産センター所長（商学部教授）清水 啓 助

授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著、慶應義塾大学出版会

授業の計画：

- 1 知的財産の新たな時代
- 2 特許の仕組み
- 3 著作権の仕組み
- 4 マルチメディアに関する知的財産

- 5 知的財産の契約
- 6 商標ブランドの価値
- 7 知的財産の裁判
- 8 著作権処理に関する問題
- 9 企業における知的財産戦略
- 10 知的財産に関する世界の動向
- 11 知的財産の紛争処理
- 12 ベンチャー・起業の仕組み
- 13 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点及びレポートによる評価

質問・相談：

授業の最後に質疑の時間を設けます。